

令和 5 年度
名古屋市立大学大学院薬学研究科
自己点検・評価報告書

2023

目次

1	博士学位取得者	1
2	修士学位取得者	
3	講演会等(2023 年 1 月から 2023 年 12 月)	
4	研究業績目録(2023 年 1 月から 2023 年 12 月)	
	薬化学分野	
	精密有機反応学分野	
	薬品合成化学分野	
	生体超分子システム解析学分野	
	コロイド・高分子物性学分野	
	生命分子構造学分野	
	分子生物薬学分野	
	薬物送達学分野	
	生薬学分野	
	衛生化学分野	
	遺伝情報学分野	
	細胞分子薬効解析学分野	
	病態生化学分野	
	薬物動態制御学分野	
	病態解析学分野	
	細胞情報学分野	
	神経薬理学分野	
	医薬品安全性評価学分野	
	病院薬剤学分野	
	臨床薬学分野	
5	科学研究費等補助金	
6	新聞報道等(2022 年 1 月から 2022 年 12 月)	
7	進路および就職状況	
8	在籍者名簿	

1 博士学位取得者

学位記 番号	博士の専攻 分野の名称	博士の学位を授与された者		博士課程の修了等の状況		博士論文名	授与年月 日	主査	副査 (指導教員)	副査	副査	副査
		(ふりがな) 氏名	性別	大学院名	研究科 (専攻)名							
甲第 388号	博士 (薬科学)	(あるぐら-び- は-みど さ -でいく はり-る) ALGHURABI HAMID SADEQ KHALEEL	男	名古屋市立 大学大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	Eudragit S100-Coated Bile Salt- Containing Liposomes for Oral Colonic Drug Delivery (経口大腸デリバリーを指向した Eudragit S100 コーティング胆汁酸塩含有リポソーム の粒子設計)	R4.9.26	湯浅 博昭	尾関 哲也	松永 民秀	中川 秀彦	
甲第 389号	博士 (薬科学)	(てい かぶん) 丁 科文	男	名古屋市立 大学大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	生薬ニンジンの修治に関する研究～免疫賦 活作用の増強について	R4.9.26	山村 壽男	牧野 利明	肥田 重明	梅澤 直樹	
甲第 390号	博士 (薬学)	(みにに ふみえ) 三谷 文美絵	女	名古屋市立 大学大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	がんにおける細胞外小胞産生亢進メカニズ ムの解明	R4.9.26	青山 峰芳	小根山 千歳	肥田 重明	井上 靖道	青木 正博
甲第 391号	博士 (薬科学)	(いしい けいすけ) 右井 圭介	男	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	発達期の脳形成におけるリーリンの機能 と、リーリン欠損に対するリーリントンパ ク質補充効果	R5.3.24	青山 峰芳	服部 光治	田中 正彦	矢木 宏和	
甲第 392号	博士 (薬科学)	(おがわ いさむ) 小川 勇	男	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	ヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドの新規 培養法の確立	R5.3.24	湯浅 博昭	松永 民秀	頭金 正博	田中 正彦	
甲第 393号	博士 (薬科学)	(さいとう たいき) 齋藤 泰輝	男	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	分泌経路上でタンパク質の糖鎖修飾を規定 するメカニズムの解明	R5.3.24	林 秀敏	加藤 晃一	中川 秀彦	服部 光治	矢木 宏和

甲第 394号	博士 (薬科学)	(なかにし あんな) 中西 杏菜	女	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	イベルメクチンの抗HBV作用とその作用機 序解析	R5.3.24	肥田 重明	松永 民秀	宇田川 剛	林 秀敏	
甲第 395号	博士 (薬学)	(あきの しょうご) 秋野 翔伍	男	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	リソソーム膜局在性排出トランスポーター としてのDIRC2/SLC49A4の機能的同定	R5.3.24	山村 壽男	湯浅 博昭	伊藤 佐生智	岩尾 岳洋	
甲第 396号	博士 (薬学)	(いながき そう) 稲垣 奏	男	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	ラット大動脈平滑筋細胞におけるミトフュ ージンの生理機能の解明	R5.3.24	白根 道子	山村 壽男	大矢 進 (医)	河野 孝夫	
甲第 397号	博士 (薬学)	(おおつか ゆうと) 大塚 勇斗	男	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	破骨細胞分化を促進する微小環境形成細胞 の骨破壊疾患への関与	R5.3.24	松永 民秀	青山 峰芳	平嶋 尚英	井上 靖道	
甲第 398号	博士 (薬学)	(かわで あきこ) 川出 希子	女	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	肺高血圧症における好発年齢モデル動物の 確立とコロソリン酸による病態改善効果	R5.3.24	牧野 利明	山村 壽男	伊藤 佐生智	岩尾 岳洋	
甲第 399号	博士 (薬学)	(きたの たくま) 北野 拓真	男	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	炎症初期におけるIL-3依存的な好塩基球 の局所変化と活性化制御	R5.3.24	林 秀敏	肥田 重明	青山 峰芳	頭金 正博	
甲第 400号	博士 (薬学)	(こばやし りほ) 小林 里帆	女	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	ショウジョウバエを用いた睡眠関連遺伝子 の機能解析	R5.3.24	星野 真一	糸 和彦	飯島 浩二 (客員 教授)	井上 靖道	

甲第 401号	博士 (薬学)	(とくがわ 宗成) 徳川 宗成	男	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	強心配糖体 periplocin による小胞体スト レス応答とがんドライバー分子 c-Myc の制 御を介した抗がん活性メカニズムの解析	R5. 3. 24	星野 真一	林 秀敏	中川 秀彦	牧野 利明	
甲第 402号	博士 (薬学)	(もり 泰毅) 森 泰毅	男	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	神経性勃起不全に対する新規治療法の開発	R5. 3. 24	青山 峰芳	松永 民秀	中川 秀彦	肥田 重明	
甲第 403号	博士 (薬学)	(やました 美紗季) 山下 美紗季	女	名古屋市立 大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専 攻	ヒト人工多能性幹細胞由来脳毛細血管内皮 細胞の分化誘導法の開発	R5. 3. 24	糸 和彦	松永 民秀	山村 壽男	湯浅 博昭	

2 修士学位取得者

学位 番号	分野名	性 別	氏 名	論 文 題 目	日付	主査	副査	副査	副査
2299	神経薬理学	女	GARIBAGAOLU RABIA	Lifespan and activity alterations by diet in <i>Drosophila melanogaster</i>	R4. 9. 26	条	頭金	肥田	鈴木 善幸
2300	生薬学	女	YANG HUANGQIZI	Screening of crude drug extracts that can prevent podocyte injury by lenvatinib.	R4. 9. 26	牧野	肥田	梅澤	-
2301	生薬学	男	王 慶源	イソマルトース加熱産物の in vivo 免疫調節活性	R4. 9. 26	牧野	頭金	伊藤	-
2302	薬化学	女	鳥居 志深	フォトレドックス触媒を用いたジメチルアミノ基の光脱メチル化反応の解析	R5. 3. 24	中川	中村	井上	-
2303	薬化学	女	野中 美香	光誘起電子移動を利用したりん光プローブの開発	R5. 3. 24	中川	梅澤	林	-
2304	薬化学	女	吉川 侑佳	PeT 型 NO ドナーの NO 放出部位の置換基効果の検証	R5. 3. 24	中川	池田	矢木	-
2305	精密有機反応学	女	加藤 舞子	一時的環状化による生物活性ペプチドの活性制御と細胞内移行	R5. 3. 24	梅澤	中川	尾関	-
2306	精密有機反応学	男	林 優樹	可逆的共有結合を用いた、ペプチド立体構造と機能の制御	R5. 3. 24	梅澤	池田	山中	-
2307	薬品合成化学	男	瀧川 皓太郎	スピロリド D の合成研究：1, 3-双極付加環化反応を用いる立体選択的な E 環部の構築	R5. 3. 24	中村	中川	石内	-
2308	薬品合成化学	男	野口 公寛	カドコッシラクトン A の合成研究 ～[4+3]付加環化反応による C 環形成～	R5. 3. 24	中村	梅澤	池田	-
2309	コロイド・ 高分子物性学	女	平井 綾音	高分子水溶液中でのマイクロゲル粒子の収縮挙動の研究	R5. 3. 24	山中	平嶋	田上	-
2310	コロイド・ 高分子物性学	男	藤澤 貫平	高分子共存下での荷電コロイド粒子の結晶化挙動	R5. 3. 24	山中	尾関	田中	-

2311	コロイド・ 高分子物性学	女	山口 めぐみ	二次元金コロイド結晶の構築とセンシング材料への応用	R5.3.24	山中	平嶋	梅澤	-
2312	生命分子構造 学	女	沈 佳娜	抗体分子中に隠された補体第一成分との結合部位に関する NMR 解析	R5.3.24	加藤	肥田	田中	-
2313	生命分子構造 学	男	西村 誠司	乾眠の分子機構の解明に向けたクマムシ固有タンパク質 CAHS の性状解析	R5.3.24	加藤	山中	尾関	-
2314	生命分子構造 学	女	山本 栞	ゴルジ体断片の分画に基づく糖転移酵素の局在機構の探査	R5.3.24	加藤	平嶋	星野	-
2315	分子生物薬学	男	山本 敬太郎	小胞体リソソーム間タンパク質 TMEM55B による ERphagy の制御機構	R5.3.24	白根	星野	山村	-
2316	薬物送達学	男	神谷 宝	鉄ナノ粒子を含有する機能性ナノコンポジット粉末吸入剤の開発	R5.3.24	尾関	山中	岩尾	-
2317	薬物送達学	男	恒川 勇太	アルベカシン封入リポソーム吸入剤の製剤設計	R5.3.24	尾関	平嶋	頭金	-
2318	薬物送達学	女	HEMAT MOSTAFA KAMAL ATTIA ELSAYED	Preparation and characterization of liposome containing tosylflouxacin-cyclodextrin inclusion complex	R5.3.24	尾関	湯浅	松永	-
2319	生薬学	男	日置 真太郎	ウマノスズクサのアルカロイド生合成酵素遺伝子の単離と機能解析	R5.3.24	牧野	中川	河野	-
2320	生薬学	女	満仲 安紀	中国伝統医学処方 X とその変方における補腎作用に関する研究	R5.3.24	牧野	青山	伊藤	-
2321	遺伝情報学	男	石川 裕之	オリゴアデニル酸合成酵素 OAS による新規 RNA3' 末端修飾と mRNA 代謝制御	R5.3.24	星野	糸	中津海	-
2322	遺伝情報学	男	中北 侑希	がん抑制遺伝子産物 BTG3 による mRNA ポリ A 鎖分解抑制機構	R5.3.24	星野	白根	石内	-

2323	遺伝情報学	女	西井 由佳	人工 mRNA の発現を効率化する技術の開発	R5.3.24	星野	青山	河野	-
2324	細胞分子薬効 解析学	女	加藤 由納	肺高血圧症患者由来肺動脈平滑筋細胞の周期における TRPC6 チャネルの役割	R5.3.24	山村	白根	大澤	-
2325	細胞分子薬効 解析学	男	川田 成紀	門脈平滑筋に発現するカルシウム活性化クロライド TMEM16A チャネルのカベオリン 1 による制御	R5.3.24	山村	肥田	大矢 (医)	-
2326	細胞分子薬効 解析学	女	中島 七海	CaMKK2 ノックアウトマウスを用いた血管リモデリングに対する CaMKK2 の役割の解明	R5.3.24	山村	糸	田中	-
2327	病態生化学	男	安藤 飛悠吾	神経細胞膜を構成するスフィンゴ脂質の分布に対するリーリンの影響	R5.3.24	服部	林	矢木	-
2328	病態生化学	男	梅村 悠太	アミノリン脂質フリッパーゼ欠損による神経疾患の発症機構に関する研究	R5.3.24	服部	宇田川	大澤	-
2329	病態生化学	男	大宅 真太郎	神経細胞膜流動性の局所的な差異の意義に関する研究	R5.3.24	服部	青山	白根	-
2330	薬物動態制御学	男	難波 知堯	コリンの小腸吸収における上皮細胞取込に働く新規トランスポーターの機能解析	R5.3.24	湯浅	糸	岩尾	-
2331	薬物動態制御学	女	牧平 伊代	脳で高発現する新規カチオントランスポーターの機能探索：ethidium 輸送活性の利用	R5.3.24	湯浅	山村	井上	-
2332	病態解析学	女	加藤 里菜	神経芽腫に対する細胞周期チェックポイント阻害剤併用による抗腫瘍効果の検討	R5.3.24	青山	岩尾	中津海	-
2333	病態解析学	男	福田 直哉	TRPV4 を介した低体温療法によるミクログリア活性化抑制機序の解析	R5.3.24	青山	田上	松永	-
2334	細胞情報学	男	安達 晴喜	脱ユビキチン化酵素 USP2 による転写共役因子 TAZ 発現制御の解析	R5.3.24	林	肥田	頭金	-
2335	細胞情報学	女	鯨井 千実	アカネ由来環状ヘキサペプチドの多発性骨髄腫に対する抗腫瘍活性の作用機序の解析	R5.3.24	林	牧野	梅澤	-

2336	神経薬理学	男	酒井 皓介	ショウジョウバエのアミノ酸トランスポーターによる睡眠制御機構	R5.3.24	糸	服部	関谷	-
2337	神経薬理学	女	西 風花	マウスにおける、グリア細胞活性の活動・休息への影響	R5.3.24	糸	山村	井上	大澤
2338	神経薬理学	男	三宅 遼	睡眠要求指標リン酸化タンパク質群(SNIPPs)による睡眠制御の網羅的解析	R5.3.24	糸	飯島	中津海	-
2339	レギュラトリーサイエンス	男	家田 維哉	医療情報データベースを活用した抗菌薬による薬剤性急性腎障害の発症リスク及び慢性腎臓病へ移行するリスクの評価	R5.3.24	頭金	松永	大澤	-
2340	レギュラトリーサイエンス	男	伊藤 潤	化学構造情報からヒトの皮膚感作性を予測する機械学習モデルの開発	R5.3.24	頭金	奥菌	糸	-
2341	レギュラトリーサイエンス	女	片山 早紀	ナショナルレセプトデータベースを使用したワルファリンに対する直接経口抗凝固薬(DOAC)の有用性に関する研究	R5.3.24	頭金	鈴木	牧野	-
2342	レギュラトリーサイエンス	女	中森 瑞季	モガムリズマブ投与患者における重篤な皮膚障害の発症に関連するバイオマーカーの探索研究	R5.3.24	頭金	肥田	岩尾	-
2343	臨床薬学	女	岩崎 萌実	薬物評価や病態解明への応用に向けたヒト iPS 細胞由来ポドサイトの作製	R5.3.24	松永	青山	井上	-
2344	臨床薬学	男	深谷 壮弥	小腸-肝臓連結 Microphysiological System の構築と創薬への応用	R5.3.24	松永	湯浅	頭金	-

3 講演会等

(2023年1月から2023年12月)

開催日： 2023年12月13日
講演会： 名市大若手イブニングセミナー
講師： 藤野 公茂 助教
所属： 名古屋大学大学院 工学研究科
演題： 非タンパク質性アミノ酸含有ペプチドの翻訳合成
世話分野： 薬化学分野

開催日： 2023年9月19日
講演会： 薬学会東海支部特別講演会
講師： Thomas Palberg 教授
所属： Johannes Gutenberg University, Germany
開催場所： 名古屋市立大学 薬学研究科
世話分野： コロイド・高分子物性学分野

開催日： 2023年9月19日
講演会： 薬学会東海支部特別講演会
講師： Jitendra Mata 博士
所属： Australian Nuclear Science and Technology Organization
開催場所： 名古屋市立大学 薬学研究科
世話分野： コロイド・高分子物性学分野

開催日： 2023年3月14日
講演会： 第27回 ExCELLS セミナー
講師： 戸島 拓郎 博士
所属： 理化学研究所 光量子工学研究センター
生細胞超解像イメージング研究チーム 上級研究員
演題： 高速超解像顕微鏡によるゴルジ体の時空間動態解析
場所： 自然科学研究機構 山手キャンパス 3号館 大会議室
世話人： 加藤晃一，矢木宏和

開催日： 2023年5月16日
講演会： 第29回 ExCELLS セミナー
講師： 岡 瑞起 博士
所属： 筑波大学大学院システム情報工学研究科 准教授
演題： Towards open-ended evolution in artificial systems
場所： 自然科学研究機構 山手キャンパス 3号館 大会議室
世話人： 加藤晃一

開催日： 2023年5月27日
研究会名： 【研究会】生命の分子システムの理解に向けて何を創れば良いか？
場所： 自然科学研究機構 山手キャンパス 3号館 大会議室
世話人： 秋山修志，加藤晃一

開催日： 2023年7月19日
講演会： 第31回 ExCELLS セミナー
講師： 甲賀 大輔 博士
所属： 旭川医科大学 解剖学講座 顕微解剖学分野 准教授
演題： 走査電子顕微鏡によるゴルジ装置の3D形態解析

場所： 自然科学研究機構 山手キャンパス 3号館 大会議室
世話人： 加藤晃一， 矢木宏和

開催日： 2023年11月10日
講演会： 第34回 ExCELLS セミナー
講師： Dr. Christian GRIESINGER
所属： Professor, Max Planck Institute for Multidisciplinary Sciences
演題： Small molecules triggering transmembrane signaling and interfering with aggregation important in neurodegeneration

場所： 自然科学研究機構 山手キャンパス 3号館 大会議室
世話人： 加藤晃一， 谷中冴子

開催日： 2023年10月31日
講演会： 第96回日本生化学会大会 シンポジウム
講師(所属)： 田村 康(山形大)、河野 望(東大)、西村 多喜(東大)、中津 史(新潟大)、田村 朋則(京大)、白根 道子(名市大)
演題： 脂質ライフサイクルによるオルガネラ動態制御
場所： 福岡国際会議場
世話人： 白根 道子、田村 康

開催日： 2014年3月4日
講演会： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師： Professor Gordon L. Amidon
所属： The University of Michigan
演題： BCS (biopharmaceutics classification system) and relevant subjects
世話分野： 薬物動態制御学分野

開催日： 2023年3月14日
講演会： 第27回 ExCELLS セミナー
講師： 戸島 拓郎 博士
所属： 理化学研究所 光量子工学研究センター
生細胞超解像イメージング研究チーム 上級研究員
演題： 高速超解像顕微鏡によるゴルジ体の時空間動態解析
場所： 自然科学研究機構 山手キャンパス 3号館 大会議室
世話人： 加藤晃一， 矢木宏和

開催日： 2023年7月19日
講演会： 第31回 ExCELLS セミナー
講師： 甲賀 大輔 博士
所属： 旭川医科大学 解剖学講座 顕微解剖学分野 准教授
演題： 走査電子顕微鏡によるゴルジ装置の3D形態解析
場所： 自然科学研究機構 山手キャンパス 3号館 大会議室
世話人： 加藤晃一， 矢木宏和

開催日： 2023年11月10日
講演会： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師： 小嶋 良輔 准教授

所属： 東京大学大学院 医学系研究科 生体物理医学専攻 医用生体工学講座
演題： 合成生物学的手法を用いた細胞外小胞の包括的理解と発展的利用
場所： 名古屋市立大学大学院薬学研究科 講義室5
世話人： 矢木宏和

開催日： 2023年12月18日
講演会： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師： 松本 有樹修 教授
所属： 名古屋大学 大学院理学研究科 理学専攻 生命理学講座 分子発現制御学グループ
演題： Translatome 解析を基軸とした生命分子基盤の解明
場所： 名古屋市立大学大学院薬学研究科 会議室
世話人： 矢木 宏和

開催日： 2023年3月6日
講演会： The 31st IBS Seminar
講師： Professor Gerald Zamponi
所属： University of Calgary
演題： Molecular and neuronal circuit basis of chronic pain
世話分野： 細胞分子薬効解析学分野

開催日： 2023年4月19日
講演会： 第32回IBSセミナー
講師： 三好悟一教授
所属： 群馬大学医学部
演題： 自閉症スペクトラム症の発症臨界期機構の解明
世話分野： 病態生化学分野

4 研究業績目録

(2023年1月から2023年12月)

【薬化学分野】

(原報)

Naoya Ieda, Mitsuyasu Kawaguchi, and Hidehiko Nakagawa.

Substituent Effects at the N-Nitrosoaminophenol Moiety of a Photoinduced-Electron-Transfer-Driven Nitric Oxide Releaser

Chem. Pharm. Bull., 71, 447-450 (2023).

Naoya Ieda, Masato Sawada, Runa Oguchi, Masato Itoh, Seina Hirakata, Daisuke Saitoh, Akito Nakao, Mitsuyasu Kawaguchi, Kazunobu Sawamoto, Toshitada Yoshihara, Yasuo Mori, and Hidehiko Nakagawa.

An Optochemical Oxygen Scavenger Enabling Spatiotemporal Control of Hypoxia

Angew. Chem. Int. Ed., 62, e202217585 (2023).

Daisuke Saitoh, Ayumi Suzuki, Naoya Ieda, Zuoyue Liu, Yasuko Osakada, Mamoru Fujitsuka, Mitsuyasu Kawaguchi, and Hidehiko Nakagawa.

Photoinduced NO-Release from Polymer Dots Doped with an Ir(III) Complex and N-Methyl-N-nitroso-4-aminophenol

Org. Biomol. Chem., 21, 2983-2989 (2023).

Zuoyue Liu, Yuta Okada, Yuma Ichinose, Daisuke Saitoh, Naoya Ieda, Seiji Yamasaki, Kunihiko Nishino, Hidehiko Nakagawa, Mamoru Fujitsuka, and Yasuko Osakada

Vanadyl Naphthalocyanine-Doped Polymer Dots for Near-Infrared Light-Induced Nitric Oxide Release and Bactericidal Effects

ACS Appl. Nano Mater., 6, 1487-1495 (2023).

Taiki Mori, Yuji Hotta, Naoya Ieda, Tomoya Kataoka, Hidehiko Nakagawa, and Kazunori Kimura

Efficacy of a Red-Light Controllable Nitric Oxide Releaser for Neurogenic Erectile Dysfunction; a Study Using a Rat Model of Cavernous Nerve Injury

The World Journal of Men's Health, 41, e16 (2023).

Naoya Ieda, Akira Nakamura, Natsumi Tomita, Kei Ohkubo, Ryo Izumi, Yuji Hotta, Mitsuyasu Kawaguchi, Kazunori Kimura and Hidehiko Nakagawa

A BODIPY-picolinium-cation conjugate as a blue-light-responsive caged group

RSC Advances, 13, 26375-26379 (2023).

(総説・著書・総合論文など)

堀田祐志, 家田直弥

難治性勃起不全の新規治療薬を目指した光制御可能な NO ドナーの開発
アグリバイオ, 265, 73-77 (2023).

(学会発表)

中川秀彦

シン・硫黄生物学と超硫黄ケミカルツール

第 76 回日本酸化ストレス学会, 2023 年 5 月 24-25 日、神戸、S3-2

齋藤大介、北村紗枝、家田直弥、大山享也、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦

10 位置換ローダミンをアンテナとする光制御 NO ドナーの構造活性相関研究

第 21 回次世代を担う有機化学シンポジウム, 2023 年 5 月 26-27 日、名古屋, 1-03

川口充康、吉野克利、森山響、家田直弥、中川秀彦

可視光応答性 sulfane sulfur ドナーの開発

日本ケミカルバイオロジー学会第 17 会年会, 2023 年 5 月 29-31 日、大阪, P-007

平尾景尚、山口遥己、若森久幸、川口充康、家田直弥、中川秀彦

Hydropersulfide の細胞内検出用蛍光プローブの開発

日本ケミカルバイオロジー学会第 17 会年会, 2023 年 5 月 29-31 日、大阪, O-54

齋藤大介、北村紗枝、家田直弥、大山享也、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦【優秀
発表賞】

10 位置換ローダミンをアンテナ構造とする光制御 NO ドナー群の創製研究

創薬懇話会 2023, 2023 年 6 月 8-9 日、湯河原, P-15

中川秀彦、川口充康、吉野克利、家田直弥

光反応性 sulfane sulfur 供与化合物の開発

第 38 回創薬セミナー, 2023 年 7 月 12-14 日、山梨県北杜市, P-7

中川秀彦、中嶋雄哉、川口充康、家田直弥

SIRT 脱アシル化反応検出蛍光プローブと阻害剤スクリーニング

第 38 回創薬セミナー, 2023 年 7 月 12-14 日, 山梨県北杜市, P-8

Daisuke Saitoh, Sae Kitamura, Naoya Ieda, Kyoya Oyama, Yuji Hotta, Mitsuyasu Kawaguchi, Kazunori Kimura, Hidehiko Nakagawa

Structure-Activity Relationship Studies of Photocontrollable NO Releasers Containing 10-Substituted Rhodamines as Antennae

The 31st International Conference on Photochemistry, 2023 年 7 月 23-28 日, 札幌, P25-073

齋藤大介、北村紗枝、家田直弥、大山享也、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦

PeT 駆動型可視光制御 NO ドナーの光吸収部位の構造活性相関研究

第 35 回バイオメディカル分析科学シンポジウム, 2023 年 7 月 28-29 日, 札幌, O4-2

平尾景尚、山口遥己、若森久幸、川口充康、家田直弥、中川秀彦

Development of chemical probes for labeling and fluorescence detection of hydropersulfide

新興硫黄生物学が拓く生命原理変革 (硫黄生物学) 第 3 回領域会議, 2023 年 9 月 16-18 日, 熊本県南阿蘇、P-12

中川秀彦

光誘起電子移動反応を利用した光制御 NO 放出剤と血管弛緩制御への応用

第 96 回日本生化学会, 2023 年 10 月 31 日-11 月 2 日, 福岡, 3S05a-04

家田直弥、中川秀彦

光血管拡張剤を駆使した動物個体における血流の光制御

第 96 回日本生化学会, 2023 年 10 月 31 日-11 月 2 日, 福岡, 1S01e-02

舘実優、家田直弥、川口充康、中川秀彦

ピリジニウムカチオンを用いた可視光応答性ケージド基の光応答性の検討

【精密有機反応学分野】

(原報)

Yosuke Hisamatsu, Fangzhou Cheng, Katsuhiko Yamamoto, Hiroshi Takase, Naoki Umezawa, Tsunehiko Higuchi

Control of the stepwise self-assembly process of a pH-responsive amphiphilic 4-aminoquinoline-tetraphenylethene conjugate

Nanoscale, 15, 3177-3187 (2023).

Chandrasekar Balachandran, Masumi Hirose, Tomohiro Tanaka, Jun Jie Zhu, Kenta Yokoi, Yosuke Hisamatsu, Yasuyuki Yamada, Shin Aoki

Design and synthesis of poly(2,2-bipyridyl) ligands for induction of cell death in cancer cells: Control of anticancer activity by complexation/decomplexation with biorelevant metal cations

Inorganic Chemistry, 62, 14615–14631 (2023)

(総説・著書・総合論文など)

梅澤直樹

「新規モダリティ医薬品のための新しいDDS技術と製剤化」

第7章第1節 (技術情報協会) .

(学会発表)

○久松 洋介、程 方舟、山本 勝宏、高瀬 弘嗣、梅澤 直樹、樋口 恒彦

pH 応答性両親媒性 4-アミノキノリン誘導体の段階的な自己集合挙動

日本薬学会第 143 年会、2023 年 3 月 25 - 28 日 (札幌)

○都築 優斗、樋口 恒彦、矢野 雄紀、山根 健浩、久松 洋介、梅澤 直樹

チオラート配位ヘム錯体類が触媒するプロスタグランジン H₂ 類の高速変換反応

日本薬学会第 143 年会、2023 年 3 月 25 - 28 日 (札幌)

○梅澤 直樹、山口 真史、久松 洋介、樋口 恒彦

非天然ポリアミンの固相合成と DNA 熱安定性に及ぼす効果

日本薬学会第 143 年会、2023 年 3 月 25 - 28 日 (札幌)

○久松 洋介、鳥山 剛、山本 勝宏、梅澤 直樹

両親媒性 4-アミノキノリン誘導体の温度応答性自己集合挙動に基づく分子集合体構築
第 20 回 ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウム、2023 年 6 月 17 - 18 日 (東京)

○鳥山 剛, 久松 洋介, 梅澤 直樹【学生優秀発表賞】

4-アミノキノリン部位を有する双頭型両親媒性分子の自己集合によるナノ構造体の構築
第 69 回日本薬学会東海支部大会, 2023 年 7 月 8 日 (名古屋) (A10-S) .

○鳥山 剛, 久松 洋介, 梅澤 直樹

双頭型両親媒性 4-アミノキノリン誘導体からなる分子集合体の構築
生体機能関連化学部会若手の会 第 34 回サマースクール, 2023 年 7 月 20 - 21 日 (愛知県知多郡) .

○荒川 主真, 加藤 舞子, 井上 靖道, 林 秀敏, 久松 洋介, 梅澤 直樹

一時的環状化による生物活性ペプチドの活性制御と細胞内タンパク質間相互作用阻害に向けた取り組み

生体機能関連化学部会若手の会 第 34 回サマースクール, 2023 年 7 月 20 - 21 日 (愛知県知多郡) .

○荒川 主真, 加藤 舞子, 井上 靖道, 林 秀敏, 久松 洋介, 梅澤 直樹

細胞内で p53/MDM2 タンパク質間相互作用を阻害するペプチド性分子の開発
第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2023 年 11 月 13 - 15 日 (名古屋) (2P-35) .

○樋口 恒彦, 都築 優斗, 久松 洋介, 梅澤 直樹, 劉 珉, 佐伯 和子, 横溝 岳彦

シトクロム P450 ミミクスによるプロスタグランジン H2 の 12-HHT への *in vitro* 変換
第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2023 年 11 月 13 - 15 日 (名古屋) (2P-05) .

【薬品合成化学分野】

(原報)

Takahiro Suzuki, Wataru Ikeda, Ayaka Kanno, Kazutada Ikeuchi, Keiji Tanino
Diastereoselective synthesis of trans-anti-hydrophenanthrenes via Ti-mediated radical cyclization and total synthesis of kamebanin.
Chem. Eur. J., 29, e202203511 (2023).

Kazutada Ikeuchi, Shota Haraguchi, Ryo Fujii, Hidetoshi Yamada, Takahiro Suzuki, Keiji Tanino
Total synthesis of (+)-coriamyrtin via a desymmetrizing strategy involving a 1,3-cyclopentanedione moiety.
Org. Lett., 25, 2751-2755 (2023).

Kazutada Ikeuchi, Yusuke Ozoe, Ranmaru Kato, Takahiro Suzuki, Keiji Tanino
Synthesis of 2-alkyl-2-(2-furanyl)-1,3-cyclopentanediones.
Synthesis, 55, 1525-1532 (2023).

(総説・著書・総合論文など)

中村精一
奨励賞受賞 池内和忠氏の業績.
ファルマシア, 59, 568 (2023).

(学会発表)

吉谷明浩, 捧智成, 加藤蘭丸, 池内和忠, 谷野圭持
ノルボルネン骨格含有三環性化合物の骨格転位によるトリシクロ[4.2.1.03,7]ノナン誘導体の合成.
日本化学会第 103 春季年会, 2023 年 3 月 22 日 (野田) .

廣川勲人, 捧智成, 池内和忠, 谷野圭持
1,4-ビスシロキシ-1,3-シクロペンタジエンを利用した 7-ノルボルナノン骨格構築法の開発.
日本化学会第 103 春季年会, 2023 年 3 月 24 日 (野田) .

瀧川皓太郎, 池内和忠, 中村精一

スピロリド D の合成研究 –1,3-双極付加環化反応を用いる立体選択的な E 環の構築–.

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 26 日 (札幌) .

池内和忠【受賞講演】

構造特性を利用する新規合成手法の開発と天然物合成への応用.

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 27 日 (札幌) .

安藤龍志, 池内和忠, 中村精一【優秀発表賞】

三成分連結法/6-endo 環化によるトランス縮合環構築法の開発.

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 28 日 (札幌) .

池内和忠, 原口翔太, 藤井りょう, 山田英俊, 鈴木孝洋, 谷野圭持

(+)-コリアミルチンの全合成.

第 21 回次世代を担う有機化学シンポジウム, 2023 年 5 月 27 日 (名古屋) .

池内和忠【受賞講演】

1,3-シクロペンタンジオン構造の非対称化反応を基軸とする複雑な炭素環骨格構築法の開発.

第 56 回天然物化学談話会, 2023 年 6 月 30 日 (つくば) .

小林誠, 捧智成, 谷野圭持, 中村精一, 池内和忠

1,3-シクロペンタンジオン部位の極性転換反応を機軸とする 5/5/4 三環性骨格構築法の開発.

第 69 回日本薬学会東海支部総会・大会, 2023 年 7 月 8 日 (名古屋) .

田畑愛美, 陰未来, 安藤龍志, 山越博幸, 池内和忠, 中村精一

酸化的イソベンゾフラン発生法を基盤とする連続反応による生物活性天然物の合成研究.

第 52 回複素環化学討論会, 2023 年 10 月 13 日 (仙台) .

藤田知之, 佐藤和都, 竹内貴志, 鈴木孝洋, 池内和忠, 谷野圭持

スクアリン酸アニオンの SN2 反応：ハロゲン化アルキルからアルコールの簡易合成.

第 13 回 CSJ 化学フェスタ 2023, 2023 年 10 月 19 日 (東京) .

吉谷明浩, 捧智成, 加藤蘭丸, 池内和忠, 谷野圭持

橋頭位水酸基を有する三環性ノルボルネン誘導体の骨格転位.

第 67 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会, 2023 年 10 月 28 日 (千葉) .

野口公寛, 斎藤彩有里, 山越博幸, 池内和忠, 中村精一

シクロアルタン型トリテルペノイド・カドコッシラクトン A の合成研究～BCDE 環部の構築.

第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム, 2023 年 11 月 7 日 (岐阜) .

安藤龍志, 池内和忠, 中村精一

配座制限に基づく 6-endo 環化によるトランス縮合環構築法の開発.

第 54 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会, 2023 年 11 月 11 日 (津) .

【生体超分子システム解析学分野】

(原報)

Hikaru Teramoto, Naohide Hirashima, Masahiko Tanaka

Calcineurin B1 deficiency reduces proliferation, increases apoptosis, and alters secretion in enteric glial cells of mouse small intestine in culture.

Cells, 12, 1867 (2023).

Daisuke Kondo, Ruriko Suzuki, Ayako Matsumura, Hitomi Meguri, Masahiko Tanaka, Makoto Itakura, Naohide Hirashima

Methiothepin downregulates SNAP-23 and inhibits degranulation of rat basophilic leukemia cells and mouse bone marrow-derived mast cells.

Eur. J. Immunol., 53, e2250360 (2023).

(総説・著書・総合論文など)

なし

(学会発表)

鈴木礼奈, 平嶋尚英, 田中正彦

Caco-2 細胞を用いた腸上皮バリアにおけるカルシニューリン阻害剤の直接的・間接的影響の解析.

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 26 日 (札幌) ; 26P2-am1-146.

鈴木瑠理子, 伊納義和, 横川 慧, 古野忠秀, 平嶋尚英

マスト細胞の Fc 受容体の架橋状態の変化によるアクチン脱重合シグナル調節機構.

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 27 日 (札幌) ; 27P1-pm1-097.

坂本真凜, 長田夕佳, 古川 敦, 草田智之, 稲本奨平, 千田知美, 平嶋尚英, 鈴木 亮

マスト細胞の分泌顆粒の不均質性と分泌メカニズムの解析.

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 27 日 (札幌) ; 27P1-pm1-128.

山本彩加, 伊納義和, 鈴木瑠理子, 古野忠秀, 平嶋尚英
正電荷リポソームを用いた遺伝子導入によるマスト細胞の活性化抑制.
日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 27 日 (札幌) ; 27P2-pm1-026S.

山本彩加, 伊納義和, 鈴木瑠理子, 古野忠秀, 平嶋尚英
正電荷リポソームを用いたマスト細胞への遺伝子導入における lipoplex の取り込み機構.
第 69 回日本薬学会東海支部大会, 2023 年 7 月 8 日 (名古屋) ; H9-S

田中正彦, 寺本 光, 鈴木礼奈, 平嶋尚英
GFAP-Cre calcineurin B α fl/fl mice における小腸の炎症にグリア由来分泌物質 S100B が寄与する.
第 46 回日本神経科学大会, 2023 年 8 月 3 日 (仙台) ; 3Pa-022.

近藤大介, 鈴木瑠理子, 松村綾子, 田中正彦, 板倉 誠, 平嶋尚英
セロトニン受容体阻害剤によるマスト細胞活性化抑制機構.
第 44 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2023 年 10 月 19 日 (福岡) ; P08.

龍野 華, 八木孝樹, 鷺崎加奈, 平嶋尚英, 田中正彦
小腸炎を起こすグリア細胞特異的 calcineurin ノックアウトマウスの遺伝的背景による表現型の差異の解析.
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023, 2023 年 11 月 12 日 (名古屋) ; M-18.

龍野 華, 平嶋尚英, 田中正彦
Calcineurin 欠損による小腸グリア細胞の上皮バリア形成機能の変化.
第 46 回日本分子生物学会年会, 2023 年 12 月 6 日 (神戸) ; 1P-913.

鈴木瑠理子, 伊納義和, 横川 慧, 古野 忠秀, 平嶋 尚英
マスト細胞における単価ハプテンによるアクチン脱重合阻害機構の研究.
第 46 回日本分子生物学会年会, 2023 年 12 月 8 日 (神戸) ; 3P-437.

坂本真凜, 長田夕佳, 古川 敦, 草田智之, 稲本奨平, 千田知美, 平嶋尚英, 鈴木 亮
マスト細胞のケモカイン分泌における VAMP7 の機能解析.
第 46 回日本分子生物学会年会, 2023 年 12 月 8 日 (神戸) ; 3P-755.

【コロイド・高分子物性学分野】

(原報)

Hiroyuki Miki, Teruyoshi Ishigami, Junpei Yamanaka, Tohru Okuzono, Akiko Toyotama, Jitendra Mata, Honoka Komazawa, Yushi Takeda, Madoka Minami, Minori Fujita, Maho Doi, Tsunehiko Higuchi, Hiroshi Takase, Satoshi Adachi, Tetsuya Sakashita, Taro Shimaoka, Masae Nagai, Yuki Watanabe, Seijiro Fukuyama

Clustering of charged colloidal particles in the microgravity environment of space.
npj Microgravity. 9, 33 (2023).

Biswajit Pany, Amrito Ghosh Majundar, Madhuchhanda Mohanty, K.P. Fyis, Tanima Dey, Gautam Tripathy, Suresh Bhat, Junpei Yamanaka, Priti S. Mohanty

Polymerized stimuli-responsive microgels for the removal of organic dye from water.
J. Mol. Liquids. 375, 121267(2023).

Honoka Komazawa, Teruyoshi Ishigami, Hiroyuki Miki, Akiko Toyotama, Tohru Okuzono, Junpei Yamanaka

A method of immobilizing colloids in polymer gels used in the "Colloidal Clusters" space experiment project.
Int J. Microgravity Sci. Appl. 40, 400 (2023).

(著書)

Junpei Yamanaka, Tohru Okuzono, and Akiko Toyotama

“Colloidal Self-Assembly”, Springer Lecture Notes in Chemistry vol.108, Springer-Nature (Singapore).
ISBN 978-981-99-5051-5 (2023)

(学会発表)

川瀬健太, 青山柚里奈, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平
2次元金コロイド結晶を用いた表面プラズモン共鳴基板の作製
第69回日本薬学会東海支部総会・大会, 2023年7月8日(名古屋市)

竹本満里菜, 青山柚里奈, 藤田みのり, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平【優秀発表賞】
コロイド粒子が規則配列した機能性基板の構築
第69回日本薬学会東海支部総会・大会, 2023年7月8日(名古屋市)

T. Okuzono, R. Uchiyama, A. Toyotama, J. Yamanaka
Superdiffusion of charged colloidal particles with surface chemical reactions.
28th International Conference on Statistical Physics, 2023年8月8日(東京都文京区).

T. Okuzono, S. Sasaki, A. Toyotama, J. Yamanaka
Mechanical response of a charged colloidal particle undergoing a surface chemical reaction
The 7th International Soft Matter Conference, 2023年9月7日(大阪市)

A. Toyotama, Y. Sato, A. Hirai, T. Okuzono, J. Yamanaka
Crystallization of Microgel Colloids Due to Depletion Attraction
The 7th International Soft Matter Conference, 2023年9月7日(大阪市)

H. Miki, A. Toyotama, T. Okuzono, J. Yamanaka
Numerical Simulation of Phoretic Motion of Colloidal Particles under Base Concentration Gradient
The 7th International Soft Matter Conference, 2023年9月7日(大阪市)

J. Yamanaka, Y. Aoyama, A. Toyotama, T. Okuzono
Formation of 2D Colloidal Crystal by Electrostatic Adsorption of 3D Charged Colloidal Crystals
The 7th International Soft Matter Conference, 2023年9月7日(大阪市)

三木裕之, 石神瑛圭, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平
微小重力下における荷電コロイド粒子の会合体形成実験
第74回コロイドおよび界面化学討論会, 2023年9月12日(長野市)

竹本満里菜, 藤田みのり, 青山柚里奈, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平【ポスター賞】
コロイド粒子の交互積層による二次元ダイヤモンド格子の構築
第74回コロイドおよび界面化学討論会, 2023年9月12日(長野市)

川瀬健太, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平
コロイド結晶の交互積層に関する数値シミュレーション
第 74 回コロイドおよび界面化学討論会, 2023 年 9 月 12 日 (長野市)

田代耀, 井岡未優, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平
枯渇引力による金コロイド粒子の結晶化と SERS 基板への応用
第 74 回コロイドおよび界面化学討論会, 2023 年 9 月 12 日 (長野市)

竹内麻有, 平井綾音, 佐藤結, Priti S. Mohanty, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平
高分子水溶液中でのマイクロゲル粒子およびマクロゲルの収縮挙動
第 74 回コロイドおよび界面化学討論会, 2023 年 9 月 12 日 (長野市)

豊玉彰子, 平井綾音, 佐藤結, 竹内麻有, Priti S. Mohanty, 山中淳平, 奥菌透
枯渇引力によるマイクロゲル粒子分散系の結晶化
第 74 回コロイドおよび界面化学討論会, 2023 年 9 月 14 日 (長野市)

山中淳平, 青山柚里奈, 佐藤直子, 豊玉彰子, 奥菌透
ファンデルワールス力による高分子ゲル表面へのコロイド粒子の吸着
第 74 回コロイドおよび界面化学討論会, 2023 年 9 月 14 日 (長野市)

足立 聡, 山中淳平, 奥菌透, 豊玉彰子
チタニア多成分会合コロイドの会合数分布シミュレーション
日本マイクログラフィティ応用学会 第 35 回学術講演会, 2023 年 10 月 25 日 (沖縄市)

足立 聡, 山中淳平, 奥菌透, 豊玉彰子
コロイド結晶形成シミュレーションにおけるポテンシャルの影響
日本マイクログラフィティ応用学会 第 35 回学術講演会 2023 年 10 月 25 日 (沖縄市)

山中淳平, 青山柚里奈, 石神瑛圭, 豊玉彰子, 奥菌透
基板への静電吸着による 2 次元コロイド結晶の生成
第 52 回結晶成長国内会議, 2023 年 12 月 5 日 (名古屋市)

豊玉彰子, 平井綾音, 佐藤結, 竹内麻有, Priti. S. Mohanty, 山中淳平, 奥菌透
枯渇引力によるマイクロゲル粒子分散系の結晶化

第 52 回結晶成長国内会議, 2023 年 12 月 5 日 (名古屋市)

川瀬健太, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平【優秀発表賞】

コロイド結晶の交互積層に関する数値シミュレーション

第 52 回結晶成長国内会議, 2023 年 12 月 5 日 (名古屋市)

竹本満里菜, 藤田みのり, 青山柚里奈, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平【優秀発表賞】

コロイド粒子の交互積層による二次元ダイヤモンド格子の構築

第 52 回結晶成長国内会議, 2023 年 12 月 5 日 (名古屋市)

【生命分子構造学分野】

(原報)

Saeko Yanaka, Rina Yogo, Hirokazu Yagi, Masayoshi Onitsuka, Natsumi Wakaizumi, Yuki Yamaguchi, Susumu Uchiyama, and Koichi Kato

Negative interference with antibody-dependent cellular cytotoxicity mediated by rituximab from its interactions with human serum proteins

Front. Immunol. 14, 1090898 (2023).

Saeko Yanaka, Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato, and Kunihiro Kuwajima

The B domain of protein A retains residual structures in 6 M guanidinium chloride as revealed by hydrogen/deuterium-exchange NMR spectroscopy

Protein Sci. 32, e4569 (2023).

Methanee Hiranyakorn, Maho Yagi-Utsumi, Saeko Yanaka, Naoya Ohtsuka, Norie Momiyama, Tadashi Satoh, and Koichi Kato

Mutational and environmental effects on the dynamic conformational distributions of Lys48-linked ubiquitin chains

Int. J. Mol. Sci. 24, 6075 (2023).

Takahiro Nakama, Anouk Rossen, Risa Ebihara, Maho Yagi-Utsumi, Daishi Fujita, Koichi Kato, Sota Sato, and Makoto Fujita

Hysteresis behavior in the unfolding/refolding processes of a protein trapped in metallo-cages

Chem. Sci. 14, 2910-2914 (2023).

Yu-Chun Chien, Yong-Sheng Wang, Deepa Sridharan, Chu-Wei Kuo, Chih-Ta Chien, Takayuki Uchihashi, Koichi Kato, Takashi Angata, Tzu-Ching Meng, Shang-Te Danny Hsu, and Kay-Hooi Khoo*

High density of N- and O-glycosylation shields and defines the structural dynamics of the intrinsically disordered ectodomain of receptor-type protein tyrosine phosphatase alpha

JACS Au. 3, 1864-1875 (2023).

Maho Yagi-Utsumi, Satoru G. Itoh, Hisashi Okumura, Katsuhiko Yanagisawa, Koichi Kato, and Katsuyuki Nishimura

The double-layered structure of amyloid- β assemblage on GM1-containing membranes catalytically promotes fibrillization

ACS Chem. Neurosci. 14, 2648-2657 (2023).

Maho Yagi-Utsumi, Haruko Miura, Christian Ganser, Hiroki Watanabe, Methanee Hiranyakorn, Tadashi Satoh, Takayuki Uchihashi, Koichi Kato, Kei-ichi Okazaki, and Kazuhiro Aoki
Molecular design of FRET probes based on domain rearrangement of protein disulfide isomerase for monitoring intracellular redox status
Int. J. Mol. Sci. 24, 12865 (2023).

Eric H.-L.Chen, Chun-Hsiung Wang, Yi-Ting Liao, Feng-Yueh Chan, Yui Kanaoka, Takayuki Uchihashi, Koichi Kato, Longsheng Lai, Yi-Wei Chang, Meng-Chiao Ho, and Rita P.-Y.Chen
Visualizing the membrane disruption action of antimicrobial peptides by cryo-electron tomography
Nature Commun. 14, Article number: 5464 (2023).

Supaphorn Seetaha, Nuntaporn Kamonsutthipajit, Maho Yagi-Utsumi, Yanaka Seako, Takumi Yamaguchi, Supa Hannongbua, Koichi Kato, and Kiattawee Choowongkamon
Biophysical characterization of p51 and p66 monomers of HIV-1 reverse transcriptase with their inhibitors
Protein J. 42, 741-752 (2023).

Carol Cho, Christian Ganser, Takayuki Uchihashi, Koichi Kato, and Ji-Joon Song
Structure of the human ATAD2 AAA+ histone chaperone reveals mechanism of regulation and inter-subunit communication
Commun. Biol. 6, 993 (2023).

(総説・著書・総合論文など)

Niloufar Yazdanpanah, Filip Dochy, Gary L. Darmstadt, Godefridus J. Peters, Abraham Tsitlakidis, Elias C. Aifantis, Artemi Cerda, Elisabetta Comini, Serge Brand, Manoj Gupta, Bruce D. Cheson, Sabu Thomas, Michael Tanzer, Ralf Weiskirchen, Federico Bella, Seyed-Mohammad Fereshtehnejad, Konstantina Nikita, Imran Ali, Koichi Kato, Alessandro Poggi, Ernest Chua Kian Jon, Idupulapati M. Rao, Xiaoming Tao, Ji-Huan He, Lingamallu Jagan Mohan Rao, Alexander Leemans, Alessio Pomponio, Alfredo Martínez Hernandez, Hamid Ahmadi, Mohammad Ali Sahraian, Roya Kelishadi, Visith Thongboonkerd, Seema Bahinipati, Masakazu Toi, Matthias von Herrath, Frank Sellke, Steven Sherwood, George Perry, Juan J. Nieto, Sudhir Gupta, Tommaso Dorigo, Bahram Mobasher, Hans D. Ochs, and Nima Rezaei

Cancer: A complex problem requiring interdisciplinary research
Interdisciplinary Cancer Research. (Nima Rezaei ed.), Springer (Cham), pp1-45 (2023).

Koichi Kato and Hirokazu Yagi
Current status and challenges in structural glycobiology
Trends in Carbohydrate Research 15, 38-46 (2023).

谷中冴子, 加藤晃一
抗体医薬の作動メカニズムの分子基盤
生物工程学 101, 347-349 (2023).

山口拓実, 谷中冴子, 加藤晃一
分子シミュレーションによる糖鎖の 3 次元構造の動態予測
タンパク質の構造解析手法と In silico スクリーニングへの応用事例, 技術情報協会, pp.237-245
(2023).

伊藤 暁, 矢木真穂, 加藤晃一, 奥村久士
アミロイドベータペプチドの凝集初期過程の分子シミュレーション
細胞 55, No.10, 30-55 (2023).

(学会発表)

龍岡博亮, 山口拓実
溶液 NMR 計測と分子シミュレーションを用いた糖-水および水-水間相互作用の解析
第 18 回 糖鎖科学中部拠点「若手の力」フォーラム 2023 年 1 月 7 日 (名古屋) ; O-9.

金山大地, 柘植信吾, 齋藤泰輝, 矢木宏和, 加藤晃一
分子コードの導入による糖タンパク質の糖鎖修飾制御の条件検討
第 18 回 糖鎖科学中部拠点「若手の力」フォーラム 2023 年 1 月 7 日 (名古屋) ; P-23.

Jinbo Shim, 矢木宏和, 武村政春, 横田育子, 古川潤一, 加藤晃一
トキョーウイルスの O 型糖鎖の構造解析
第 18 回 糖鎖科学中部拠点「若手の力」フォーラム 2023 年 1 月 7 日 (名古屋) ; P-24.

高木克樹, 矢木宏和, 加藤晃一

糖転移酵素のドメイン分類

第 18 回 糖鎖科学中部拠点「若手の力」フォーラム 2023 年 1 月 7 日 (名古屋) ; P-25.

Koichi Kato 【招待講演】

Recent research activities in the Kato Groups

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日 (Seoul)

Maho Yagi-Utsumi

The double-layered structure of amyloid- β assemblage on GM1-containing membranes

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日 (Seoul)

Saeko Yanaka, Rina Yogo, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

Exploring the Structural Dynamics and Interactions of Antibodies: A Multidisciplinary Approach

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日 (Seoul)

Jinbo Shim, Hirokazu Yagi, Masaharu Takemura, Ikuko Yokota, Jun-ichi Furukawa, and Koichi Kato

Glycan structure analysis of giant viruses and their host, acanthamoeba

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日 (Seoul)

Rio Nakano, Rino Yamada, Emiko Nishi, Taiki Saito, Kengo Inutsuka, Shungo Adachi, Takuro Tojima,

Jun-ichi Furukawa, Rena Honda, Saeko Yanaka, Maho Yagi-Utsumi, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

Elucidation of the mechanisms of protein glycosylation controlled by passport sequence

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日 (Seoul)

Mei Hoshina, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Satoshi Ishikawa, Shigeaki Hida, and Koichi Kato

Exploration of the mechanisms underlying matriglycan elongation during T cell differentiation focusing on glycosyltransferases

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日 (Seoul)

Kengo Inutsuka, Taiki Saito, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato

Toward elucidation of functional complex structure of ERGIC

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023年1月20日 (Seoul)

矢木宏和【招待講演】

構造解析を基軸とした糖鎖の機能研究

神戸薬科大学学生化学研究室セミナー 2023年1月27日 (神戸)

加藤晃一【招待講演】

生命分子動秩序創発研究と極限環境生命分子研究の最近の進展

ExCELLS ファカルティデベロップメント 2023年2月28日 (岡崎)

Hirokazu Yagi

Unraveling the Mechanisms of Protein-Specific Glycosylation by Golgi Apparatus Glycosyltransferases
International Symposium Beyond Organelle Zones 2023年3月6日 (東京)

中川 洋, 井上倫太郎, 小田 隆, 矢木-内海真穂, 斉尾智英, 荳口友隆, 長田裕也, 杉山正明, 佐藤 衛, 川北至信, 岩瀬裕希, 富永大輝, 高田慎一

蛋白質の階層構造ダイナミクスの解明

Clarification of hierarchical dynamics in protein

2022年度量子ビームサイエンスフェスタ 2023年3月15日 (つくば)

小野寺悠太, 竹内絵里奈, 中間貴寛, 矢木真穂, 藤田大士, 加藤晃一, 藤田 誠

自己集合球状錯体に包接したアミロイド β 疎水性断片二量体のNMR構造解析

日本化学会 第103春季年会 2023年3月22日 (野田) ; P1-1pm-49.

Anouk Rossen, 中間貴寛, 矢木真穂, 藤田大士, 加藤晃一, 藤田 誠

NMR Observation of Hysteretic Behaviour in Solvent-Induced Protein Unfolding/Refolding Processes via Encapsulation in a Coordination Cage

日本化学会 第103春季年会 2023年3月24日 (野田) ; D1411-3pm-04.

矢木真穂, 伊藤 暁, 奥村久士, 柳澤勝彦, 加藤晃一, 西村勝之

GM1 ガングリオシド膜上で触媒的に線維形成を促進するアミロイド β 集合体の構造解析

日本薬学会 第143年会 2023年3月27日 (札幌) ; 27M3-am09.

Methanee Hiranyakorn, Saeko Yanaka, Atsuji Kodama, Koichi Kato, and Shino Manabe

Glycosylation engineering and effector function of Homogeneous asymmetric glycosylated IgG

日本薬学会 第 143 年会 2023 年 3 月 27 日 (札幌) ; 27C2-am10.

中野里音, 山田梨乃, 西 栄美子, 齋藤泰輝, 犬塚健剛, 足達俊吾, 戸島拓郎, 古川潤一, 本田怜奈, 谷中 冴子, 矢木真穂, 矢木宏和, 加藤晃一

パスポート配列による糖タンパク質の糖鎖修飾制御の分子機構

日本薬学会 第 143 年会 2023 年 3 月 27 日 (札幌) ; 27E5-am12S.

Saeko Yanaka, Koichi Kato

Investigation of conformational dynamics and interactions of antibodies towards their functional improvement

日本薬学会 第 143 年会 2023 年 3 月 28 日 (札幌) ; IS02-S2-03.

保科 明, 矢木宏和, 矢木真穂, 石川 怜, 肥田重明, 加藤晃一
T 細胞分化に伴うマトリグリカンの伸長抑制機構の探査

日本薬学会 第 143 年会 2023 年 3 月 28 日 (札幌) ; 28F2-am10S.

矢木真穂, 西村誠司, 青木一洋, 佐藤匡史, 谷中冴子, 古谷祐詞, 村田和義, 内橋貴之, 荒川和晴, 加藤晃一

クマムシ固有タンパク質 CAHS の性状解析

2022 年度 生物物理学会中部支部講演会 2023 年 3 月 31 日 (名古屋) ; O14.

矢木宏和【招待講演】

特別シンポジウム「N 型糖鎖研究の新展開」

糖鎖構造を規定する分子メカニズム

第 69 回 日本生化学会近畿支部例会 2023 年 5 月 27 日 (京都)

齋藤泰輝, 山田梨乃, 中野里音, 犬塚健剛, 足達俊吾, 戸島拓郎, 古川潤一, 本田怜奈, 谷中冴子, 矢木真穂, 矢木宏和, 加藤晃一

分泌経路においてタンパク質の糖鎖修飾を規定する分子機構の解明

第 87 回 日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2023 年 5 月 27 日 ; A-4. 【オンライン開催】

Yuki Yamaguchi, Natsumi Wakaizumi, Mine Irisa, Takahiro Maruno, Mari Shimada, Koya Shintani, Haruka Nishiumi, Rina Yogo, Saeko Yanaka, Daisuke Higo, Tetsuo Torisu, Koichi Kato, and Susumu Uchiyama

HDX-MS and XL-MS analyses of antigen-IgG-FcγRIIIa interactions

71st ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics 2023年6月8日 (Houston) ; ThP 205.

中間貴寛, 海老原梨沙, Anouk Rossen, 矢木真穂, 藤田大士, 加藤晃一, 藤田 誠
M12L24 球状錯体に内包されたタンパク質のヒステリシスを伴う変性-リフォールディング
第20回ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウム 2023年6月17日 (八王子) ; 1P12.

加藤晃一【招待講演】

バイオ医薬品の高機能化に向けた糖鎖の生命分子構造学

2023年度分子研異分野技術交流セミナー (第2回) ~創薬リード探索の先端と計測技術~
2023年6月23日 (岡崎)

Koichi Kato【招待講演】

Dynamic Structures and Interactions of Immunoglobulin G Glycoproteins as Therapeutic Antibodies
14th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium (AIMECS2023) 2023年6月26日
(Seoul)

Takahiro Nakama, Daishi Fujita, Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato, and Makoto Fujita

Confinement of unfolding and refolding proteins in an M12L24 coordination cage

Protein refolding by isolation in a gigantic coordination cage

The International Symposium on Macrocyclic and Supramolecular Chemistry (ISMSC2023)

2023年6月26日 (Reykavík) ; M55.

Risa Ebihara, Anouk Rossen, Takahiro Nakama, Maho Utsumi-Yagi, Daishi Fujita, Makoto Fujita

NMR analysis of transient structures in protein unfolding/refolding by encapsulation within spherical metallo-cages

The International Symposium on Macrocyclic and Supramolecular Chemistry (ISMSC2023)

2023年6月27日 (Reykavík) ; T8.

矢木宏和, 加藤晃一

膜交通経路におけるタンパク質特異的な糖鎖修飾メカニズム

第75回日本細胞生物学会大会 2023年6月30日 (奈良)

谷中冴子, 加藤晃一

構造ダイナミクスに着目した抗体の隠された機能の探査

Exploration of structural dynamics of antibody for the understanding of hidden functions

第 23 回 日本蛋白質科学会年会 2023 年 7 月 5 日 (名古屋) ; WS4-01.

矢木真穂

アミロイドβ線維の形成促進および形成阻害の分子機構の解明

Molecular mechanisms promoting and inhibiting the formation of amyloid-β fibrils

第 23 回 日本蛋白質科学会年会 2023 年 7 月 7 日 (名古屋) ; WS15-03.

杉山正明, 守島 健, 柚木康弘, 井上倫太郎, 佐藤信浩, 矢木宏和, 加藤晃一

Integrated Analysis of Kai-Circadian Clock System

Kai 時計タンパク質の概日振動のシステム解析

第 23 回 日本蛋白質科学会年会 2023 年 7 月 7 日 (名古屋) ; 3P-074.

シム ジンボ

巨大ウイルスの糖鎖構造解析

第 26 回 比較グライコーム研究会 2023 年 7 月 15 日 (名古屋)

矢木宏和

ラット血清のグライコプロテオミクス

第 26 回 比較グライコーム研究会 2023 年 7 月 15 日 (名古屋)

関 健仁, 山口拓実, 榮 慶丈, 神田智哉, 矢木宏和, 加藤晃一

糖鎖の構造アンサンブルを考慮した蛋白質との相互作用評価方法の開発

第 62 回分子科学若手の会 夏の学校 2023 年 8 月 16 日 (福岡) ; P36.

Ken Morishima, Yasuhiro Yunoki, Masahiro Shimizu, Nobuhiro Sato, Rintaro Inoue, Hirokazu Yagi,
Koichi Kato, and Masaaki Sugiyama

Structural analysis of clock protein complex in solution by the integrated approach with analytical
ultracentrifugation and small-angle scattering

26TH Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography

2023 年 8 月 22-29 日 (Melbourne)

Seigo Tateo, Makoto Toshimitsu, Yuichiro Uchida, Hiroyuki Shinchi, Masahiro Wakao, Yasuo Suda

Development of sugar chain binding chimeric antigen receptor expressed natural killer cells for
immunotherapy against adult T cell leukemia (ATL)

GLYCO26 2023 年 8 月 28 日 (Taipei) ; A111.

Hirokazu Yagi, Fumiko Umezawa, Mei Hoshina, Kazuki Nakajima, Hiroto Kawashima, Chu-Wei Kuo, Kay-Hooi Khoo, Takaya Shimura, and Koichi Kato
PCYT2-Mediated Glycerol Phosphate Modification of α -Dystroglycan Disrupts Matriglycan Elongation and Thereby Enhances Colorectal Cancer Metastasis
GLYCO26 2023年8月29日 (Taipei) ; A087.

Noriko Suzuki
Gain and loss of α 4-galactosyltransferase-like genes in the course of vertebrate evolution
GLYCO26 2023年8月29日 (Taipei) ; A146.

Taiki Saito, Shungo Adachi, Hirokazu Yagi, Koichi Kato
Molecular networks involving glycosyltransferases characterized by proximity labeling
GLYCO26 2023年8月31日 (Taipei) ; A013.

Koichi Kato 【招待講演】
NMR Characterization of Immunoglobulin G Glycoproteins for Evaluation and Development of Therapeutic Antibodies
2023 Asia-Pacific Nuclear Magnetic Resonance (APNMR) Symposium 2023年9月7日 (Taipei)

蜷川 暁, 松尾将生, 鄧 桜, 阿曾伸哉, 松下和俊, 笛木 茜, 斎藤俊介, 今見考志, 木塚康彦, 佐久間哲史, 山本 卓, 矢木宏和, 加藤晃一, 森 和俊
UGGTs は構造異常糖タンパク質の早期分解を抑制する
第42回 日本糖質学会年会 2023年9月8日 (鳥取) ; P-017.

田中美雪, 矢木宏和, 加藤晃一, 木下聖子
GALAXY データのセマンティックウェブ化
第42回 日本糖質学会年会 2023年9月8日 (鳥取) ; P-057.

中間貴寛, 海老原梨沙, Anouk Rossen, 矢木真穂, 藤田大士, 加藤晃一, 藤田 誠
中空金属錯体への閉じ込めによるタンパク質の変性-リフォールディング解析
第17回 バイオ関連化学シンポジウム 2023年9月8日 (野田) ; 10A-03.

海老原梨沙, 中間貴寛, 矢木真穂, 藤田大士, 藤田 誠
巨大中空錯体への一分子包接によるタンパク質の安定化
第17回 バイオ関連化学シンポジウム 2023年9月8日 (野田) ; 1PA-10.

小野寺悠太, 竹内絵里奈, 中間貴寛, 矢木真穂, 藤田大士, 加藤晃一, 藤田 誠
巨大球状金属錯体への閉じ込めによるアミロイドβ疎水性領域の会合初期過程の構造解析
第 17 回 バイオ関連化学シンポジウム 2023 年 9 月 9 日 (野田); 2PA-33.

矢木真穂

クマムシ由来非ドメインタンパク質の分子ネットワークの実体解明
第 3 回「非ドメイン生物学」領域班会議 2023 年 9 月 12 日 (鶴岡)

中間貴寛, 小野寺悠太, 竹内絵里奈, 矢木真穂, 藤田大士, 加藤晃一, 藤田 誠
巨大中空錯体への内包によるアミロイドβ断片二量体の構造解析
第 33 回 基礎有機化学討論会 2023 年 9 月 13 日 (岡山); 2C07.

矢木真穂【招待講演】【オンライン開催】

クマムシ由来非ドメインタンパク質 CAHS の性状解析
第 12 回タタバイオ分子クラブ 2023 年 9 月 19 日

保科 明, 矢木宏和, 矢木真穂, 石川 怜, 岡谷千晶, 久野 敦, 肥田重明, 加藤晃一
胸腺細胞におけるマトリグリカンの発現とその制御機構の探査
第 19 回「若手のカフォーラム」 2023 年 9 月 21 日 (静岡); P-14.-

中野里音, 齋藤泰輝, 矢木真穂, 矢木宏和, 加藤晃一
フコース転移酵素による糖鎖修飾を制御する分子コード
第 19 回「若手のカフォーラム」 2023 年 9 月 21 日 (静岡); P-15.

犬塚健剛, 関 健仁, 山口拓実, 矢木宏和, 矢木真穂, 加藤晃一
糖鎖の構造アンサンブルを考慮した糖タンパク質複合体の評価方法の検討
第 19 回「若手のカフォーラム」 2023 年 9 月 21 日 (静岡); P-16.

Miri Tadokoro, Takahiro Nakama, Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato, and Makoto Fujita
Investigation of Protein–Sugar Weak Interactions by Confinement in Self-assembled M12L24 Cages
錯体化学第 73 回討論会 2023 年 9 月 21-23 日 (水戸)

Hongkun Liu, Takahiro Nakama, Maho Utsumi-Yagi, Koichi Kato, and Makoto Fujita
Isolation of Amyloid β Monomer in Aqueous Environments by Encapsulation in Gigantic M12L24
Coordination Cages

錯体化学第 73 回討論会 2023 年 9 月 21-23 日 (水戸)

中村和順, 塩田竜亮, 石田幸太郎, 荒川将志, 藤田優作, 矢木宏和, 加藤幸成, 森田英嗣
日本脳炎ウイルス非構造蛋白質における N 結合型糖鎖修飾の役割
第 70 回 日本ウイルス学会学術集会 2023 年 9 月 26-28 日 (仙台)

石田幸太郎, 矢木宏和, 加藤幸成, 森田英嗣
フラビウイルス E タンパク質の N 結合型糖鎖修飾はウイルス粒子形成に寄与する
第 70 回 日本ウイルス学会学術集会 2023 年 9 月 26-28 日 (仙台)

加藤晃一【招待講演】
糖タンパク質の NMR ～抗体への応用～
第 40 回 Bruker NMR ユーザーズミーティング 2023 年 10 月 3 日 (大阪), 10 月 4 日 (東京)

矢木真穂
アッセンブリー補助によるタンパク質の配置制御
さきがけ「自在配列」領域 2023 年第 7 回領域会議 2023 年 10 月 15 日 (大阪)

Taiki Saito, Tateo Seigo, Shungo Adachi, Takuro Tojima, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato
Protein networks analysis provides distinct views of secretion pathway
第 6 回 ExCELLS 若手リトリート 2023 年 10 月 19 日 (岡崎); 8.

Seigo Tateo, Taiki Saito, Shiori Yamamoto, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato
A fractionation-based omics approach for constructing a comprehensive Golgi atlas
第 6 回 ExCELLS 若手リトリート 2023 年 10 月 19 日 (岡崎); 11.

Takehito Seki, Takumi Yamaguchi, Tomoya Kanda, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato
Development of a Method for Assessing Glycan-Protein Interactions Leveraging Conformational Glycan Ensembles
第 6 回 ExCELLS 若手リトリート 2023 年 10 月 19 日 (岡崎); 13.

矢木真穂
アッセンブリー補助によるタンパク質の配置制御
第 17 回さきがけ研究者交流会 2023 年 10 月 20 日 (東京); B-12.

矢木宏和【シンポジウム】分泌経路の新しいタンパク質輸送・修飾システム
分泌経路における基質タンパク質と糖転移酵素に組み込まれた分子コードによる糖鎖修飾制御

第 96 回 日本生化学会大会 2023 年 10 月 31 日 (福岡) ; 1S02m-06.

矢木真穂【シンポジウム】神経変性疾患の原理探究と革新的治療法開発に挑む
アミロイドβタンパク質の構造変化と分子集合

第 96 回 日本生化学会大会 2023 年 11 月 2 日 (福岡) ; 3S11m-01.

谷中冴子【シンポジウム】情報計算科学にもとづく酵素の創成と応用 ～スーパー酵素が切り拓く生化学の新時代～

構造ダイナミクスの観点からの抗体の機能解読と改変

第 96 回 日本生化学会大会 2023 年 11 月 2 日 (福岡) ; 3S13a-03.

立尾清悟, 齋藤泰輝, 戸島拓郎, 甲賀大輔, 矢木宏和, 加藤晃一

哺乳動物細胞のゴルジ体サブコンパートメントにおける糖転移酵素の局在解析

第 32 回 日本バイオイメーキング学会学術集会 2023 年 11 月 3-4 日 (札幌) ; P-37.

杉山正明, 守島 健, 柚木康弘, 井上倫太郎, 矢木宏和, 加藤晃一

Orchestration of proteins in a Kai clock system 2

第 61 回 日本生物物理学会年会 2023 年 11 月 14 日 (名古屋) ; 1Pos032.

矢木真穂, 加藤晃一【シンポジウム】【招待講演】

Unraveling the Mechanisms of Desiccation Tolerance: Insights from Anhydrobiotic Tardigrade CAHS1
Fibrous Condensates

第 61 回 日本生物物理学会年会 2023 年 11 月 15 日 (名古屋) ; 2SFA-6.

加藤晃一【招待講演】

生命科学の未来探究

九州大学 2023 年度 第 2 回薬学部局 FD 講演会「機関間連携」 2023 年 11 月 15 日 (福岡)

高橋咲良, 井澤咲帆, 金岡優依, 野中雄仁, 多治見祐希, 矢木真穂, 内橋貴之

Aβの線維成長におけるポリフェノールの影響に関する研究

The research on the influence of polyphenols in the fibril growth of Amyloid Beta

第 61 回日本生物物理学会年会、高校生・高専生 (本科 1-3 年生) 発表

2023 年 11 月 16 日 (名古屋) ; 3HL1130.

矢木真穂, Raymond Barton-Smith, 谷中冴子, Chihong Song, 村田和義, 加藤晃一
微小重力環境で形成したアミロイド線維の構造解析
2023 年度生理研研究会「クライオ電子顕微鏡とその周辺」 2023 年 11 月 28 日 (岡崎) ; P-25.

神田智哉, 香山容子, 谷中冴子, 村田和義, 加藤晃一
IgG-Fc γ 受容体複合体のクライオ電子顕微鏡構造解析
2023 年度生理研研究会「クライオ電子顕微鏡とその周辺」 2023 年 11 月 28 日 (岡崎) ; P-35.

Methanee Hiranyakorn, Saeko Yanaka, Atsuji Kodama, Shogo Iwamoto, Asako Hoshino, Koichi Kato,
and Shino Manabe
Homogeneous asymmetric glycosylated rituximab binding affinity with Fc γ RIIIa investigated through
enzymatic glycan remodeling technology
第 2 回 日本抗体学会学術大会 2023 年 12 月 1 日 (鹿児島) ; P-7.

矢木真穂, 甲賀大輔, 荒木 暢, 加藤晃一
乾眠するクマムシの微視的解剖学に向けて
UVSOR シンポジウム 2023 2023 年 12 月 2 日 (岡崎) ; P19.

Koichi Kato 【招待講演】

NMR characterization of conformational dynamics of oligosaccharides and glycoproteins for evaluating
and improving their functionality
第 2 回 GLYCO NMR SUMMIT 2023 年 12 月 5 日 【オンライン開催】

谷中冴子, 加藤晃一 【招待講演】

抗体分子に秘められた機能部位：分子構造から見るその機能と応用 第 46 回 日本分子生物学会
会年会 2023 年 12 月 7 日 (神戸) ; 2PS-06.

矢木真穂

研究生活と留学

エンカレッジ交流会 2023 2023 年 12 月 11 日 (名古屋)

【分子生物薬学分野】

(原報)

Kurihara, Y, Kotone M, Nagi M, Shoji, H, Miyakawa, T, and *Shirane, M.

PDZD8-deficient mice manifest behavioral abnormalities related to emotion, cognition, and adaptation due to dyslipidemia in the brain.

Mol Brain, 16(1):11 (2023)

Shun Fujinuma, Hirokazu Nakatsumi, Hideyuki Shimizu, Shigeaki Sugiyama, Akihito Harada, Takeshi Goya, Masatake Tanaka, Motoyuki Kohjima, Masatomo Takahashi, Yoshihiro Izumi, Mikako Yagi, Dongchon Kang, Mari Kaneko, Mayo Shigeta, Takeshi Bamba, Yasuyuki Ohkawa, Keiichi I.

Nakayama

FOXK1 promotes nonalcoholic fatty liver disease by mediating mTORC1-dependent inhibition of hepatic fatty acid oxidation

Cell Reports, 42(5), 112530 (2023)

Shintaro Funasaki, Atsushi Hatano, Hirokazu Nakatsumi, Daisuke Koga, Osamu Sugahara, Kanae Yumimoto, Masaya Baba, Masaki Matsumoto, Keiichi I. Nakayama

A stepwise and digital pattern of RSK phosphorylation determines the outcome of thymic selection
iScience. 26(9), 107552 (2023)

Reona Wada, Shun Fujinuma, Hirokazu Nakatsumi, Masaki Matsumoto, Keiichi I. Nakayama

Phosphorylation of PBX2, a novel downstream target of mTORC1, is determined by GSK3 and PP1
J Biochem.173(2), 129-138 (2023)

Jun Ouchida, Tomoya Ozaki, Naoki Segi, Yuji Suzuki, Shiro Imagama, Kenji Kadomatsu, Kazuma Sakamoto

Glypican-2 defines age-dependent axonal response to chondroitin sulfate.

Exp. Neurol. 366, 114444 (2023)

(総説・著書・総合論文など)

*Shirane, M. and Kamiguchi, H.

Molecular machinery regulating organelle dynamics during axon growth and guidance.

Semin Cell Dev Biol., S1084-9521(22), 00058-1 (2023)

(*Co-corresponding author)

白根 道子

脳の脂質異常と神経変性疾患の関連

医学のあゆみ、Vol. 287 Nos. 11,12 (2023)

(学会発表)

白根 道子【招待講演】

PDZD8 欠損マウスの脳内脂質異常と神経疾患との関連

第 31 回日本医学会総会「生体膜バイオロジーの医学・医療への応用」

2023 年 4 月 21 日 (東京)

白根 道子【招待講演】

オルガネラコンタクトを介した脳神経系の制御

第 32 回 IBS セミナー

2023 年 4 月 27 日 (名古屋)

白根 道子【招待講演】

オルガネラコンタクトを介した脂質代謝と脳機能の関連機構

第 96 回日本生化学会大会、シンポジウム「脂質ライフサイクルによるオルガネラ動態制御」

2023 年 11 月 31 日 (福岡)

中津海洋一【招待講演】

mTORC1 は P-body に局在する mRNA の翻訳を制御する

日本プロテオーム学会 2023 年大会 2023 年 7 月 24~25 日 (新潟)

中津海洋一【招待講演】

mTOR-dependent Regulation of Liquid-Liquid Phase Separation and Translation

第 61 回日本生物物理学会年会 2023 年 11 月 14~15 日 (名古屋)

中津海洋一【招待講演】

mTOR-dependent Regulation of Liquid-Liquid Phase Separation and Translation

第 46 回日本分子生物学会年会 2023 年 11 月 27 日~12 月 1 日 (神戸)

尾崎智也, 坂元一真, 鈴木佑治, 門松健治, 酒々井眞澄

糖鎖が引き起こす損傷軸索の病態.

第 39 回日本毒性病理学会, 2023 年 1 月 25-26 日 (東京)

尾崎智也【招待講演】

Protamine promotes axon regrowth and improves motor dysfunction after spinal cord injury in mice.

2023 Hallym University-Nagoya City University International Symposium, 2023 年 5 月 18 日 (韓国)

尾崎智也, 荻原 琳, 鈴木 佑治, Roy Dipankar Chandra¹, 坂元 一真, 門松 健治, 酒々井 眞澄
プロタミンは dystrophic growth cone の形成を阻害し脊髄損傷に伴う運動障害を改善する.

第 42 回日本糖質学会年会, 2023 年 9 月 7-9 日 (鳥取)

眞木 穂香、白根 道子

PDZD8 欠損マウス脳における脂質異常と脳機能不全

NCU Life Science + IBS poster workshop、ポスター発表

2023 年 3 月 13 日 (名古屋)

向江 凧、白根 道子

PDZD8 による脂質輸送を介したリポファジー促進機構

NCU Life Science + IBS poster workshop、ポスター発表

2023 年 3 月 13 日 (名古屋)

石渡 友紀乃、白根 道子

オルガネラコンタクトを介したエンドソーム成熟と神経制御

NCU Life Science + IBS poster workshop、ポスター発表

2023 年 3 月 13 日 (名古屋)

森杉 優美、白根 道子

PDZD8 欠損マウス脳における脂質異常と炎症亢進

NCU Life Science + IBS poster workshop、ポスター発表

2023 年 3 月 13 日 (名古屋)

眞木 穂香、和田 万理子、北野 ひかり、森杉 優美、白根 道子

PDZD8 欠損マウス脳における脂質異常と脳機能不全

第 87 回 日本生化学会 中部支部例会、一般演題、口頭発表

2023 年 5 月 27 日 (オンライン)

向江 凧、森田 敬子、和田 万理子、白根 道子
脂質輸送タンパク質 PDZD8 によるリポファジー促進機構
第 87 回 日本生化学会 中部支部例会、一般演題、口頭発表
2023 年 5 月 27 日 (オンライン)

眞木 穂香、和田 万理子、北野 ひかり、森杉 優美、白根 道子
脳における脂質異常と炎症亢進の関連機構
薬学会東海支部合同学術大会 2023、一般演題、口頭発表
2023 年 11 月 12 日 (名古屋)

渡邊 莉絵、山本 敬太郎、白根 道子
神経変性疾患の脳におけるリポファジーの機構
薬学会東海支部合同学術大会 2023、一般演題、口頭発表
2023 年 11 月 12 日 (名古屋)

奥田 和奏、加藤 洸、白根 道子
膜接触部位における PDZD8 の細胞内 Ca^{2+} 調節機構の解析
薬学会東海支部合同学術大会 2023、一般演題、口頭発表
2023 年 11 月 12 日 (名古屋)

向江 凧、森田 敬子、光成 琴音、白根 道子
膜接触部位における脂質輸送を介したリポファジー促進機構
薬学会東海支部合同学術大会 2023、一般演題、口頭発表
2023 年 11 月 12 日 (名古屋)

【薬物送達学分野】

(原報)

Eiichi Goto, Tatsuaki Tagami, Koki Ogawa, Tetsuya Ozeki, Fabrication of 3D-printed contact lens composed of polyethylene glycol diacrylate for controlled release of azithromycin, *Biol. Pharm. Bull.*, 46(10), 1461-1467 (2023).

Ayaka Hanaki, Koki Ogawa, Tatsuaki Tagami & Tetsuya Ozeki, Fabrication and Characterization of Antibody-Loaded Cationic Porous PLGA Microparticles for Sustained Antibody Release, *The AAPS Journal* 25(6), Article number: 92 (2023).

Mariana Yasue Saito Miyagi, Rafael de Oliveira Faria, Gabriel Batista de Souza, Claudiana Lameu, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki, Vinícius Danilo Nonato Bezzon, Megumi Nishitani Yukuyama, Nadia Araci Bou-Chacra, Gabriel Lima Barros de Araujo, Optimizing Adjuvant Inhaled Chemotherapy: Synergistic Enhancement in Paclitaxel Cytotoxicity by Flubendazole Nanocrystals in a Cycle Model Approach, *Int. J. Pharm.*, Sep 25:644:123324 (2023).

Susumu Suwabe, Tatsuaki Tagami, Koki Ogawa, Tetsuya Ozeki, Improved drug transfer into brain tissue via the “nose-to-brain” approach using suspension or powder formulations based on the solid dispersion technique, *Eur. J. Pharm. Biopharm.*, 185, 137-147(2023).

Nao Yamamoto, Tatsuaki Tagami, Koki Ogawa, Tetsuya Ozeki, Arbekacin-loaded inhalable nanocomposite particles specific to *Pseudomonas aeruginosa* prepared using a two-solution mixing-type spray nozzle, *Biol. Pharm. Bull.*, 46(2), 201-208(2023).

(総説・著書・総合論文など)

小川昂輝, 田上辰秋, 尾関哲也

ナノ粒子を基盤とした医薬品の製剤開発：ナノ化医薬品と刺激応答性ドラッグデリバリーシステム. *ファルマシア*, 59(7), 634-638(2023).

小川昂輝, 田上辰秋, 尾関哲也

無機ナノ粒子を利用したドラッグデリバリー技術・ナノメディシンの開発.

ファインケミカル, 特集 機能性ナノ粒子の設計と DDS への応用, 52(6), 13-19(2023).

小川昂輝, 田上辰秋, 尾関哲也

口腔内崩壊錠の評価法.

製剤機械技術学会誌, 製剤試験法特集号, 32(1), 42-47(2023).

田上辰秋, 小川昂輝, 尾関哲也

第6節 温度感受性リポソームの設計と機能性向上, 第3章 脂質ナノ粒子, リポソーム製剤の設計, 修飾技術, 新規モダリティ医薬品のための新しいDDS技術と製剤化.

技術情報協会, 1月号, 150-159 (2023).

(学会発表)

小川昂輝、新海斗馬、田上辰秋、尾関哲也

経口投与による mRNA の小腸デリバリーを目指した、腸溶性ポリマー被覆脂質ナノ粒子の開発

日本薬学会第 143 年会、2023 年 3 月 25 日～28 日、(札幌)

諏訪部 晋、小川 昂輝、田上 辰秋、尾関 哲也、日本薬学会第 143 年会

脳腫瘍治療に有用なシトラスレモン由来細胞外小胞を用いたナノキャリアの調製

2023 年 3 月 25 日～28 日、(札幌)

尾関哲也、小川昂輝、神谷 宝、佐藤一輝、大場万由、加藤瑤子、阿部憲太郎、田上辰秋、池崎秀和

名古屋市立大学薬学部の製剤学実習における味覚センサー導入の試み～第 11 報～

日本薬学会第 143 年会、2023 年 3 月 25 日～28 日、(札幌)

十時 拓大、諏訪部 晋、小川 昂輝、田上 辰秋、尾関 哲也【優秀発表賞】

鼻腔内溶解性と脳への薬物送達効率を高める経鼻用クアゼパム固体分散体の調製

日本薬学会第 143 年会、2023 年 3 月 25 日～28 日、(札幌)

田上 辰秋、岡村 麻矢、小川 昂輝、尾関 哲也

3D プリンター薬物イオン液体含有フィルムに求められるインク物性

日本薬学会第 143 年会、2023 年 3 月 25 日～28 日、(札幌)

田上辰秋、恒川勇太、小川昂輝、尾関哲也

院内肺炎の治療を目指したアルベカシン封入リポソームの調製と吸入評価
日本薬剤学会第 38 年会、2023 年 5 月 16-18 日、（愛知）

諏訪部晋、田上辰秋、小川昂輝、尾関哲也
Nose-to-brain 経路を利用したドラッグデリバリーを促進する粘膜吸収製剤およびナノキャリア
の開発
日本薬剤学会第 38 年会、2023 年 5 月 16-18 日、（愛知）

Fadilah Asril、小川昂輝、田上辰秋、尾関哲也
Gold nanostar coated with mesoporous silica for near-infrared-laser-triggered chemo-photothermal
therapy
日本薬剤学会第 38 年会、2023 年 5 月 16-18 日、（愛知）

佐藤一輝、小川昂輝、田上辰秋、尾関哲也
光刺激応答性細胞外小胞/金ナノスター複合体の調製とメラノーマに対する殺細胞効果
日本薬剤学会第 38 年会、2023 年 5 月 16-18 日、（愛知）

高明月、小川昂輝、田上辰秋、尾関哲也、
クロファジミン含有アルブミンナノ粒子を含む吸入剤の製剤評価
日本薬剤学会第 38 年会、2023 年 5 月 16-18 日、（愛知）

小川昂輝、西彩友美、田上辰秋、尾関哲也
黄色ブドウ球菌に選択的に結合するリポソームの開発とバイオフィルム形成菌における有用
性評価
日本薬剤学会第 38 年会、2023 年 5 月 16-18 日、（愛知）

尾関哲也【会長講演】
コロナ禍をこえて-その 2- 申請!日本薬剤学会
日本薬剤学会第 38 年会、2023 年 5 月 16 日～18 日（講演は 17 日）、ウインク愛知、名古
屋、愛知

小川昂輝、田上辰秋、尾関哲也
鼻-脳デリバリーにおける逆行性アデノ随伴ウイルスベクター；AAV2-Retro の有用性評価
第 39 回日本 DDS 学会、2023 年 7 月 27-28 日、（千葉）

小川昂輝、田上辰秋、尾関哲也

脂質を溶解する有機溶媒組成に着目したアクティブターゲティング型 mRNA 封入脂質ナノ粒子のワンステップ調製

遺伝子・デリバリー研究会第 21 回夏期セミナー、2023 年 8 月 27 日、（長崎）

尾関哲也【招待講演】

ナノメディシンのものづくり～ドラッグデリバリーの未来予想図～

第 31 回 DDS カンファレンス、2023 年 9 月 8 日、静岡県立大学、草薙、静岡、

竹沢香穂、小川昂輝、田上辰秋、尾関哲也

経口投与によるエクソソームの小腸デリバリーを目指した腸溶性ポリマー被覆エクソソームの開発

第 48 回製剤・創剤セミナー、2023 年 9 月 14-15 日、（神奈川）

相川音和、佐藤一輝、小川昂輝、田上辰秋、尾関哲也

噴霧凍結乾燥工程における pH 調整剤の添加による、粉末製剤化 mRNA 封入脂質ナノ粒子の構造保持および安定化

粉体工学会 省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会、2023 年 9 月 19-20 日、（愛知）

佐藤一輝、ペ・ヒジュ、小川昂輝、田上辰秋、尾関哲也

噴霧急速凍結乾燥法を用いた、吸入粉末剤化を目指した mRNA 封入脂質ナノ粒子の開発

第 40 回製剤と粒子設計シンポジウム、2023 年 11 月 20-21 日、（兵庫）

諏訪部晋、小川昂輝、田上辰秋、尾関哲也

Preparation of drug-loaded citrus lemon-derived extracellular vesicles for drug delivery to glioma
AFPS Conference 2023、ベトナム

Tetsuya Ozeki【受賞講演】

Manufacturing platform for nanomedicine.

The Asian Federation for Pharmaceutical Sciences (AFPS) Nagai Distinguished Scientist Award 2023,
Melia Hanoi Hotel, Hanoi, Viet Nam, November 8-10 (presentation: Nov. 9), 2023.

鈴木祐稀, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

蛍光基質を利用した OATP2A1 機能の迅速評価.

日本薬学会第 135 年会, 2015 年 3 月 26 - 28 日 (神戸)

【多階層生命機能解析学分野】

(原報)

Saeko Yanaka, Rina Yogo, Hirokazu Yagi, Masayoshi Onitsuka, Natsumi Wakaizumi, Yuki Yamaguchi, Susumu Uchiyama, and Koichi Kato
Negative interference with antibody-dependent cellular cytotoxicity mediated by rituximab from its interactions with human serum proteins
Front. Immunol. 14, 1090898 (2023).

Kotaro Ishida, Hirokazu Yagi, Yukinari Kato, and Eiji Morita
N-linked glycosylation of flavivirus E protein contributes to viral particle formation
PLoS Pathog. 19, 10, e1011681 (2023).

Satoshi Ninagawa, Masaki Matsuo, Deng Ying, Shinya Aso, Kazutoshi Matsushita, Akane Fueki, Shunsuke Saito, Koshi Imami, Yasuhiko Kizuka, Tetsushi Sakuma, Takashi Yamamoto, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Kazutoshi Mori
UGGT1/2-mediated reglucosylation of N-glycan competes with ER-associated degradation of unstable and misfolded glycoproteins
e Life (2023).

(総説・著書・総合論文など)

Koichi Kato and Hirokazu Yagi
Current status and challenges in structural glycobiology
Trends in Carbohydrate Research 15, 38-46 (2023).

Daisuke Koga, Satoshi Kusumi, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato
Three-dimensional analysis of the intracellular architecture by scanning electron microscopy
Microscopy (Oxf) in press (2023).

(学会発表)

金山大地, 柘植信吾, 齋藤泰輝, 矢木宏和, 加藤晃一

分子コードの導入による糖タンパク質の糖鎖修飾制御の条件検討

第 18 回 糖鎖科学中部拠点「若手の力」フォーラム 2023 年 1 月 7 日（名古屋）；P-23.

Jinbo Shim, 矢木宏和, 武村政春, 横田育子, 古川潤一, 加藤晃一

トキョーウイルスの O 型糖鎖の構造解析

第 18 回 糖鎖科学中部拠点「若手の力」フォーラム 2023 年 1 月 7 日（名古屋）；P-24.

高木克樹, 矢木宏和, 加藤晃一

糖転移酵素のドメイン分類

第 18 回 糖鎖科学中部拠点「若手の力」フォーラム 2023 年 1 月 7 日（名古屋）；P-25.

Saeko Yanaka, Rina Yogo, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

Exploring the Structural Dynamics and Interactions of Antibodies: A Multidisciplinary Approach

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日（Seoul）

Jinbo Shim, Hirokazu Yagi, Masaharu Takemura, Ikuko Yokota, Jun-ichi Furukawa, and Koichi Kato

Glycan structure analysis of giant viruses and their host, acanthamoeba

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日（Seoul）

Rio Nakano, Rino Yamada, Emiko Nishi, Taiki Saito, Kengo Inutsuka, Shungo Adachi, Takuro Tojima,

Jun-ichi Furukawa, Rena Honda, Saeko Yanaka, Maho Yagi-Utsumi, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato

Elucidation of the mechanisms of protein glycosylation controlled by passport sequence

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日（Seoul）

Mei Hoshina, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Satoshi Ishikawa, Shigeaki Hida, and Koichi Kato

Exploration of the mechanisms underlying matriglycan elongation during T cell differentiation focusing on glycosyltransferases

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023 年 1 月 20 日（Seoul）

Kengo Inutsuka, Taiki Saito, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato

Toward elucidation of functional complex structure of ERGIC

Symposium on Frontier Research for Disease-related Proteins and 2023 Korea-Japan Joint Meeting for Molecular Sciences 2023年1月20日 (Seoul)

矢木宏和【招待講演】

構造解析を基軸とした糖鎖の機能研究

神戸薬科大学学生化学研究室セミナー 2023年1月27日 (神戸)

Hirokazu Yagi

Unraveling the Mechanisms of Protein-Specific Glycosylation by Golgi Apparatus Glycosyltransferases

International Symposium Beyond Organelle Zones 2023年3月6日 (東京)

中野里音, 山田梨乃, 西 栄美子, 齋藤泰輝, 犬塚健剛, 足達俊吾, 戸島拓郎, 古川潤一, 本田怜奈, 谷中 冴子, 矢木真穂, 矢木宏和, 加藤晃一

パスポート配列による糖タンパク質の糖鎖修飾制御の分子機構

日本薬学会 第143年会 2023年3月27日 (札幌) ; 27E5-am12S.

保科 明, 矢木宏和, 矢木真穂, 石川 怜, 肥田重明, 加藤晃一

T細胞分化に伴うマトリグリカンの伸長抑制機構の探査

日本薬学会 第143年会 2023年3月28日 (札幌) ; 28F2-am10S.

矢木宏和【招待講演】

特別シンポジウム「N型糖鎖研究の新展開」

糖鎖構造を規定する分子メカニズム

第69回 日本生化学会近畿支部例会 2023年5月27日 (京都)

齋藤泰輝, 山田梨乃, 中野里音, 犬塚健剛, 足達俊吾, 戸島拓郎, 古川潤一, 本田怜奈, 谷中冴子, 矢木真穂, 矢木宏和, 加藤晃一

分泌経路においてタンパク質の糖鎖修飾を規定する分子機構の解明

第87回 日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2023年5月27日 ; A-4. 【オンライン開催】

矢木宏和, 加藤晃一

膜交通経路におけるタンパク質特異的な糖鎖修飾メカニズム

第75回 日本細胞生物学会大会 2023年6月30日 (奈良)

杉山正明, 守島 健, 柚木康弘, 井上倫太郎, 佐藤信浩, 矢木宏和, 加藤晃一

Integrated Analysis of Kai-Circadian Clock System

Kai 時計タンパク質の概日振動のシステム解析

第 23 回 日本蛋白質科学会年会 2023 年 7 月 7 日 (名古屋) ; 3P-074.

矢木宏和

ラット血清のグライコプロテオミクス

第 26 回 比較グライコム研究会 2023 年 7 月 15 日 (名古屋)

関 健仁, 山口拓実, 榮 慶丈, 神田智哉, 矢木宏和, 加藤晃一

糖鎖の構造アンサンブルを考慮した蛋白質との相互作用評価方法の開発

第 62 回分子科学若手の会 夏の学校 2023 年 8 月 16 日 (福岡) ; P36.

Ken Morishima, Yasuhiro Yunoki, Masahiro Shimizu, Nobuhiro Sato, Rintaro Inoue, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, あ and Masaaki Sugiyama

Structural analysis of clock protein complex in solution by the integrated approach with analytical ultracentrifugation and small-angle scattering

26TH Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography

2023 年 8 月 22-29 日 (Melbourne)

Hirokazu Yagi, Fumiko Umezawa, Mei Hoshina, Kazuki Nakajima, Hiroto Kawashima, Chu-Wei Kuo, Kay-Hooi Khoo, Takaya Shimura, and Koichi Kato

PCYT2-Mediated Glycerol Phosphate Modification of α -Dystroglycan Disrupts Matriglycan Elongation and Thereby Enhances Colorectal Cancer Metastasis

GLYCO26 2023 年 8 月 29 日 (Taipei) ; A087.

Taiki Saito, Shungo Adachi, Hirokazu Yagi, Koichi Kato

Molecular networks involving glycosyltransferases characterized by proximity labeling

GLYCO26 2023 年 8 月 31 日 (Taipei) ; A013.

蜷川 暁, 松尾将生, 鄧 桜, 阿曾伸哉, 松下和俊, 笛木 茜, 斎藤俊介, 今見考志, 木塚康彦, 佐久間哲史, 山本 卓, 矢木宏和, 加藤晃一, 森 和俊

UGGTs は構造異常糖タンパク質の早期分解を抑制する

第 42 回 日本糖質学会年会 2023 年 9 月 8 日 (鳥取) ; P-017.

田中美雪, 矢木宏和, 加藤晃一, 木下聖子

GALAXY データのセマンティックウェブ化

第 42 回 日本糖質学会年会 2023 年 9 月 8 日 (鳥取) ; P-057.

矢木宏和, 建田 潮

電子励起解離による Q-TOF 型質量分析計を用いた糖鎖構造の解析

第 42 回 日本糖質学会年会 2023 年 9 月 8 日 (鳥取) ; P-085.

矢木宏和

構造解析を基軸とした糖タンパク質糖鎖の機能研究

プロテオスタシス領域 PRIME 会議 2023 2023 年 9 月 12 日 (長浜)

保科 明, 矢木宏和, 矢木真穂, 石川 怜, 岡谷千晶, 久野 敦, 肥田重明, 加藤晃一
胸腺細胞におけるマトリグリカンの発現とその制御機構の探査

第 19 回「若手のカフォーラム」 2023 年 9 月 21 日 (静岡) ; P-14.

中野里音, 齋藤泰輝, 矢木真穂, 矢木宏和, 加藤晃一

フコース転移酵素による糖鎖修飾を制御する分子コード

第 19 回「若手のカフォーラム」 2023 年 9 月 21 日 (静岡) ; P-15.

犬塚健剛, 関 健仁, 山口拓実, 矢木宏和, 矢木真穂, 加藤晃一

糖鎖の構造アンサンブルを考慮した糖タンパク質複合体の評価方法の検討

第 19 回「若手のカフォーラム」 2023 年 9 月 21 日 (静岡) ; P-16.

中村和順, 塩田竜亮, 石田幸太郎, 荒川将志, 藤田優作, 矢木宏和, 加藤幸成, 森田英嗣

日本脳炎ウイルス非構造蛋白質における N 結合型糖鎖修飾の役割

第 70 回 日本ウイルス学会学術集会 2023 年 9 月 26-28 日 (仙台)

石田幸太郎, 矢木宏和, 加藤幸成, 森田英嗣

フラビウイルス E タンパク質の N 結合型糖鎖修飾はウイルス粒子形成に寄与する

第 70 回 日本ウイルス学会学術集会 2023 年 9 月 26-28 日 (仙台)

木塚康彦, 矢木宏和【シンポジウム】分泌経路の新しいタンパク質輸送・修飾システム
イントロダクション

第 96 回 日本生化学会大会 2023 年 10 月 31 日 (福岡) ; 1S02m-00.

矢木宏和【シンポジウム】分泌経路の新しいタンパク質輸送・修飾システム

分泌経路における基質タンパク質と糖転移酵素に組み込まれた分子コードによる糖鎖修飾制御

第 96 回 日本生化学会大会 2023 年 10 月 31 日 (福岡) ; 1S02m-06.

立尾清悟, 齋藤泰輝, 戸島拓郎, 甲賀大輔, 矢木宏和, 加藤晃一

哺乳動物細胞のゴルジ体サブコンパートメントにおける糖転移酵素の局在解析

第 32 回 日本バイオイメージング学会学術集会 2023 年 11 月 3-4 日 (札幌) ; P-37.

杉山正明, 守島 健, 柚木康弘, 井上倫太郎, 矢木宏和, 加藤晃一

Orchestration of proteins in a Kai clock system 2

第 61 回 日本生物物理学会年会 2023 年 11 月 14 日 (名古屋) ; 1Pos032.

矢木宏和

ジストログリカンの糖鎖修飾の構造機能解析

Structural and functional analyses of dystroglycan glycosylation

第 46 回 日本分子生物学会年会 2023 年 12 月 6 日 (神戸) ; 1PS-07-02.

【生薬学分野】

(原報)

Tsukasa Fueki, Itsuki Nose, Yan Liu, Koichiro Tanaka, Takao Namiki, Toshiaki Makino
 α -starch and glycyrrhizin denature the acrid raphides of *Pinellia* tuber in traditional processing.
Acupunct. Herb. Med. 3, 38–45 (2023).

Kohei Takagi, Takashi Sugihira, Miho Kitamura, Mami Kawai, Yoko Mitsuguchi, Kosei Tsukamoto,
Hirofumi Nakanishi, Toshiaki Makino
Inhibitory effect of Bofutsushosan (Fangfengtongshengsan) extract on the absorption of fructose in rats
and mice.
J. Nat. Med. 77, 535–543 (2023).

Masaaki Minami, Masayo Taira, Toshiaki Makino
Inhibitory effect of extracts of hainosan (painongsan) and its constituent crude drugs on production of
monocyte chemoattractant protein-1 and interleukin-6 in murine fibroblasts treated with *Porphyromonas*
gingivalis.
Tradit. Kampo Med. 10, 44–53 (2023).

Shin Takayama, Takao Namiki, Toshiaki Makino, Ryutaro Arita, Hiroshi Odaguchi, Takashi Ito
Kampo medicine for COVID-19 prevention, treatment, and recovery in clinical and pharmacological
aspect.
Tradit. Kampo Med. 10, 75–77 (2023).

Masaaki Minami, Toru Konishi, Masayo Taira, Toshiaki Makino
Ulcer-healing effects of jumihaidokuto extract in a mouse model of methicillin - resistant
Staphylococcus aureus causing skin infection.
Tradit. Kampo Med. 10, 159–167 (2023).

Misato Ota, Yuki Oiwa, Yasuhito Maki, Ichiro Utaka, Sachie Arima, Yoichi Matsuo, Toshiaki Makino,
Shunsuke Nojiri
Evaluation of capsules containing *Valeriana fauriei* root extract for sleep improvement: a randomized,
double-blind, placebo-controlled, cross-over comparative trial.
Tradit. Kampo Med. 10, 177–184 (2023).

Yan Liu, Itsuki Nose, Kazuyoshi Terasaka, Tsukasa Fueki, Toshiaki Makino
Heating or ginger extract reduces the content of *Pinellia* *ternata* lectin in the raphides of *Pinellia* tuber.
J. Nat. Med. 77, 761–773 (2023).

Misato Ota, Yuki Oiwa, Yasuhito Maki, Ichiro Utaka, Sachie Arima, Yoichi Matsuo, Toshiaki Makino,
Shunsuke Nojiri

Safety evaluation of continuous administration of a high dose of *Valeriana fauriei* root extract in mice and in humans through an open-label study.

Tradit. Kampo Med. 10, 269–277 (2023).

(総説・著書・総合論文など)

牧野利明

生薬ハンゲの修治に関する薬史学的研究

日本医史学雑誌, 69, 344-345 (2023).

牧野利明

大建中湯を構成する生薬の効能の標準化案

漢方と最新治療, 32, 33-38 (2023).

牧野利明

生薬学研究における本草書の活用法—半夏での研究例から—

漢方と最新治療, 32, 117-122 (2023).

牧野利明

単味生薬の薬効標準化プロジェクト再び

漢方の臨床, 70, 70 (2023).

笛木司, 田中耕一郎, 並木隆雄, 牧野利明

ハンゲのイガイガについての最近の知見—生姜で本当にイガイガは治るのか—

漢方の臨床, 70, 589-600 (2023).

松岡尚則, 永塚憲治, 別府正志, 牧野利明

モグサの基原植物・植物名についての一考察

藤門医林, 35, 40-43 (2023).

牧野利明

日本と中国における生薬の名称とその基原の違い

薬事日報, 1月6日 (2023).

牧野利明

日本と中国における生薬の修治に関する違い

薬事日報, 2月22日 (2023).

牧野利明

生薬ハンゲの修治に関する薬史学的研究

薬史レター, 90 (2023).

牧野利明

半夏の「えぐ味」と「イガイガ」について
薬事日報, 3月31日 (2023).

牧野利明
人参から紅参へ修治すると確かに免疫賦活作用が増強する
薬事日報, 4月26日 (2023).

牧野利明
炙甘草の日本と中国の違いからハチミツの研究へ
薬事日報, 5月24日 (2023).

牧野利明
生薬の指標成分と有効成分は異なることがある～ブシの研究の例から
薬事日報, 6月26日 (2023).

牧野利明
甘草の副作用、偽アルドステロン症の真の原因物質の探索
薬事日報, 7月21日 (2023).

牧野利明
生薬・漢方薬を取り扱う論文を執筆する際の諸注意
薬事日報, 8月18日 (2023).

牧野利明
私が行ってきた薬史学研究について
薬事日報, 9月25日 (2023).

牧野利明
個々の生薬の効能は実は決まっていない
薬事日報, 10月23日 (2023).

牧野利明
生薬、漢方薬の効能別分類法
薬事日報, 11月22日 (2023).

牧野利明
漢方の本場は中国なの？
名市大ブックス第14巻（共著）中日新聞社, 名古屋, pp. 23 (2023).

石内勘一郎
自然が生み出す薬
名市大ブックス第14巻（共著）中日新聞社, 名古屋, pp. 72-79 (2023).

(学会発表)

牧野利明

第13回、補陰薬・補養薬と補陰剤・補陽剤・滋陰剤

名古屋市立大学病院漢方医学センターWeb勉強会, 2023年2月16日 (オンライン).

牧野利明

日中传统医药比较研究

黒竜江中医药大学特別セミナー, 2023年3月14日 (哈尔滨).

牧野利明【教育講演】

生薬の薬能を科学する

令和5年度日本東洋医学会関東甲信越地区春期教育講演会, 2023年3月15日 (オンライン).

牧野利明

日中传统医药比较研究

天津中医药大学特別セミナー, 2023年3月16日 (天津).

牧野利明

甘草的蜜炙炮制科学评价

沈阳药科大学中药学研究生学术研讨会暨国际传统药物论坛, 2023年3月19日 (沈阳).

阪田雅実, 池田義人, 伊藤加奈子, 藤田菜々子, 山田泰之, 佐野紘平, 宗兼将之, 向高弘, 神戸大朋, 牧野利明, 土反伸和

亜鉛取り込みを促進する生薬の探索とカッコンの成分の検討

日本薬学会第143年会, 2023年3月27日 (札幌).

迫田凌太, 吉野鉄大, 石内勘一郎, 牧野利明

甘草による偽アルドステロン症発症原因成分候補、3-*epi*-グリチルレチン酸の体内動態

日本薬学会第143年会, 2023年3月27日 (札幌).

高橋愛, 岩崎里矩, 草間-江口國子, 宮岸寛子, 石内勘一郎, 廣瀬大, 松崎 桂一, 大崎 愛弓, 小菅康弘

糸状菌由来二次代謝産物の小胞体ストレス誘発細胞死に対する保護効果

日本薬学会第143年会, 2023年3月27日 (札幌).

諸岡真里奈, 能瀬逸紀, 山路誠一, 牧野利明

一般用医薬品における原料生薬類の規格基準に関する研究

日本薬学会第143年会, 2023年3月27日 (札幌).

吉野蒼生, 牧野利明, 寺坂和祥

モミジバダイオウのアントラキノン配糖化酵素の単離と機能解析

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 28 日 (札幌).

島凜太郎, 廣瀬大, 石内勘一郎

ツツジ科植物由来内生糸状菌 *Penicillium meridianum* VBP6 の成分研究

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 28 日 (札幌).

牧野利明

名古屋市立大学薬用植物園で栽培している植物たち

第 50 期東海漢方協議会入門講座, 2023 年 4 月 9 日 (名古屋).

牧野利明

第 14 回、去痰剤、安神剤、その他の代表的な処方について

名古屋市立大学病院漢方医学センターWeb 勉強会, 2023 年 4 月 20 日 (オンライン).

牧野利明

日中传统医药比较研究

上海中医药大学特別セミナー, 2023 年 6 月 7 日 (上海).

牧野利明

第 15 回、生薬・漢方薬に関する医療薬学的諸問題

名古屋市立大学病院漢方医学センターWeb 勉強会, 2023 年 6 月 15 日 (オンライン).

牧野利明【シンポジウム講演】

漢方湯液でのエビデンスは作れるのか？

第 73 回日本東洋医学会学術総会, 2023 年 6 月 16 日 (博多).

笛木司, 太田美里, 能瀬逸紀, 安井廣迪, 牧野利明

生薬末熱湯浸漬法 (IPCD 法) と従来の煎煮法それぞれによって調製したエキス中の含有化合物の比較

第 73 回日本東洋医学会学術総会, 2023 年 6 月 16 日 (博多).

牧野利明【シンポジウム講演】

ISO/TC249/WG5 (伝統医学における用語と情報) に関する現状と報告

第 73 回日本東洋医学会学術総会, 2023 年 6 月 18 日 (博多).

牧野利明【特別企画】

明快回答！今さら聞けない生薬・漢方薬の疑問

第 73 回日本東洋医学会学術総会, 2023 年 6 月 18 日 (博多).

Toshiaki Makino

Comparative research of traditional medicines between China and Japan and how to determine the ideal quality control marker for crude drugs in traditional Chinese medicine.

2023 China APEC Cooperation Fund - Regulatory Science and International Sharing of Traditional

Medicine Scientific & Technological Innovation International Symposium, 2023 年 7 月 5 日 (北京).

牧野利明

甘草による副作用、偽アルドステロン症について

健康ハートウィーク 2023 特別企画, 牧野富太郎博士の遺産と漢方薬の可能性, 循環器診療への貢献, 2023 年 7 月 24 日 (オンライン).

牧野利明

Exploration for the real causal compounds of licorice-induced pseudoaldosteronism

北京大学薬学院特別セミナー, 2023 年 7 月 29 日 (北京).

牧野利明

日中传统医药比较研究

中国中医科学院特別セミナー, 2023 年 7 月 29 日 (北京).

牧野利明【ランチョンセミナー】

漢方薬の副作用に対処する

第 40 回和漢医薬学会学術大会, 2023 年 8 月 27 日 (富山).

劉艶, 能瀬逸紀, 寺坂和祥, 笛木司, 田中耕一郎, 牧野利明

ハンゲ針状結晶の加熱または生姜処理によるイガイガ減弱機序とレクチンの関与
日本生薬学会第 69 回年会, 2023 年 9 月 9 日 (仙台).

石井脩斗, 廣瀬大, 石内勘一郎

ヒカゲノカズラ科植物より分離した *Penicillium* 属糸状菌の成分研究

日本生薬学会第 69 回年会, 2023 年 9 月 9 日 (仙台).

吉野蒼生, 牧野利明, 寺坂和祥

モミジバダイオウからの植物二次代謝糖転移酵素の単離とアントラキノン配糖化活性

第 40 回 日本植物バイオテクノロジー学会 (千葉) 大会, 2023 年 9 月 10-13 日 (千葉).

Itsuki Nose, Koichiro Tanaka, Tsukasa Fueki, Toshiaki Makino

Development of the system to assess the acidity of *Pinellia* tuber using cultured cells and its traditional detoxification methods

The 20th International Congress of Oriental Medicine, 2023 年 9 月 17 日 (Seoul, Korea).

Ryota Sakoda, Kan'ichiro Ishiuchi, Tetsuhiro Yoshino, Keiko Ogawa, Kiyoshi Minamizawa, Kenji Watanabe, Takao Namiki, Toshiaki Makino

Serum concentration of 3-epi-GA, one of glycyrrhizin metabolites in humans, correlates with the markers of pseudohyperaldosteronism

The 20th International Congress of Oriental Medicine, 2023 年 9 月 17 日 (Seoul, Korea).

牧野利明

生薬・漢方薬に関する医薬品情報学

東邦大学薬学部生涯学習講座令和5年度下期漢方講座, 2023年10月1日 (オンライン).

清水優香, 松井俊樹, 土反伸和, 寺坂和祥, 佐藤文彦, 山田泰之

ウマノスズクサのアリストロキア酸生成系における O-methyltransferase の機能解析 —アリストロキア酸生成酵素の探索と機能解析—

第73回日本薬学会関西支部総会・大会, 2023年10月14日 (神戸).

Toshiaki Makino

Study on the acidity of *Pinellia ternata* tuber (半夏) and its reduction mechanisms by heating and the processing using ginger.

第38届天然薬物研討會, 2023年10月28日 (台北).

牧野利明

生薬・漢方薬の医療薬学的諸問題～副作用と西洋薬との薬物相互作用について～

KAMPO SEMINAR in 滋賀医大, 2023年11月9日 (大津).

山中翔悟, 平丸航太郎, 水野佑哉, 宮嶋ちはる, 石内勘一郎, 牧野利明, 松野倫代, 水上元, 井上靖道, 林秀敏

ミャンマー植物由来化合物による HRI 活性化を介したストレス応答性転写因子 ATF4 誘導機構の解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023, 2023年11月12日 (名古屋).

牧野利明 【シンポジウム講演】

ハチミツを加熱すると免疫賦活活性が出現する

ミツバチサミット 2023, 2023年11月21日 (つくば).

Toshiaki Makino

Exploration for the real causative compounds of licorice-induced pseudoaldosteronism – recent advance

2023 国际产学研用合作会议中药学分会场, 2023年12月10日 (天津).

【衛生化学分野】

(原報)

Takuma Kitano, Kaho Togawa, Juri Takemori, Yuya Motoki, Keitaroh Kishida, Saotomo Itoh, Masaya Takamoto, Shinsuke Taki, Shigeaki Hida
Interleukin-3-dependent potentiation of IgE responsiveness in mouse basophils
Genes to Cells. 8(3):226-236. 2023

(学会発表)

瀧井猛将, 伊藤佐生智, 大原直也, 前田伸司, 肥田重明
Mycobacterium avium の酸性環境下での適応能の解析
第 96 回日本細菌学会総会 2023 年 3 月 16-18 日 (姫路)

向井中玲菜, 伊藤佑真, 伊藤佐生智, 肥田重明
好塩基球におけるグラム陽性菌認識機構の解明
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 25-28 日 (札幌)

河野紗英, 滝藤遥希, 岩田陸人, 田中友理, 占部彩花, 肥田重明, 伊藤佐生智
黄色ブドウ球菌免疫かく乱毒素のマスト細胞の活性化作用
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 25-28 日 (札幌)

伊藤佑真

ビフィズス菌に対する宿主自然免疫応答
第 87 回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2023 年 5 月 27 日 (名古屋)

野田千咲, 河野紗英, 小川勇, 肥田重明, 伊藤佐生智
黄色ブドウ球菌スーパー抗原様毒素によるマスト細胞の接着誘導
第 69 回 日本薬学会東海支部総会・大会 2023 年 7 月 8 日 (名古屋)

村瀬香乃, 石川怜, 伊藤佐生智, 肥田重明
HMG-CoA 還元酵素阻害薬による T 細胞免疫応答への影響
フォーラム 2023 : 衛生薬学・環境トキシコロジー, 2023 年 9 月 (広島)

永井智希, 生田現, 佐々木駿吾, 伊藤佑真, 伊藤佐生智, 瀧伸介, 肥田重明

転写因子 IRF2 が制御する自然免疫細胞分化と免疫応答

フォーラム 2023：衛生薬学・環境トキシコロジー，2023 年 9 月（広島）

Takashi Kitaguchi, Kotaro Shirai, Isamu Ogawa, Takahiro Matsuda, Katsutoshi Ohno, Kazuhiro Kobayashi, Takahiro Iwao, Mitsuru Tanaka, Tamihide Matsunaga

Improvement of predictability of human oral absorption of glycoside compounds by modified culture method of human iPS cell-derived small intestinal cells

日本薬物動態学会第 38 回年会・第 23 回シトクロム P450 国際学会国際合同大会，2023 年 9 月（静岡）

Tamihide Matsunaga, Daichi Onozato, Isamu Ogawa, Takahiro Iwao

Generation of human iPS cell-derived intestinal organoids to use for mucosal damage and intestinal fibrosis models

EUROTOX2023 LJUBLJANA-SLOVENIA 2023 年 9 月（スロベニア）

伊藤佐生智，河野紗英，小川勇，肥田重明

黄色ブドウ球菌の産生する免疫かく乱タンパク質によるマスト細胞の活性化作用の解析

第 60 回日本細菌学会中部支部総会 2023 年 10 月 7 日 オンライン

植内菜々，伊藤佑真，伊藤佐生智，小川勇，谷口俊一郎，肥田重明

ビフィズス菌を用いた新規 DDS における安全性の検討

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023，2023 年 11 月（名古屋）

戸川果歩，向井中玲菜，北野拓真，小川勇，伊藤佐生智，瀧伸介，肥田重明

好塩基球の IL-4 産生に関与するシグナル伝達分子の解析と受容体の探索

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023，2023 年 11 月（名古屋）

河野紗英，野田千咲，小川勇，肥田重明，伊藤佐生智

黄色ブドウ球菌毒素による細胞接着制御

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023，2023 年 11 月（名古屋）

向井中玲菜，伊藤佑真，伊藤佐生智，肥田重明

表皮ブドウ球菌とその分泌物が自然免疫細胞および Type2 炎症反応に及ぼす影響

第 28 回 日本エンドトキシン・自然免疫研究会 2023 年 12 月 1-2 日 (名古屋)

石川 伶, 村瀬 香乃, 小川 勇, 伊藤 佐生智, 肥田 重明

HMG-CoA 還元酵素阻害薬による免疫応答への影響の検討

第 28 回 日本エンドトキシン・自然免疫研究会 2023 年 12 月 1-2 日 (名古屋)

【遺伝情報学分野】

(原報)

Ogami, K., Ogawa, K., Sanpei, S., Ichikawa, F., Udagawa, T., Hoshino, S. (2023) A Combinatorial Code for CPEB-Mediated c-myc Repression. *Cells* 12, 2410.

Ogami, K., Oishi, Y., Hoshino, S. (2023) Protocol for analyzing intact mRNA poly(A) tail length using nanopore direct RNA sequencing. *STAR Protocols* 4, 102340.

(総説・著書・総合論文など)

星野真一：夢の新薬 mRNA 医薬、名市大ブックス第 14 巻：24-31 (2023)

(学会発表)

星野 真一：「人工 mRNA の安定化・翻訳効率化技術の開発」AMED 委託研究開発 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 B 型肝炎創薬実用化等研究事業「B 型肝炎ウイルスの排除を可能とするゲノム編集治療の実用化に向けた包括的な研究」研究班（溝上班）令和 5 度班会議（東京）オンライン開催、2023 年 12 月 28 日

井上 匠, 尾上 耕一, 稲垣 佑都, 宇田川 剛, 星野 真一: LARP1 は mTOR シグナルに呼応して TOP mRNA のポリ A 鎖長と翻訳活性を制御する、第 46 回日本分子生物学会年会、2023 年 12 月 6 日（神戸）

小森 太貴, 稲垣 佑都, 星野 真一: 翻訳抑制因子 Paip2 は PAM2 モチーフ依存的に mRNA ポリ A 鎖分解を促進する、第 46 回日本分子生物学会年会、2023 年 12 月 6 日（神戸）

日比野 真也、大石 結香、尾上 耕一、宇田川 剛、星野 真一: RNA 結合タンパク質 LARP1 によるノンコーディング RNA GAS5 の制御、第 46 回日本分子生物学会年会、2023 年 12 月 6 日（神戸）

小川 慧真, 宇田川 剛, 星野 真一: RNA 結合タンパク質 LARP4 による mRNA の転写後ポリ A 鎖伸長と翻訳活性化、第 46 回日本分子生物学会年会、2023 年 12 月 6 日 (神戸)

片岡 奈緒, 横川 真梨子, 石井 裕一郎, 城 えりか, 高嶋 大翔, 沢崎 綾一, 寒河江 彪流, 尾上 耕一, 星野 真一, 大澤 匡範: B-cell translocation gene 2 (BTG2) による Caf1 依存的な poly(A) 分解の促進機構の解明、第 46 回日本分子生物学会年会、2023 年 12 月 6 日 (神戸)

Koichi Ogami, Shin-ichi Hoshino : Making TOP mRNA a Top Priority: Unraveling the Regulation of Protein Synthesis Machinery through Poly(A) Tail Dynamics, The 61th Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan、2023 年 11 月 14 日 (名古屋) 招待講演

小川 慧真、宇田川 剛、星野 真一 : LARP4 は標的 mRNA のポリ A 鎖を転写後に伸長し翻訳を活性化する、第 22 回ファーマバイオフォーラム 2023、2023 年 9 月 8 日 (福岡)

小森 太貴、稲垣 佑都、星野 真一 : 翻訳抑制因子 Paip2 による新規翻訳抑制のメカニズム、第 22 回ファーマバイオフォーラム 2023、2023 年 9 月 8 日 (福岡)

星野 真一 : 「人工 mRNA の安定化・翻訳効率化技術の開発」AMED 委託研究開発 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 B 型肝炎創薬実用化等研究事業「B 型肝炎ウイルスの排除を可能とするゲノム編集治療の実用化に向けた包括的な研究」研究班 (溝上班) 令和 4 度班会議 (東京) オンライン開催、2023 年 2 月 22 日

星野 真一 : 「mRNA 医薬の安定化技術と翻訳効率化技術」 アドバイザリーボードセミナー、2023 年 2 月 6 日 (名古屋) オンライン開催

【細胞分子薬効解析学分野】

(原報)

Akiko Kawade, Aya Yamamura, Rubii Kondo, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura
Corosolic acid ameliorates vascular remodeling in pulmonary arterial hypertension via the
downregulation of STAT3 signaling
J Pharmacol Sci., 151(2):119-127 (2023).

Sou Inagaki, Yoshiaki Suzuki, Keisuke Kawasaki, Rubii Kondo, Yuji Imaizumi, Hisao Yamamura
Mitofusin 1 and 2 differentially regulate mitochondrial function underlying Ca²⁺ signaling and
proliferation in rat aortic smooth muscle cells.
Biochem Biophys Res Commun., 645:137-146 (2023).

Masashi Ishida, Aya Yamamura, Moe Fujiwara, Taiki Amano, Mina Ota, Yukari Hikawa, Rubii Kondo,
Yoshiaki Suzuki, Yuji Imaizumi, Hisao Yamamura
Pimaric acid reduces vasoconstriction via BKCa channel activation and VDCC inhibition in rat
pulmonary arterial smooth muscles.
J Pharmacol Sci., 153(2):84-88 (2023).

Kodai Yajima, Takeshi Akiyoshi, Kazuho Sakamoto, Yoshiaki Suzuki, Takayuki Oka, Ayuko Imaoka,
Hisao Yamamura, Junko Kurokawa, Hisakazu Ohtani
Determination of single-molecule transport activity of OATP2B1 by measuring the number of
transporter molecules using electrophysiological approach.
J Pharmacol Sci., 153(3):153-160 (2023).

(総説・著書・総合論文など)

(学会発表)

倉田朋、鈴木良明、近藤るびい、今泉裕治、山村寿男
ラット大動脈平滑筋細胞におけるジャンクトフィリン2によるCa²⁺遊離活性化Ca²⁺チャネル
制御機構の解明
第32回日本循環薬理学会、2023年1月27日(東京)

中島七海、鈴木良明、荒木正健、荒木喜美、近藤るびい、今泉祐治、山村寿男
興奮転写連関と血管リモデリング形成における CaMKK2 の役割の解明
第 32 回日本循環薬理学会、2023 年 1 月 27 日（東京）

山村寿男【2023 年度 日本薬学会 学術振興賞 受賞講演】
クロライドチャネルの多彩な生理機能と病態機能変化
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日（札幌）

山村彩、中浜光哉、Md Junayed Nayeem、Alamgir Hossain、高橋理恵、山村寿男、佐藤元彦
肺動脈性肺高血圧症におけるニコチン性アセチルコリン受容体の寄与
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日（札幌）

小川璃子、近藤るびい、山村彩、鈴木良明、山村寿男
肺動脈性肺高血圧症由来肺動脈平滑筋細胞におけるコロソリン酸のアポトーシス誘導作用
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日（札幌）

加藤由納、近藤るびい、山村彩、鈴木良明、山村寿男
肺高血圧症患者由来肺動脈平滑筋細胞の周期における TRPC6 チャネルの役割
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日（札幌）

澤井優輝、鈴木良明、近藤るびい、今泉祐治、山村寿男【優秀発表賞】
カベオリン 1 は P2X7 受容体の活性調節を介して炎症性マクロファージの ATP 依存性シグナルを制御する
第 17 回トランスポーター研究会年会、2023 年 5 月 27 日（名古屋）

天野泰樹、山村彩、藤原萌園、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男
肺動脈性肺高血圧症における CIC3 クロライドチャネル/トランスポーターの発現機能
第 17 回トランスポーター研究会年会、2023 年 5 月 27 日（名古屋）

関根大雅、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男
Ca²⁺ 活性化 Cl⁻ チャネル TMEM16A に対する paxilline の阻害効果
第 17 回トランスポーター研究会年会、2023 年 5 月 27 日（名古屋）

小井手司、鈴木良明、倉田朋、近藤るびい、今泉祐治、山村寿男

ラット大動脈平滑筋細胞におけるジャンクトフィリン2によるCa²⁺遊離活性化Ca²⁺チャネル制御機構の解明

第17回トランスポーター研究会年会、2023年5月27日（名古屋）

小井手司、鈴木良明、倉田朋、近藤るびい、今泉祐治、山村寿男

血管平滑筋細胞におけるジャンクトフィリン2によるCa²⁺遊離活性化Ca²⁺チャネル制御機構の解明

第134回日本薬理学会近畿部会、2023年6月24日（名古屋）

倉田朋、鈴木良明、楯野真也、味八木茂、Eiva Bernotiene、Wayne Giles、山村寿男

Kv1.6チャネルによる軟骨細胞の膜電位制御と変形性膝関節症への寄与の解明

第69回日本薬学会東海支部会、2023年7月8日（名古屋）

鈴木良明、中島七海、田邊晴也、荒木正健、荒木喜美、Zamponi Gerald、Giles Wayne、今泉祐治、山村寿男【招待講演】

平滑筋細胞の興奮-転写連関を介した血管リモデリング形成機構の解明

第44回日本炎症・再生医学会、2023年7月13日（大阪）

川田成紀、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男【最優秀賞】

肝星細胞におけるTREK1チャネルとT型Ca²⁺チャネルの機能解析

東海地区薬学系電気生理学研究会、2023年9月19日（静岡）

天野泰樹、山村彩、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男

肺高血圧症における容積感受性CIC3チャネルと機械感受性Piezo1チャネル

東海地区薬学系電気生理学研究会、2023年9月19日（静岡）

山村寿男【特別講演】

パッチクランプに出会って30年

東海地区薬学系電気生理学研究会 2023、2023年9月19日（静岡）

Yoshiaki Suzuki, Yuji Imaizumi, Hisao Yamamura【招待講演】

Molecular complexes localized in caveolae control multiple functions of vascular smooth muscle-

Involvement of a molecular complex formed in caveolae in vascular remodeling by E-T coupling

第65回日本平滑筋学会総会、8月5～6日（東京）

鈴木良明、中島七海、田邊晴也、荒木正健、荒木喜美、Zamponi Gerald、Giles Wayne、今泉祐治、山村寿男

血管平滑筋細胞の興奮-転写連関を介した血管リモデリング形成機構の解明

生理研研究会 2023 「炎症・免疫系と心血管系の相互作用から切り拓く循環生理機能の解析」、

2023年10月12-13日（岡崎）

中浜光哉、山村彩、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男

ヒト肺動脈平滑筋細胞におけるニコチン性アセチルコリン受容体（nAChR $\alpha 5$ ）の発現機能解析

生理研研究会 2023 「炎症・免疫系と心血管系の相互作用から切り拓く循環生理機能の解析」

2023年10月12-13日（岡崎）

天野泰樹、山村彩、藤原萌園、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男

肺高血圧症における容積感受性クロライドチャンネル CIC3 の発現機能解析

生理研研究会 2023 「炎症・免疫系と心血管系の相互作用から切り拓く循環生理機能の解析」

2023年10月12-13日（岡崎）

倉田朋、鈴木良明、近藤るびい、今泉祐治、山村寿男

ラット大動脈平滑筋細胞の CRAC チャンネル制御機構における JP2 の役割の解明

生理研研究会 2023 「炎症・免疫系と心血管系の相互作用から切り拓く循環生理機能の解析」

2023年10月12-13日（岡崎）

小井手司、鈴木良明、近藤るびい、今泉祐治、山村寿男

光遺伝学的手法を用いた血管リモデリング形成機構の解明

生理研研究会 2023 「炎症・免疫系と心血管系の相互作用から切り拓く循環生理機能の解析」

2023年10月12-13日（岡崎）

藤原萌園、山村彩、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男

フィンゴリモドは炎症を抑制し、肺高血圧症モデル動物の病態を改善する

生理研研究会 2023 「炎症・免疫系と心血管系の相互作用から切り拓く循環生理機能の解析」

2023年10月12-13日（岡崎）

中浜光哉、山村彩、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男

ヒト肺動脈平滑筋細胞に発現するニコチン性アセチルコリン受容体の生理機能

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023 2023年11月12日
(名古屋)

岡田一希、道上七帆、鈴木良明、近藤るびい、山村寿男

CaMKK2 阻害薬の探索を目指した新規スクリーニングアッセイ系の構築

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023 2023年11月12日
(名古屋)

鈴木良明、中島七海、田邊 晴也、荒木正健、荒木喜美、Zamponi Gerald、Giles Wayne、今泉祐治、山村 寿男

血管平滑筋細胞の興奮-転写連関を介した血管リモデリング形成機構の解明

第97回日本薬理学会年会、2023年12月14日(神戸)

澤井優輝、鈴木良明、近藤るびい、今泉祐治、山村寿男

カベオリン1は、炎症性マクロファージのP2X7受容体依存性ATPシグナルを調節する。

Caveolin-1 modulates P2X7 receptor-dependent ATP signaling in pro-inflammatory macrophages.

第97回日本薬理学会年会、2023年12月14日(神戸)

川田成紀、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男

マウス肝星細胞の形質転換に伴うT型Ca²⁺チャネルの発現増加

Upregulation of T-type Ca²⁺ channels expression following phenotype switch of mouse hepatic stellate cells.

第97回日本薬理学会年会、2023年12月14日(神戸)

天野泰樹、山村彩、藤原萌園、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男

肺動脈性肺高血圧症におけるクロライドチャネルClC3の病態生理学的役割の解明

Pathophysiological role of the chloride channel ClC3 in pulmonary arterial hypertension.

第97回日本薬理学会年会、2023年12月14日(神戸)

倉田朋、鈴木良明、楯野真也、味八木茂、Eiva Bernotiene、Wayne Giles、山村寿男

変形性膝関節症の軟骨細胞におけるKv1.6チャネルの役割

Role of Kv1.6 channel in chondrocytes in osteoarthritis

第97回日本薬理学会年会、2023年12月15日(神戸)

関根大雅、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男

Ca²⁺活性化Cl⁻チャネルTMEM16Aに対するpaxillineの阻害効果

Inhibitory effects of paxilline on Ca²⁺ activated Cl⁻ channel TMEM16A

第 97 回日本薬理学会年会、2023 年 12 月 14 日（神戸）

小井手 司、鈴木良明、近藤 るびい、山村寿男

光遺伝学を用いた血管平滑筋における興奮転写連関の解明

The roles of excitation-transcription coupling in vascular smooth muscle cells: Optogenetic insight

第 97 回日本薬理学会年会、2023 年 12 月 14 日（神戸）

葛原 響、三島 寛貴、安藤 駿佑、近藤 るびい、鈴木 良明、山村 寿男

メラトニンはラット松果体の電位依存性 KV4.2 チャンネルを阻害する

Melatonin inhibits voltage-gated KV4.2 channels in rat pinealocytes

第 97 回日本薬理学会年会、2023 年 12 月 14 日（神戸）

藤原萌園、山村彩、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男

フィンゴリモドは肺動脈性肺高血圧症における炎症を抑制し、肺血管リモデリングを改善する

Fingolimod inhibits the inflammation and vascular remodeling in pulmonary arterial hypertension

第 97 回日本薬理学会年会、2023 年 12 月 15 日（神戸）

【病態生化学分野】

(原報)

Keisuke Ishii, Takao Kohno, Kaori Sakai, and Mitsuharu Hattori

Reelin regulates the migration of late-born hippocampal CA1 neurons via cofilin phosphorylation.
Mol. Cell Neurosci., 124, 103794 (2023).

Keisuke Ishii, Takao Kohno, and Mitsuharu Hattori

Postnatal injection of Reelin protein into the cerebellum ameliorates the motor functions in reeler mouse.
Neurosci.Res., 144, 7-14 (2023).

Shintaro Oya, Katsunari Korogi, Takao Kohno, Hitomi Tsuiji, Dmytro I. Danylchuk, Andrey S. Klymchenko, Yosuke Niko, and Mitsuharu Hattori

The plasma membrane polarity is higher in the neuronal growth cone than in the cell body of hippocampal and cerebellar granule neurons.
Biol.Pharm. Bull., 46, 1820-1825 (2023).

(学会発表)

川瀬宗之、松田拓与、梅村悠太、大嶋智葉、大石久史、櫻井隆、服部光治【学生優秀発表賞】

シナプスにおけるリン脂質フリッパーゼ ATP8A1/ATP8A2 の機能
日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 26 日 (札幌)

原光輝、河野孝夫、大澤匡弘、服部光治

分泌タンパク質リーリンの特異的分解の生理的意義の解明
日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 26 日 (札幌)

大宅真太郎、興梶勝成、仁子陽輔、服部光治

神経細胞における局所的な膜流動性差異の意義の解明
日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 27 日 (札幌)

徳永柊、梅村悠太、大嶋智葉、中島鼓美、大石久史、服部光治【学生優秀発表賞】

リン脂質フリッパーゼ ATP8A1/ATP8A2 二重欠損マウスにおける、神経変性とグリア細胞活

性化の分子機構

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 28 日 (札幌)

川瀬宗之、松田拓与、梅村悠太、大嶋智葉、大石久史、櫻井隆、服部光治
リン脂質フリッパーゼ ATP8A1/ATP8A2 の海馬神経細胞での局在と機能.

第 87 回日本生化学会中部支部例会, 2023 年 5 月 27 日 (web)

竹腰祐斗、安藤飛悠吾、河野孝夫、有田誠、服部光治

リーリンは神経細胞膜のスフィンゴミエリン量と、GPI アンカー型タンパク質の細胞膜上発現に影響する

第 87 回日本生化学会中部支部例会, 2023 年 5 月 27 日 (web)

朱悠韻、常浦祐未、溝口博之、澤幡雅仁、森大輔、河野孝夫、服部光治、鍋島俊隆、尾崎紀夫、山田清文

Reln-del Mice Exhibit Defects in Neural Circuitry and Social Communication.

第 143 回日本薬理学会近畿部会, 2023 年 6 月 24 日 (名古屋)

中川育磨、河野孝夫、谷口愛理、服部光治

脳機能に重要なリーリンの、マウス・ヒト間における機能的差異

第 69 回日本薬学会東海支部大会, 2023 年 7 月 8 日 (名古屋)

星合彩那、川瀬宗之、河野孝夫、服部光治

海馬神経細胞におけるリン脂質フリッパーゼ補助サブユニット TMEM30a の局在に関する研究

第 69 回日本薬学会東海支部大会, 2023 年 7 月 8 日 (名古屋)

徳永柊、梅村悠太、中島鼓美、大石久史、服部光治

リン脂質フリッパーゼ ATP8A1/ATP8A2 二重欠損マウスにおける神経変性とグリア細胞活性化の分子機構

第 46 回日本神経科学大会, 2023 年 8 月 2 日 (仙台)

竹腰祐斗、安藤飛悠吾、河野孝夫、有田誠、服部光治

リーリンは神経細胞膜の脂質組成とタンパク質発現に影響する

第 46 回日本神経科学大会, 2023 年 8 月 2 日 (仙台)

川瀬宗之、松田拓与、梅村悠太、星合彩那、大石久史、櫻井隆、服部光治

リン脂質フリッパーゼ ATP8A1 と ATP8A2 の神経細胞内での局在と機能
第 22 回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム, 2023 年 9 月 8 日 (福岡)

徳永柊、梅村悠太、川瀬宗之、中島鼓美、大石久史、服部光治【優秀発表賞】
リン脂質フリッパーゼ ATP8A1/ATP8A2 二重欠損マウスにおける神経変性薬症の分子機構
と、その治療法開発に関する研究
第 22 回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム, 2023 年 9 月 8 日 (福岡)

竹腰祐斗、安藤飛悠吾、河野孝夫、有田誠、服部光治
神経細胞膜のスフィンゴミエリン量に与える分泌タンパク質リーリンの影響の解明
第 22 回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム, 2023 年 9 月 8 日 (福岡)

Yuto Takekoshi, Hugo Ando, Takao Kohno, Makoto Arita, Mitsuharu Hattori
Reelin regulates lipid composition of the neuronal plasma membrane.
Neuroscience 2023, 2023 年 11 月 13 日 (Washington D.C.)

Muneyuki Kawase Takuto Matsuda, Yuta Umemura, Hisashi Oishi, Takashi Sakurai, Mitsuharu Hattori
Phospholipid flippases ATP8A1 and ATP8A2 regulate the functional expression of synaptic proteins in
hippocampal neurons.
Neuroscience 2023, 2023 年 11 月 15 日 (Washington D.C.)

原光輝、服部光治、河野孝夫【ベストプレゼンテーション賞】
脳の層構造形成に必須である Dab1 の新規リン酸化メカニズム
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023, 2023 年 11 月 12 日
(名古屋)

五反田逸孝、川瀬宗之、梅村悠太、河野孝夫、大石久史、服部光治
小脳形成における ATP8A2 とリーリンシグナルの関係の解明
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023, 2023 年 11 月 12 日
(名古屋)

Takao Kohno, Mone Sato, and Mitsuharu Hattori
Myosin Va regulates terminal translocation of superficial layer neurons in the neocortex.
脳とこころの研究センター第 8 回東海地区連携拡大ワークショップ, 2023 年 12 月 9 日 (名古屋)

【薬物動態制御学分野】

(原報)

Shogo Akino, Tomoya Yasujima, Takahiro Yamashiro, Hiroaki Yuasa

Disrupted in renal carcinoma 2 (DIRC2/SLC49A4) is an H⁺-driven lysosomal pyridoxine exporter.

Life Sci. Alliance, 6, e202201629 (2023).

(総説・著書・総合論文など)

湯浅博昭

薬の生体内運命.

「意外と知らない薬の話：暮らしに役立つ薬の知識（名市大ブックス第14巻）」, 名古屋市立大学編, 中日新聞社, 名古屋, pp. 32-39 (2023).

(学会発表)

山城貴弘【受賞講演：長井記念若手薬学研究者賞】

長井記念薬学研究奨励支援事業から得られたもの.

日本薬学会第143年会, 2023年3月25日 - 28日 (札幌) .

森本遥香, 高見華奈, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭

ENBT1/SLC43A3によるオロト酸輸送：HEK293細胞一過性発現系及びHepG2細胞での解析.

日本薬学会第143年会, 2023年3月25日 - 28日 (札幌) .

澁谷玲衣, 谷内夏月, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭

OAT2/SLC22A7の尿酸輸送機能の動物種差に関わる分子機構.

日本薬学会第143年会, 2023年3月25日 - 28日 (札幌) .

松井快人, 山本道弘, 山城貴弘, 保嶋智也, 湯浅博昭

新規蛍光性 SLC19A2/3 プローブ基質としての amiloride の輸送特性.

日本薬学会第143年会, 2023年3月25日 - 28日 (札幌) .

北村拓馬, 牧平伊代, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭

脳で高発現する新規カチオントランスポーターの機能解析：蛍光性試験基質としての ethidium の輸送特性.

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 25 日 - 28 日 (札幌) .

森本遥香, 高見華奈, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭

ENBT1/SLC43A3 のオロト酸に対する輸送機能特性の評価.

日本薬剤学会第 38 年会, 2023 年 5 月 16 日 - 18 日 (名古屋) .

澁谷玲衣, 小幡真由, 谷内夏月, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭

OAT2/SLC22A7 の尿酸輸送機能の動物種差：ラットとマウスとの比較解析.

日本薬剤学会第 38 年会, 2023 年 5 月 16 日 - 18 日 (名古屋) .

松井快人, 山本道弘, 山城貴弘, 保嶋智也, 湯浅博昭

SLC19A2/3 の蛍光性試験基質としての amiloride の輸送特性の評価と利用.

日本薬剤学会第 38 年会, 2023 年 5 月 16 日 - 18 日 (名古屋) .

北村拓馬, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭

HepG2 細胞における capric acid 輸送の解析.

日本薬剤学会第 38 年会, 2023 年 5 月 16 日 - 18 日 (名古屋) .

森本遥香, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭【優秀発表賞】

ATP13A4 の putrescine 輸送機能の解析.

第 17 回トランスポーター研究会年会, 2023 年 5 月 27 日 (名古屋) .

澁谷玲衣, 小幡真由, 谷内夏月, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭【最優秀発表賞】

OAT2/SLC22A7 による尿酸輸送の動物種差に関与するアミノ酸残基の探索.

第 17 回トランスポーター研究会年会, 2023 年 5 月 27 日 (名古屋) .

北村拓馬, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭

肝臓における capric acid の輸送機構：HepG2 細胞を用いた検討.

第 17 回トランスポーター研究会年会, 2023 年 5 月 27 日 (名古屋) .

湯浅博昭【招待講演】

トランスポーターの分子及び機能解析による担体介在性物質動態の動物種差の解明：トランスポーター機能の種差における基質依存性.

第 50 回日本毒性学会学術年会, 2023 年 6 月 19 日 - 21 日 (横浜) .

Isamu Matake, Takahiro Yamashiro, Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa
Functional characterization of ENT2/SLC29A2 as a uric acid transporter.
25th North American ISSX Meeting, Sept. 10 - 13, 2023 (Boston, Massachusetts, U.S.A.).

Hiroaki Yuasa, Saena Yamashita, Takahiro Yamashiro, Tomoya Yasujima
Substrate-dependent characteristics in the transport function of SLC19A3: examination of the aspect of its sensitivity to flavonoids.
25th North American ISSX Meeting, Sept. 10 - 13, 2023 (Boston, Massachusetts, U.S.A.).

Haruka Morimoto, Tomoya Yasujima, Takahiro Yamashiro, Hiroaki Yuasa
Functional identification of ATP13A4 as a plasma membrane polyamine transporter: analysis of the spermidine transport function.
2023 International Joint Meeting of 23rd ICCP450/38th JSSX, Sept. 25 - 29, 2023 (Shizuoka, Japan).

Kaito Matsui, Michihiro Yamamoto, Takahiro Yamashiro, Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa
Analysis of the transport function of SLC19A2/3 for amiloride: utilization as a fluorescent probe substrate.
2023 International Joint Meeting of 23rd ICCP450/38th JSSX, Sept. 25 - 29, 2023 (Shizuoka, Japan).

Mai Hirose, Chitaka Namba, Yosuke Azuma, Tomoya Yasujima, Takahiro Yamashiro, Hiroaki Yuasa
Comparative evaluation of the choline transport functions of novel choline transporters and choline transporter 1.
2023 International Joint Meeting of 23rd ICCP450/38th JSSX, Sept. 25 - 29, 2023 (Shizuoka, Japan).

河原崎南帆, 秋野翔伍, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭
新規小胞膜局在型モノアミントランスポーターの同定と機能解析.
第 44 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2023 年 10 月 19 日 - 20 日 (福岡) .

長友今日佳, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭
脳で高発現する新規モノアミントランスポーターの同定と機能解析.
第 44 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2023 年 10 月 19 日 - 20 日 (福岡) .

小幡真由, 河原崎南帆, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭
新規小胞膜局在型モノアミントランスポーターの特異的阻害剤の探索.
第 44 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2023 年 10 月 19 日 - 20 日 (福岡) .

【病態解析学分野】

(原報)

Owaki R, Aoki H, Toriuchi K, Inoue Y, Hayashi H, Takeshita S, Kakita H, Yamada Y, Aoyama M. AMPK activators suppress cholesterol accumulation in macrophages via suppression of the mTOR pathway.

Exp Cell Res. 2023;432(1):113784.

Mori M, Takeshita S, Nakamura N, Mizuno Y, Tomita A, Aoyama M, Kakita H, Yamada Y. Efficacy of tolvaptan in an infant with syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion associated with holoprosencephaly: A case report.

World J Clin Cases. 2023; 11(26): 6262-6267.

Sugimura N, Kubota E, Mori Y, Aoyama M, Tanaka M, Shimura T, Tanida S, Randal N.J, Kataoka H. Reovirus combined with a STING agonist enhances anti tumor immunity in a mouse model of colorectal cancer.

Cancer Immunol. Immunother. 2023; 72(11):3593-3608.

Nakamura N, Kakita H, Takagi M, Asai S, Asai T, Mori M, Takeshita S, Ueda H, Aoyama M, Kishimoto M, Ito K, Yamada Y.

Successful noninvasive respiratory management of an infant with bilateral choanal atresia and a supernumerary nostril located on the columella by a mouthpiece: A case report.

Am. J. Case Rep. 2023 Jun 26;24:e939642.

Izumi K, Aoki H, Kakita H, Takeshita S, Ueda H, Inoue Y, Hayashi H, Yamada Y, Aoyama M. The DNMT3B inhibitor nanaomycin A as a neuroblastoma therapeutic agent.

Curr. Cancer Drug Targets. 2023;23(11):837-842.

Toriuchi K, Kihara T, Aoki H, Kakita H, Takeshita S, Ueda H, Yamada Y, Aoyama M. Monocyte-derived miRNA-1914-5p attenuates IL-1 β -induced monocyte adhesion and transmigration.

Int. J. Mol. Sci. 2023;24(3):2829.

Tozaki Y, Aoki H, Kato R, Toriuchi K, Arame S, Inoue Y, Hayashi H, Kubota E, Kataoka H, Aoyama M.

The combination of ATM and Chk1 inhibitors induces synthetic lethality in colorectal cancer cells.

Cancers. 2023;15(3):735.

Shimizu Y, Koizumi K, Tsutsumi T, Kyogashima M, Kannagi R, Iwaki S, Aoyama M, Tokumura A.
Hypoxia increases cellular levels of phosphatidic acid and lysophospholipids in undifferentiated Caco-2 cells.

Lipids. 2023;58(2):93-103.

Otsuka Y, Kondo T, Aoki H, Goto Y, Kawaguchi Y, Waguri-Nagaya Y, Miyazawa K, Goto S, Aoyama M.

IL-1 β promotes osteoclastogenesis by increasing the expression of IGF2 and chemokines in non-osteoclastic cells.

J Pharmacol Sci. 2023;151(1)1-8.

(総説・著書・総合論文など)

該当なし

(学会発表)

青山峰芳、近藤崇雄、大塚勇斗、青木啓将、鳥内皐暉、後藤洋、宮澤健、後藤滋己

Hypoxic condition enhanced osteoclast differentiation via inducible nitric oxide synthase pathways.

第 97 回日本薬理学会年会・第 44 回日本臨床薬理学会学術総会、2023 年 12 月 14-16 日、ポスター発表

泉和弥、青木啓将、垣田博樹、竹下覚、上田博子、井上靖道、林秀敏、山田恭聖、青山峰芳

Potential therapeutic agent nanaomycin A as a DNMT3B inhibitor in neuroblastoma.

第 97 回日本薬理学会年会・第 44 回日本臨床薬理学会学術総会、2023 年 12 月 14-16 日、ポスター発表

鳥内皐暉、木原星衣、青木啓将、竹下覚、垣田博樹、山田恭聖、青山峰芳

miR-1914-5p regulates vascular endothelial cell-monocyte adhesion in the inflammatory environment of atherosclerosis.

第 97 回日本薬理学会年会・第 44 回日本臨床薬理学会学術総会、2023 年 12 月 14-16 日、ポスター発表

青木 啓将、鳥内 皐暉、野元 昭宏、矢野 重信、西江 裕忠、片岡 洋望、青山峰芳

Anti-tumor effect of mannose-conjugated chlorin e6 photodynamic therapy targeting M2-like tumor-associated macrophages.

第 97 回日本薬理学会年会・第 44 回日本臨床薬理学会学術総会、2023 年 12 月 14-16 日、ポスター発表

鳥内皐暉、垣田博樹、青木啓将、田村哲也、竹下覚、山田恭聖、青山峰芳

Neuroprotective mechanisms of hypothermia by maintaining astrocytic erythropoietin production

Neuroscience 2023 2023 年 11 月 14 日 ポスター発表

鳥内皐暉、福田直哉、垣田博樹、青木啓将、田村哲也、竹下覚、山田恭聖、青山峰芳

Hypothermia attenuates neurotoxic microglial activation via TRPV4 channel.

第 66 回日本神経化学学会大会 2023 年 7 月 6 日 口頭発表

三本里奈、鳥内皐暉、福田直哉、垣田博樹、青木啓将、田村哲也、竹下覚、山田恭聖、青山峰芳

TRPV4-AMPK-NF- κ B 経路抑制を介する低温刺激によってミクログリアの過剰な炎症反応は鎮静化する

日本薬理学会近畿部会、2023 年 6 月 24 日、口頭発表

三本里奈、鳥内皐暉、福田直哉、垣田博樹、青木啓将、田村哲也、竹下覚、山田恭聖、青山峰芳

低温刺激は TRPV4 を介してミクログリアの神経傷害的な活性化を抑制する

日本薬学会東海支部総会・大会、2023 年 7 月 8 日、口頭発表

【細胞情報学分野】

(原報)

Mai Nagasaka, Yasumichi Inoue, Yuji Nagao, Chiharu Miyajima, Daisuke Morishita, Hiromasa Aoki, Mineyoshi Aoyama, Takeshi Imamura, Hidetoshi Hayashi.

SET8 is a novel negative regulator of TGF- β signaling in a methylation-independent manner. *Sci. Rep.*, 13, 22877 (2023).

Yurino Sunakawa, Mai Kondo, Yasushi Yamamoto, Tomohiko Inomata, Yasumichi Inoue, Daisuke Mori, Toshihisa Mizuno.

Design of Cell-Adhesive Shellac Derivatives and Endowment of Photoswitchable Cell-Adhesion Properties. *ACS Appl. Bio. Mater.*, 6, 5493-5501 (2023).

Reina Owaki, Hiromasa Aoki, Kohki Toriuchi, Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi, Satoru Takeshita, Hiroki Kakita, Yasumasa Yamada, Mineyoshi Aoyama.

AMPK activators suppress cholesterol accumulation in macrophages via suppression of the mTOR pathway. *Exp. Cell. Res.*, 432, 113784 (2023).

Kazuya Izumi, Hiromasa Aoki, Hiroki Kakita, Satoru Takeshita, Hiroko Ueda, Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi, Yasumasa Yamada, Mineyoshi Aoyama.

The DNMT3B Inhibitor Nanaomycin A as a Neuroblastoma Therapeutic Agent. *Curr. Cancer Drug Targets*, 23, 837-842 (2023).

Kohki Toriuchi, Toshie Kihara, Hiromasa Aoki, Hiroki Kakita, Satoru Takeshita, Hiroko Ueda, Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi, Yohei Shimono, Yasumasa Yamada, Mineyoshi Aoyama.

Monocyte-Derived miRNA-1914-5p Attenuates IL-1 β -Induced Monocyte Adhesion and Transmigration. *Int. J. Mol. Sci.*, 24, 2829 (2023).

Yuri Tozaki, Hiromasa Aoki, Rina Kato, Kohki Toriuchi, Saki Arame, Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi, Eiji Kubota, Hiromi Kataoka, Mineyoshi Aoyama.

The Combination of ATM and Chk1 Inhibitors Induces Synthetic Lethality in Colorectal Cancer Cells. *Cancers*, 15, 735 (2023).

(学会発表)

中垣春奈, 渡辺信, 宮嶋ちはる, 井上靖道, 林秀敏【日本生化学会中部支部奨励賞】
脱ユビキチン化酵素 USP7 による Twist の安定化を介したがん細胞の運動能制御.
第 87 回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム, 2023 年 5 月 27 日 (オンライン) .

山中翔悟, 平丸航太郎, 水野佑哉, 宮嶋ちはる, 石内勘一郎, 牧野利明, 松野倫代, 水上元, 井上靖道, 林秀敏
ミャンマー植物由来化合物による HRI 活性化を介したストレス応答性 転写因子 ATF4 誘導機構の解析.
第 87 回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム, 2023 年 5 月 27 日 (オンライン) .

橋口咲良, 長坂真衣, 永尾優始, 宮嶋ちはる, 井上靖道, 林秀敏
メチルトランスフェラーゼ SET8 による TGF- β シグナル制御機構の解析.
第 87 回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム, 2023 年 5 月 27 日 (オンライン) .

井上靖道
脂質代謝関連転写因子 SREBP1 の脱ユビキチン化によるがん悪性化制御.
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2023 年 6 月 22 日 (佐賀) .

井上靖道, 林秀敏
SET8 はメチル化非依存的に TGF- β シグナルを制御する新しいネガティブレギュレーターである.
第 82 回日本癌学会学術総会, 2023 年 9 月 22 日 (横浜) .

中垣春奈, 渡辺信, 宮嶋ちはる, 井上靖道, 林秀敏
USP7 は Twist の脱ユビキチン化酵素としてがん細胞の運動能獲得に寄与する.
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 2023, 2022 年 11 月 12 日 (名古屋) .

山中翔悟, 平丸航太郎, 水野佑哉, 宮嶋ちはる, 石内勘一郎, 牧野利明, 松野倫代, 水上元, 井上靖道, 林秀敏
ミャンマー植物由来化合物による HRI 活性化を介したストレス応答性 転写因子 ATF4 誘導機構の解析.

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 2023, 2022 年 11 月 12 日 (名古屋) .

橋口咲良, 長坂真衣, 永尾優始, 宮嶋ちはる, 井上靖道, 林秀敏

メチルトランスフェラーゼ SET8 による TGF- β シグナル制御機構の解析.

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 2023, 2022 年 11 月 12 日 (名古屋) .

長坂真衣, 井上靖道, 永尾優始, 宮嶋ちはる, 青木啓将, 青山峰芳, 林秀敏

SET8 はメチル化活性非依存的に TGF- β シグナルを負に制御する.

第 46 回日本分子生物学会年会, 2023 年 12 月 6 日 (神戸) .

【神経薬理学分野】

(原報)

Riho Kobayashi , Shin Nakane , Jun Tomita , Hiromasa Funato , Masashi Yanagisawa, Kazuhiko Kume .

A phosphorylation-deficient mutant of Sik3, a homolog of Sleepy, alters circadian sleep regulation by PDF neurons in *Drosophila*,
Front Neurosci, 2023

Sho T Yamaguchi , Sena Hatori , Koki T Kotake , Zhiwen Zhou , Kazuhiko Kume , Sam Reiter , Hiroaki Norimoto .

Circadian control of sleep-related neuronal activity in lizards,
PNAS Nexus, 2023

Kobayashi R, Yamashita Y, Suzuki H, Hatori S, Tomita J, Kume K.

rdgB knockdown in neurons reduced nocturnal sleep in *Drosophila melanogaster*.,
Biochem. Biophys. Res. Commun. 643: 24-29 (2023), 2023

(総説・著書・総合論文など)

小林里帆、糸和彦.

快人快説 麻酔と睡眠は似て非なるものか?-眠らないショウジョウバエの研究から,
LiSA 30 巻 2 号 , 2023

(学会発表)

Haruki Kato 【「アジア時間生物学会トラベルグラント」受賞】 , Hiroyuki Nakagawa, Chiaki Ishizaki, Jun Tomita, Kazuhiko Kume.

Preference of position in the proximity of sweet food revealed by location analysis of *Drosophila melanogaster*,

The 10th Congress of Asian Sleep Research Society , Mar31-April 1 2023, Istanbul

Rabia Garibagaoglu 【「アジア時間生物学会トラベルグラント」受賞】 , Riho Kobayashi, Jun

Tomita, Kazuhiko Kume. ,
Sleep, Longevity And Metabolism In Drosophila ,
The 10th Congress of Asian Sleep Research Society , Mar31-April 1 2023, Istanbul

Riho Kobayashi 【「アジア時間生物学会トラベルグラント」受賞】 , Sena Hatori, Hiroko Suzuki,
Shin Nakane, Sho Yamaguchi, Jun Tomita, Hiromasa Funato, Masashi Yanagisawa, Kazuhiko Kume .
Functional Analysis Of Drosophila Sik3-SA, A Homologue Of Mouse Sleepy ,
The 10th Congress of Asian Sleep Research Society , Mar31-April 1 2023, Istanbul

小塚康平、江上涼、高天翔、大澤匡弘、糸和彦.
Aripiprazole can rescue Methamphetamine-induced rhythm disorders,
第 46 回日本神経科学大会, 2023 年 08 月 01 日, 仙台

田中良弥、佐藤光彦、上川内あづさ、鈴木力憲.
アリヅカコオロギはどのように宿主アリを回避するか？,
日本進化学会第 25 回大会, 2023 年 08 月 31 日, 沖縄

Moeko Aono, Haruki Kato, Jun Tomita, Kazuhiko Kume.
Activity regulation by dopamine in Drosophila,
第 30 回日本時間生物学会学術大会, 2023 年 09 月 16 日, 横浜

磯部一朗、富田淳、糸和彦.
ショウジョウバエの個体間相互作用に伴う匂いによる睡眠制御,
第 30 回日本時間生物学会学術大会, 2023 年 09 月 16 日, 横浜

加藤遥輝、山下裕子、富田淳、糸和彦.
ショウジョウバエにおける一酸化窒素シグナルによる睡眠制御,
日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会 合同大会, 2023 年 09
月 16 日, 横浜

Yoshinori Suzuki, Minoru Saitoe.
NMDA signaling in ventral nerve cord ensure flexible motor control,
Neurobiology of Drosophila, Oct3-Oct7 2023, New York, USA

Haruki Kato, Hiroyuki Nakagawa, Chiaki Ishizaki, Jun Tomita, Kazuhiko Kume.
Preference for Proximity to Sweet Food Revealed by Location Analysis of Drosophila melanogaster,

Neurobiology of Drosophila, Oct3-Oct7 2023, New York, USA

山本洵, 小林里帆, 富田淳, 桑和彦.

ショウジョウバエにおける時計神経 dorsal lateral neurons による睡眠制御の解析,
第 96 回日本生化学会大会, 2023 年 10 月 31 日, 福岡

小塚康平, 江上涼, 高天翔, 大澤匡弘, 桑和彦.

Investigation of treatment for the mice model of insomnia with circadian rhythm sleep disorder,
第 29 回日本時間生物学会学術大会, 2022 年 12 月 03 日, 栃木

山本洵【MBSJ2023 サイエンスピッチ優秀発表賞】, 小林里帆, 富田淳, 桑和彦.

ショウジョウバエにおける時計神経 dorsal lateral neurons による睡眠制御の解析,
第 46 回日本分子生物学会年会, 2023 年 12 月 06 日, 兵庫

【医薬品安全性評価学分野】

(原報)

Ambe K., Akita A., Wei J., Yoshii Y., Onishi M., Tohkin M.

Comparison of Efficacy and Safety of Direct Oral Anticoagulants and Warfarin between Patients in Asian and non-Asian Regions: A Systematic Review and Meta-Regression Analysis
Clin Pharmacol. Ther., 113(6), 1240-1250(2023).

Nakamura R., Arakawa N., Tanaka Y., Uchiyama N., Sekine A., Mashimo Y., Tsuji K., Kagawa T., Sato K., Watanabe M., Aiso M., Hiasa Y., Takei Y., Ohira H., Ayada M., Tsukagoshi E., Maekawa K., Tohkin M., Saito Y., Takikawa H.

Significant association between HLA-B*35:01 and onset of drug-induced liver injury caused by Kampo medicines in Japanese patients
Hepatology Research, 53(5), 440-449(2023).

島田 裕脩, 家田 維哉, 坂部 彩, 頭金 正博

有害事象自発報告データベースを用いた直接経口抗凝固薬による中枢神経系出血性有害事象に対するプロトンポンプ阻害薬併用の影響に関する解析
医療薬学 49 (6), 231-240(2023).

Murashima M, Ambe K, Aoki Y, Kasugai T, Tomonari T, Ono M, Mizuno M, Tohkin M, Hamano T.

Epidemiology and predictors of hyponatremia in a contemporary cohort of patients with malignancy: a retrospective cohort study
Clinical Kidney Journal, 16(11), 2072-2081(2023).

Ashikaga T, Narita K, Kobayashi M, Tachibana S, Murasaki W, Suzuki M, Ambe K, and Tohkin M.

Skin sensitization potency prediction of ingredients in hair colorants using in silico models of machine learning
Journal of Japanese Cosmetic Science Society, 47(1), 1-6 (2023).

Tamemoto Y, Shibata Y, Hashimoto N, Sato H, Hisaka A.

Involvement of multiple cytochrome P450 isoenzymes in drug interactions between ritonavir and direct oral anticoagulants.
Drug Metabolism and Pharmacokinetics., 53, 100498(2023)

Hozuki S, Yoshioka H, Asano S, Nakamura M, Koh S, Shibata Y, Tamemoto Y, Sato H, Hisaka A.
Integrated Use of In Vitro and In Vivo Information for Comprehensive Prediction of Drug
Interactions Due to Inhibition of Multiple CYP Isoenzymes.
Clin Pharmacokinet., 62, 849-860(2023).

Yoshitomo A, Asano S, Hozuki S, Tamemoto Y, Shibata Y, Hashimoto N, Takahashi K, Sasaki Y,
Ozawa N, Kageyama M, Iijima T, Kazuki Y, Sato H, Hisaka A.
Significance of basal membrane permeability of epithelial cells in predicting intestinal drug
absorption.
Drug metabolism and disposition., 51(3), 318-328(2023).

(総説・著書・総合論文など)

安部賀央里

皮膚感作性強度の予測に向けた機械学習による in silico アプローチ
フレグランスジャーナル 51(7) (2023)

安部賀央里

機械学習を用いた皮膚感作性試験代替法の開発
コスメティックステージ 2, 60-65 (2023).

安部賀央里

動物実験代替法と New Approach Methodologies の開発・利用動向 監修:小島肇夫【第V編 香粧
品業界】第4章 皮膚感作性 in silico 予測モデル(2023)

(学会発表)

濱上 敦史, 土井 更良, 安部 賀央里, 頭金 正博 (学生優秀発表賞)

JAPIC AERS と機械学習を活用した胆汁うっ滞型薬物性肝障害の予測モデルの開発
日本薬学会第143年会 2023年3月25日(土)~28日(火)(札幌)

柴田 侑裕, 頭金 正博

ABCB1 遺伝子の変異(G3751A)が Simvastatin acid の薬物動態に与える影響
日本薬学会第143年会 2023年3月25日(土)~28日(火)(札幌)

大西 真由、劉 臨風、吉井 優花、安部 賀央里、頭金 正博
新規抗リウマチ薬の有効性と安全性に関する研究 – ネットワークメタ解析手法を用いた検討–
第7回日本臨床薬理学会東海・北陸地方会 6月4日 (オンライン)

Linfeng Liu, Mayu Ohnishi, Yuka Yoshii, Kaori Ambe, Masahiro Tohkin
Efficacy and Safety of Anti-rheumatic Drugs in Patients with Rheumatoid Arthritis: Bayesian Network
Meta-Analysis
第50回 日本毒性学会学術年会 6月19-21日 (横浜)

Kei Kinoshita, Kaori Ambe, Takashi Yamada, Takao Ashikaga, Masahiro Tohkin
Attempt to establish the machine learning model for predicting intensity of skin sensitization
assessment for practical use
第50回 日本毒性学会学術年会 6月19-21日 (横浜)

Ryosuke Nakamura, Noriaki Arakawa, Yoichi Tanaka, Nahoko Uchiyama, Akihiro Sekine, Yoichi
Mashimo, Keiji Tuji, Tatehiro Kagawa, Ken Sato, Masaaki Watanabe, Mitsuhiko Aiso, Hiasa Yoichi,
Yoshiyuki Takei, Hiromasa Ohira, Minoru Ayada, Eri Tsukagoshi, Keiko Maekawa, Masahiro Tohkin,
Yoshiro Saito, Hajime Takikawa
Association between HLA-B*35:01 and onset of drug-induced liver injury caused by Kampo
medicines in Japanese
第50回 日本毒性学会学術年会 6月19-21日 (横浜)

安部賀央里(招待講演)
データベースと機械学習を活用した毒性予測へのアプローチ～有機化学から視野を広げて～ シン
ポジウム29 トキシコロジストのキャリア形成支援プログラム: デジタル時代の人材育成と教育
第50回 日本毒性学会学術年会 6月19-21日 (横浜)

足利太可雄、波多野浩太、岩佐帆乃夏、木下啓、中村伸昭、安部賀央里、頭金正博
Next Generation Risk Assessment 事例研究: ヘアカラー製剤に存在するバンドロフスキーベースの定
量的皮膚感作性リスク評価
第48回 日本化粧品学会 6月23-24日 (東京)

濱上敦史、土井更良、安部賀央里、頭金正博
副作用報告データベースとトランスポーター阻害活性情報を用いた機械学習による胆汁うっ滞型薬物
性肝障害の予測モデルの開発

第 69 回日本薬学会東海支部総会・大会 7 月 8 日 (名古屋)

出来佑都、安部賀央里、頭金正博、和知野千春、木村和哲、日比陽子、近藤勝弘、村島美穂、濱野高行

電子カルテ情報と機械学習を用いたバンコマイシン誘発性急性腎障害の予測手法開発
第 9 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム 9 月 16 日 (清瀬)

Tamana Enami, Kaori Ambe, Masahiro Tohkin

Development of a model for predicting a chemical-induced CYP inhibitory activity using images data showing chemical structure information

日本薬物動態学会第 38 回年会／第 23 回シトクロム P450 国際会議国際合同大会 9 月 25 日～29 日 (静岡)

Yukihiro Shibata, Masahiro Tohkin

Influence in the polymorphism (G3751A) of ABCB1 gene on the pharmacokinetics of simvastatin acid

日本薬物動態学会第 38 回年会／第 23 回シトクロム P450 国際会議国際合同大会 9 月 25 日～29 日 (静岡)

Kei Kinoshita, Kaori Ambe, Takashi Yamada, Takao Ashikaga, Masahiro Tohkin

Establishment of in silico prediction model for skin sensitization aiming for practical application

CBI 学会 2023 年大会 10 月 23～26 日 (東京)

中村亮介、荒川憲昭、田中庸一、内山奈穂子、関根章博、真下陽一、辻 恵二、加川建弘、佐藤賢、渡邊真彰、相磯光彦、日浅陽一、竹井謙之、大平弘正、綾田 穰、塚越絵里、前川京子、頭金正博、斎藤嘉朗、滝川 一

日本人の漢方薬による薬物性肝障害発症と関連する HLA-B*35:01

第 72 回日本アレルギー学会学術大会 10 月 20 - 22 日 (東京)

大西真由、劉臨風、吉井優花、安部賀央里、頭金正博 (優秀演題賞)

ネットワークメタアナリシスによる新規抗リウマチ薬の有効性と安全性の比較検討

第 33 回日本医療薬学会年会 11 月 3-5 日 (仙台)

青木優佳、安部賀央里、頭金正博、村島美穂、濱野高行

悪性腫瘍患者における化学療法中の低 Na 血症を予測する機械学習モデルの構築およびリスク因子の検討

第 33 回日本医療薬学会年会 11 月 3-5 日 (仙台)

徳永朱莉、安部賀央里、山田隆志、足利太可雄、頭金正博（学生優秀演題賞）
過小評価の回避を指向した皮膚感作性強度を予測する機械学習モデルの開発
日本動物実験代替法学会 第36回大会 11月27-29日（千葉）

第6回 医薬品毒性機序研究会 12月5日～6日 つくば
光山 菜々美, 中村 良太, 柴田 侑裕, 頭金 正博
HLA-B*58:01 を介したオキシプリノールによる特異体質性副作用発症メカニズムの探索
第6回 医薬品毒性機序研究会 12月5日～6日（つくば）

青木優佳 安部賀央里、頭金正博、村島美穂、濱野高行、和知野千春、木村和哲、日比陽子、近藤
勝弘（優秀発表賞）
電子カルテ情報と機械学習を活用したシスプラチン誘発性急性腎障害の予測モデルの構築
第44回日本臨床薬理学会学術総会 12月14～16日（神戸）

Linfeng Liu, Mayu Onishi, Yuka Yoshii, Kaori Ambe, Masahiro Tohkin（優秀発表賞）
Comparison of the efficacy and safety of various anti-rheumatic drugs for rheumatoid arthritis:
Network Meta-Analysis
第44回日本臨床薬理学会学術総会 12月14～16日（神戸）

【病院薬学分野】

(原報)

Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Y.

Eosinophil may be a predictor of immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study
Cancer Med. 21666-21679.(2023).

Ieda N, Nakamura A, Tomita N, Ohkubo K, Izumi R, Hotta Y, Kawaguchi M, Kimura K, Nakagawa H.

A BODIPY-picolinium-cation conjugate as a blue-light-responsive caged group.
RSC Adv.13(38):26375-26379. (2023).

Yamamoto Y, Kondo M, Hotta Y, Tashiro Y, Sanagawa A, Kataoka T, Furukawa-Hibi Y, Ri M, Komatsu H, Iida S, Kimura K.

The Relationship between Changes in Serum Element Concentrations and Pathological Condition and Disease Status in Japanese Multiple Myeloma Patients: A Pilot Study and Literature Review.
Asian Pac J Cancer Prev. 24(7):2493-2503. (2023).

Sanagawa A, Hayakawa T, Nishida E, Yamamoto A, Ikumi K, Mori Y, Hotta Y, Kimura K, Furukawa-Hibi Y, Morita A.

Impact of body mass index on the severity of bexarotene-associated hypertriglyceridemia: A post hoc analysis of an open-labeled clinical study of combined bexarotene and phototherapy in Japanese patients with cutaneous T-cell lymphoma.
J Dermatol. 50(7):917-926. (2023).

Yamamoto Y, Hotta Y, Tomita N, Naiki-Ito A, Kitagawa A, Kuboshiki U, Hagita T, Noda M, Sanagawa A, Kataoka T, Kondo M, Furukawa-Hibi Y, Takahashi S, Kimura K.

Changes in zinc and manganese concentrations in cisplatin-induced acute kidney injury.
Biochem Biophys Rep. 33:101422.(2023).

Tomita N, Hotta Y, Ito H, Naiki-Ito A, Matsuta K, Yamamoto Y, Ohashi K, Hayakawa T, Sanagawa A, Horita Y, Kondo M, Kataoka T, Takahashi S, Sobue K, Kimura K.
High preoperative serum strontium levels increase the risk of acute kidney injury after cardiopulmonary bypass.
Clin Exp Nephrol. 27(4):382-391.(2023).

Mori T, Hotta Y, Ieda N, Kataoka T, Nakagawa H, Kimura K.
Efficacy of a Red-Light Controllable Nitric Oxide Releaser for Neurogenic Erectile Dysfunction: A Study Using a Rat Model of Cavernous Nerve Injury.
World J Mens Health. 41(4):909-919. (2023).

Horita Y, Asaoka M, Iida M, Kato H, Wachino C, Mitamura K, Ohashi K, Mimura Y, Hotta Y, Kataoka T, Nakamura A, Kimura K. Development and Evaluation of a Novel Software Program, SAKURA-TDM, for Area Under the Concentration-Time Curve-Guided Vancomycin Dosing: A Short Communication.
Ther Drug Monit. 45(2):245-250. (2023).

Asaoka M, Horita Y, Wachino C, Kondo S, Hotta Y, Kataoka T, Sanagawa A, Hayakawa T, Nakamura A, Kimura K. Clinical Usefulness of the "MN Criteria" - the Clostridioides difficile Infection Severity Scoring System - in the Japanese Setting.
Intern Med. 62(1):59-67.(2023).

(総説・著書・総合論文など)

Kataoka T, Hotta Y, Kimura K.
A review of experimental techniques for erectile function researches and development of medical technology using animal erectile dysfunction models in sexual and reproductive medicine.
Reprod Med Biol. 22(1):e12513.(2023).

片岡智哉、堀田祐志、日比陽子、木村和哲.
LOH に効果のある機能性食品
アンチ・エイジング医学. 19(3):024(222)-028(226). (2023).

堀田祐志、大山享也、片岡智哉、日比陽子、木村和哲.
勃起と射精のメカニズムについて
日本性機能学会雑誌. 38(1).3-14. (2023).

堀田祐志、片岡智哉、日比陽子、木村和哲
下部尿路機能障害の治療を目指した光制御可能な NO ドナーの開発
日本排尿機能学会誌. 33(2).445-446. (2023).

堀田祐志、家田直弥.
難治性勃起不全の新規治療薬を目指した光制御可能な NO ドナーの開発
アグリバイオ. 7(3):73-77. (2023).

(学会発表)

Kataoka T, Hidaka J, Hotta Y, Furukawa-Hibi Y, Kimura K.
Influence of Circadian Disruption on Erectile Function in Chronic Jet-Lagged Young Rats
The 24th World Meeting on Sexual Medicine. 2023.12. Dubai, UAE.

Hotta Y, Oyama K, Mori T, Kataoka T, Furukawa-Hibi Y, Kimura K.
Effects of a red light-controllable nitric oxide donor, NORD-1, on diabetes mellitus-induced
erectile dysfunction in rats
The 24th World Meeting on Sexual Medicine. 2023.12. Dubai, UAE.

Noda M, Hotta Y, Naiki A, Tomita N, Sanagawa A, Kataoka T, Hibi Y, Takahashi S,
Kimura K.
Antifibrotic effects of tadalafil, a phosphodiesterase 5 inhibitor, with PAI1 downregulation
via cGMP in rats and fibroblasts.
American Society of Nephrology Kidney Week 2023. 2023.11. Philadelphia, USA.

Kawata R, Hotta Y, Kataoka T, Hibi Y, Matsuyama N, Ota Y, Kato T, Hamakawa T,
Kubota Y, Yasui T, Kimura K.
Effects of catheterization on detrusor muscle contraction after bilateral accessory nerve
injury in rats.
The 17th Pan-Pacific Continence Society (PPCS) Meeting. 2023.10. Kaohsiung, TWN.

Kataoka T, Seo Y, Park C, Hotta Y, Hibi-Furukawa Y, Kimura K.
The effects of PDE-5 inhibitors on voiding function in ovariectomized rats
International Continence Society 2023. 2023.9. Toronto, Canada.

Kawata R, Hotta Y, Matsumoto S, Kataoka T, Hibi Y, Yamamoto T, Kimura K
Effects of bone marrow-derived stem cell lysate on detrusor muscle contraction in
neurogenic overflow urinary incontinence rat model
International Continence Society 2023. 2023.9. Toronto, Canada.

加藤順子、尾崎康彦、田中 基、堀田祐志、近藤勝弘、杉浦真弓、祖父江和哉、日比陽子
安全な硬膜外分娩の実施に向けた薬剤師による取り組み
第 127 回日本産科麻酔学会学術集会. 兵庫. 2023 年 12 月 2-3 日.

高森雄貴、堀田祐志、川田龍哉、片岡智哉、日比陽子、太田裕也、濱川 隆、窪田泰江、安
井孝周、木村和哲.
骨盤内神経損傷による溢流性尿失禁ラットの尿道収縮弛緩機能の変化についての検討
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023. 名古屋. 2023 年 11
月 12 日.

堀田祐志、大山享也、家田直弥、片岡智哉、日比陽子、中川秀彦、木村和哲
光応答性一酸化窒素ドナーの難治性勃起不全への効果について～糖尿病性勃起不全モデルを
用いた検討～
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023. 名古屋. 2023 年 11
月 12 日.

堀 雅之、中村大学、竹本竜平、堀田祐志、近藤勝弘、日比陽子
ペルツズマブによる下痢に関する日本人乳癌患者を対象とした後方視的検討
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023. 名古屋. 2023 年 11
月 12 日.

竹本将士、小松弘和、木下史緒理、原口陽子、足立珠美、朝岡みなみ、堀田祐志、日比陽子
体表貼付型自動投与デバイス製剤ジーラスタ®皮下注ポディーポッドの運用事例と患者満足
度についての調査
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023. 名古屋. 2023 年 11
月 12 日.

小田切州広、内木 拓、杉山洋介、田崎慶彦、三村佳久、飯田萌子、木村優花、伊藤菜浪、
堀田祐志、安井孝周、日比陽子
アナモレリンは化学療法中の転移性尿路上皮がん患者の栄養状態を改善する
第 33 回日本医療薬学会年会. 2023 年 11 月 3-5 日. 仙台.

竹本竜平、中村大学、菱谷まどか、大橋一輝、外海友規、手崎世織、竹本将士、朝岡みなみ、堀田祐志、近藤勝弘、日比陽子

外来化学療法室における PBPM を用いた処方支援の有用性に関する検討
第 33 回日本医療薬学会年会. 2023 年 11 月 3-5 日. 仙台.

飯田萌子、堀田康弘、広瀬永愛、朝岡みなみ、木村理恵、大橋一輝、加藤秀紀、江崎哲夫、河原昌美、堀田祐志、中村 敦、日比陽子

バンコマイシンの初期投与設計で腎障害を回避するための目標 AUC
第 33 回日本医療薬学会年会. 2023 年 11 月 3-5 日. 仙台.

加藤秀紀、堀田康弘、朝岡みなみ、和知野千春、飯田萌子、三村佳久、杉山洋介、江崎哲夫、堀田祐志、日比陽子

バンコマイシンの AUC 評価の臨床導入後の腎障害発現率と治療域達成率調査
第 33 回日本医療薬学会年会. 2023 年 11 月 3-5 日. 仙台.

中村大学、近藤勝弘、堀田祐志、朝岡みなみ、外海友規、手崎世織、竹本将士、細江昂誠、山本清司、浦野公彦、松浦克彦、日比陽子

アベマシクリブの治療継続性に薬剤師外来が与える影響
第 33 回日本医療薬学会年会. 2023 年 11 月 3-5 日. 仙台.

小林紀香、和知野千春、早川智章、堀田康弘、堀田祐志、日比陽子

Corynebacterium 属菌血症に関連する患者背景についての検討
第 33 回日本医療薬学会年会. 2023 年 11 月 3-5 日. 仙台.

朝岡みなみ、堀田康弘、堀田祐志、日比陽子

テイコプラニンのクリアランスに腎機能や体格が及ぼす影響
第 33 回日本医療薬学会年会. 2023 年 11 月 3-5 日. 仙台.

和知野千春、早川智章、堀田康弘、小林紀香、堀田祐志、江崎哲夫、日比陽子
術中抗菌薬評価支援システムの構築による抗菌薬使用の可視化と最適化の試み

第 33 回日本医療薬学会年会. 2023 年 11 月 3-5 日. 仙台.

伊藤菜浪、三村佳久、田崎慶彦、杉山洋介、飯田萌子、小田切州広、木村優花、堀田祐志、日比陽子

ニボルマブの異なる投与スケジュールにおける irAE 発症プロファイルの解析

第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023 年 10 月 19-21 日. 横浜.

中村大学、小川了、菱谷まどか、朝岡みなみ、田中達也、堀田祐志、近藤勝弘、瀧口修司、日比陽子

食道癌治療のパラダイムシフト 外来 FP+ICI 療法の安全性についての検討

第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023 年 10 月 19-21 日. 横浜.

杉山洋介、内木拓、三村佳久、田崎慶彦、片岡智哉、小田切州広、飯田萌子、木村優花、伊藤菜浪、権田将一、恵谷俊紀、堀田祐志、安井孝周、日比陽子

オキシドンの血中濃度の変化とがん性疼痛との関連性の検討

第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023 年 10 月 19-21 日. 横浜.

田崎慶彦、杉山洋介、伊藤菜浪、三村佳久、飯田萌子、小田切州広、木村優花、堀田祐志、内木拓、濱本周造、安井孝周、日比陽子

好酸球は免疫チェックポイント阻害剤による irAE 発症の予測バイオマーカーとなる

第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023 年 10 月 19-21 日. 横浜.

三村佳久、杉山洋介、小田切州広、田崎慶彦、飯田萌子、木村優花、伊藤菜浪、堀田祐志、内木拓、恵谷俊紀、永井隆、安井孝周、日比陽子

Cachexia index は転移性尿路上皮がん患者の予後予測因子となる

第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023 年 10 月 19-21 日. 横浜.

片岡智哉、ソヨンヒョン、パクチェヨン、堀田祐志、日比陽子、木村和哲

卵巣摘除モデルラットの排尿機能に対する PDE-5 阻害薬の効果

第 30 回日本排尿機能学会. 2023 年 9 月 7-9 日. 千葉

大山享也、堀田祐志、家田直弥、片岡智哉、日比陽子、中川秀彦、木村和哲

糖尿病性 ED モデルラットを用いた赤色光応答性 NO ドナー「NORD-1」の有用性の検討

日本性機能学会第 33 回学術総会・第 31 回日本性機能学会西部総会. 2023 年 9 月 15-17 日. 高知

川田龍哉、堀田祐志、片岡智哉、日比陽子、松山奈有佳、太田裕也、加藤大貴、濱川隆、窪田泰江、安井孝周、木村和哲.

膀胱留置カテーテルによる導尿が排尿筋収縮力に及ぼす影響—神経因性溢流性尿失禁時と正常時におけるラットを用いた研究—.

第 30 回日本排尿機能学会. 2023 年 9 月 7-9 日. 千葉

川田龍哉, 堀田祐志, 片岡智哉, 日比陽子, 松山奈有佳, 太田裕也, 加藤大貴, 濱川隆, 窪田泰江, 安井孝周, 木村和哲.

神経因性溢流性尿失禁モデルラットの排尿筋収縮力に対する導尿の影響.

第 65 回日本平滑筋学会総会. 2023 年 8 月 4-5 日. 東京.

齋藤大介, 北村紗枝, 家田直弥, 大山享也, 堀田祐志, 川口充康, 木村和哲, 中川秀彦

PeT 駆動型可視光制御 NO ドナーの光吸収部位の構造活性相関研究

第 35 回バイオメディカル分析科学シンポジウム. 2023 年 7 月 28-29 日. 札幌.

Daisuke Saitoh, Sae Kitamura, Naoya Ieda, Kyoya Oyama, Yuji Hotta, Mitsuyasu

Kawaguchi, Kazunori Kimura, Hidehiko Nakagawa

Structure-Activity Relationship Studies of Photocontrollable NO Releasers Containing 10-Substituted Rhodamines as Antennae

The 31st International Conference on Photochemistry. 2023 年 7 月 23-28 日. 札幌.

真川明将, 早川智章, 西田絵美, 山本 礼, 井汲今日子, 森悠香梨, 堀田祐志, 木村和哲, 日比陽子, 森田明理

ベキサロテン関連高トリグリセリド血症の重症度に及ぼす BMI の影響: 皮膚 T 細胞リンパ腫患者におけるベキサロテン+光線療法のオープンラベル試験の事後解析

医療薬学フォーラム 2023/第 31 回クリニカルファーマシーシンポジウム. 2023 年 7 月 22-23 日. 山形.

大山享也, 堀田祐志, 家田直弥, 片岡智哉, 日比陽子, 中川秀彦, 木村和哲.

赤色光応答性 NO ドナーによる糖尿病性勃起不全の改善効果および全身血圧への影響に関する基礎研究

日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. 2023 年 6 月 23-24 日. 名古屋

片岡智哉, 堀田祐志, 真川明将, 日比陽子, 木村和哲

ビンクリスチン投与に伴う ED モデルラットに対する DPP-4 阻害薬オマリグリプチンの長期投与の効果

日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. 2023 年 6 月 23-24 日. 名古屋

堀 雅之, 中村大学, 朝岡みなみ, 堀田祐志, 近藤勝弘, 日比陽子

ペルツズマブによる下痢の発現が乳がん治療へ与える影響

日本医療薬学会第 6 回フレッシュャーズカンファランス. 2023 年 6 月 11 日. 京都

齋藤大介、北村紗枝、家田直弥、大山享也、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
10 位置換ローダミンをアンテナ構造とする光制御 NO ドナー群の創製研究
創薬懇話会 2023. 2023 年 6 月 8-9 日. 湯河原.

齋藤大介、北村紗枝、家田直弥、大山享也、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
10 位置換ローダミンをアンテナとする光制御 NO ドナーの構造活性相関研究
第 21 回次世代シンポ. 2023 年 5 月 26-27 日. 愛知.

Matsuyama N, Kubota Y, Ota Y, Kato T, Hamakawa T, Hotta Y, Kajioka S, Yasui T.
Rats model of overactive bladder developed by the placement of a metal ring around the
bladder neck
第 110 回日本泌尿器科学会総会. 2023 年 4 月 20-23 日. 神戸.

堀田康弘, 加藤秀紀, 朝岡みなみ, 飯田萌子, 堀田祐志, 和知野千春, 木村理恵, 大橋一輝, 三
村佳久, 江崎哲夫, 広瀬永愛, 河原昌美, 日比陽子.
新規 TDM 支援ソフト SAKURA-TDM と既存のソフトを用いた薬物動態パラメータ推定精度
の比較評価
日本薬学会第 143 年会. 2023 年 3 月 25-28 日. 札幌.

海老原大希、堀田祐志、川田龍哉、片岡智哉、日比陽子、木村和哲.
非対称性ジメチルアルギニンの持続的な上昇がラットの排尿に与える影響についての検討
日本薬学会第 143 年会. 2023 年 3 月 25-28 日. 札幌. 【優秀演題賞受賞】

野田みすず、富田なつみ、真川明将、片岡智哉、日比陽子、堀田祐志、木村和哲.
ラット腎線維芽細胞を用いた phosphodiesterase5 阻害薬タダラフィルによる腎線維化抑制
効果のメカニズムの検討
日本薬学会第 143 年会. 2023 年 3 月 25-28 日. 札幌.

川田龍哉、堀田祐志、片岡智哉、日比陽子、太田裕也、窪田泰江、安井孝周、木村和哲.
ラット骨盤内神経損傷後早期の排尿筋収縮力に対する膀胱留置カテーテルによる導尿の影響
日本薬学会第 143 年会. 2023 年 3 月 25-28 日. 札幌. 【優秀演題賞受賞】

片岡智哉、堀田祐志、木村和哲
マウスを用いた海綿体内圧 (ICP) 測定法の検討
第 32 回 日本性機能学会東部総会. 2023 年 3 月 4 日. 川崎

【臨床薬学分野】

(原報)

Sakai Y, Matsumura M, Yamada H, Doi A, Saito I, Iwao T, Matsunaga T.

Development of a perfusing small intestine-liver microphysiological system device.

Appl Sci, 13, 10510 (2023).

Sakai Y, Matsumura M, Iwao T, Matsunaga T.

Culture methods focusing on bile canalicular formation using primary human hepatocytes in a short time.

In Vitro Cell Dev Biol Anim, 59, 606–614 (2023).

Kitaguchi T, Ito M, Ohno K, Ota N, Kobayashi K, Sato H, Iwao T, Matsunaga T, Tanaka M, Hisaka A.

In vitro-based prediction of human plasma concentration of food-related compounds.

ALTEX, 40, 595-605 (2023).

Noda M, Kikuchi C, Tarui R, Nakamura T, Murase T, Hori E, Matsunaga T.

Effect of topiroxostat on reducing oxidative stress in the aorta of streptozotocin-induced diabetic rats.

Biol Pharm Bull, 46, 272–278 (2023).

Nakamura T, Hashita T, Chen Y, Gao Y, Sun Y, Islam S, Sato H, Shibuya Y, Zou K, Matsunaga T, Michikawa M.

A β 24 treatment of the brain side reduced the level of flotillin from endothelial cells on the blood side via FGF-2 signaling in a blood-brain barrier model.

Molecular Brain, 16, 15 (2023).

Kanno T, Katano T, Ogawa I, Iwao T, Matsunaga T, Kataoka H.

Protective effect of irsogladine against aspirin-induced mucosal injury in human induced pluripotent stem cell-derived small intestine.

Medicina, 59, 92 (2023).

Yasuda M, Tachi T, Osawa T, Fujii S, Inoue S, Watanabe H, Makino T, Nagaya K, Morita M, Tanaka K, Tanaka Y, Aoyama S, Teramachi H, Kasahara S, Mizui T.

Melphalan febrile neutropenia risk factors.

Jan J Cancer Chemother, 50, 707–711 (2023).

Noda M, Kikuchi C, Tarui R, Nakamura T, Murase T, Matsunaga T.

Effects of xanthine oxidoreductase inhibitors on reactive oxygen species produced in vitro from xanthine oxidase.

BPB reports, 6, 189–192 (2023).

Saito M, Nakashima Y, Ichihara T.

A long-term study of the reduction in drug-related incident reports and the impact on patients by pharmacist intervention in the emergency department.

Yakugaku Zasshi, 143, 405–409 (2023).

渡邊繭子, 久保賢晃, 館知也, 田中和秀, 青山京介, 古山愛紗, 青山智, 野口義紘, 安田昌宏, 柴田明彦, 水井貴詞, 寺町ひとみ.

精神科入院患者における全薬剤による薬物有害事象の治療等に要した費用および精神神経用薬の適正使用による削減可能費用の評価.

日本病院薬剤師会雑誌, 59, 636–642 (2023).

大澤友裕, 飯原大稔, 浅野裕紀, 梅田道, 安田昌宏, 館知也, 澤祥幸, 吉村知哲, 水井貴詞, 笠原千嗣.

多施設共通のアファチニブ・ワークシート作成の取り組みとその副作用評価.

日本臨床腫瘍薬学会雑誌, 33, 10–16 (2023).

田中和秀, 館知也, 高井彩乃, 青山智, 安田昌宏, 笠原千嗣, 米田尚生, 水井貴詞.

医師および薬剤師の協働によるアミノレブリン酸塩酸塩使用患者への薬学的介入効果.

癌と化学療法, 50, 1185–1189 (2023).

(総説・著書・総合論文など)

Huang YM, Kondo Y, Tachi T.

Editorial: Effective methods to promote appropriate use of medicines.

Front Pharmacol, 14, 1331906 (2023).

Iwao T.

Utilization of human iPS cells for evaluation of drug disposition and mucosal damages in the small intestine.

Yakugaku Zasshi. 143, 243–247 (2023).

岩尾岳洋.

薬物動態評価モデルとしての利用に向けた MPS および iPS 細胞由来腸管上皮細胞の研究開発.
薬剤学, 83(2), 67-71 (2023).

松永民秀, 坂下真大, 岩尾岳洋.

microphysiological system の開発と創薬研究への展望.
実験医学, 41(2), 134-138 (2023).

(学会発表)

Iwao T. (Invited)

Human iPS cell-derived intestinal cells for evaluation model of the intestinal absorption process.
2023 ICCP450/JSSX, Sep. 28, 2023 (Shizuoka, Japan).

Kitaguchi T, Shirai K, Ogawa I, Matsuda T, Ohno K, Kobayashi K, Iwao T, Tanaka M, Matsunaga T.
Improvement of predictability of human oral absorption of glycoside compounds by modified culture
method of human iPS cell-derived small intestinal epithelial cells.
2023 ICCP450/JSSX, Sep. 28, 2023 (Shizuoka, Japan).

Sato H, Nakai K, Hashita T, Iwao T, Matsunaga T.

Evaluation of receptor-mediated transcytosis using human iPS cell-derived brain microvascular
endothelial-like cells.
2023 ICCP450/JSSX, Sep. 28, 2023 (Shizuoka, Japan).

Shirai K, Fukaya M, Sakai Y, Iwao T, Matsunaga T.

Characterization of new human induced pluripotent stem cell-derived intestinal epithelial cells and their
application to an integrated small intestine liver device.
2023 ICCP450/JSSX, Sep. 26, 2023 (Shizuoka, Japan).

Matsunaga T, Onozato D, Ogawa I, Iwao T.

Generation of human iPS cell-derived intestinal organoids to use for mucosal damage and intestinal
fibrosis models.
EUROTOX 2023, Sep. 11, 2023 (Ljubljana, Slovenia).

望月清一, 今倉悠貴, 諸橋康史, 山崎奈穂, 岩尾岳洋, 松永民秀, 中村健太郎.
ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞 (F-hiSIEC™) の特性と薬理モデルとしての有用性.
第 97 回日本薬理学会年会, 2023 年 12 月 14 日-16 日 (神戸) .

大倉順一, 舘 知也, 伊野陽子, 田中和秀, 水井貴詞, 安田昌宏, 笠原千嗣, 樋上彰子, 犬飼幸利.
薬剤師による遠隔健康支援の実用化に関する薬剤師の意識～遠隔健康支援に携わった薬剤師に対するアンケート調査～.
第 56 回東海薬剤師学術大会, 2023 年 12 月 3 日 (四日市) .

諸橋康史, 今倉悠貴, 望月清一, 岩尾岳洋, 松永民秀, 中村健太郎.
ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞の代替モデルとしての有用性.
日本動物実験代替法学会第 36 回大会, 2023 年 11 月 27 日-29 日 (千葉) .

藤井祥矢, 大澤友裕, 平手友章, 神田香織, 舘 知也, 水井貴詞, 篠田邦大, 笠原千嗣, 安田昌宏.
CADD-Legacy®ポンプを用いた blinatumomab 在宅投与移行プログラムの検討.
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023, 2023 年 11 月 12 日 (名古屋) .

勅使河原裕大, 舘 知也, 田中和秀, 宍戸正昂, 野口義紘, 水井貴詞, 寺町ひとみ, 安田昌宏, 吉村知哲, 笠原千嗣.
がん化学療法を受ける悪性リンパ腫患者の不安が副作用および生活の質に及ぼす影響.
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023, 2023 年 11 月 12 日 (名古屋) .

宍戸正昂, 野口義紘, 舘 知也, 吉村知哲.
日本の自発報告データベース (JADER) を用いた DPP-4 阻害薬の有害事象発現における男女差の解析.
第 33 回日本医療薬学会年会, 2023 年 11 月 3-5 日 (仙台) .

横井杏菜, 堀 英生, 水野正子, 水野紀子, 浅井治行, 山田葉子, 三宅宏季, 石川友康, 供田将志, 菊池千草, 鈴木 匡.
薬剤師と多職種間の在宅報告書のカテゴリ分析による情報共有の活性化に関する調査研究.
第 33 回日本医療薬学会年会, 2023 年 11 月 3-5 日 (仙台) .

田口りか, 堀 英生, 供田将志, 神保美紗子, 浅井治行, 間瀬定政, 白川菜由, 大澤伸夫, 長谷川照恭, 鈴木 匡.

薬局・病院による使用済み医薬品 PTP シートリサイクル実効性の検証.

第 33 回日本医療薬学会年会, 2023 年 11 月 3-5 日 (仙台) .

田中和秀, 舘 知也, 井上誠二, 安田昌宏, 水井貴詞, 笠原千嗣.

悪性リンパ腫患者におけるがん化学療法の医療経済的検討.

第 61 回日本癌治療学会学術大会, 2023 年 10 月 19-21 日 (横浜) .

堺 陽子, 岩尾岳洋, 松永民秀, 長田茂宏.

ヒト凍結肝細胞を用いた短期間で毛細胆管を形成する培養法の確立.

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会, 2023 年 10 月 14 日 (神戸) .

武田涼馬, 森下 匠, 堀 英生, 坂下真大, 岩尾岳洋, 松永民秀.

ヒト iPS 細胞由来動脈様血管内皮細胞の炎症ストレス応答性の評価.

第 11 回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 2023 年 9 月 3 日 (神戸) .

齊藤将之, 中島義人, 市原利彦.

薬剤師との連携による救急外来における薬剤関連インシデント数の減少効果.

第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2023 年 7 月 28 日 (東京) .

田口りか, 寺島純一, 堀 英生, 鈴木 匡.

プロトコールに基づく病院薬局連携による心不全患者 2 週間間隔フォローの実践検証.

医療薬学フォーラム 2023 第 31 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2023 年 7 月 22 日 (山形) .

邹 庆香, 白井晃太郎, 岩尾岳洋, 松永民秀.

ヒト iPS 細胞由来小腸上皮細胞を用いた二糖分解酵素の活性評価.

合同会社メドテックコンサルティング創業記念学術集会, 2023 年 7 月 3 日 (東京) .

北村瑞基, 岩尾岳洋, 松永民秀.

小腸-肝臓 2 臓器連結デバイス (MS-plate) を用いた医薬品相互作用の評価系の構築.

合同会社メドテックコンサルティング創業記念学術集会, 2023 年 7 月 3 日 (東京) .

竹内規晃, 西川斗偉, 坂下真大, 岩尾岳洋, 常喜祥子, 広瀬賢一, 山中 誠, 小柳 博, 畠山健治, 松永民秀.

ヒト iPS 細胞由来脳毛細血管内皮細胞を用いた BBB-on-a-chip の開発.
合同会社メドテックコンサルティング創業記念学術集会, 2023 年 7 月 3 日 (東京) .

山崎奈穂, 若林 彰, 繁定啓司, 今倉悠貴, 諸橋康史, 望月清一, 岩尾岳洋, 松永民秀, 遠藤
撰, 加藤 寛.

嫌気性腸内細菌とヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞 (F-hiSIEC) の共培養における相互機能評価.
第 27 回腸内細菌学会学術集会, 2023 年 6 月 27 日-28 日 (東京) .

岸 杏澄, 野口義紘, 舘 知也, 井口和弘, 寺町ひとみ.
薬局における災害時のための医薬品の備蓄状況のアンケート調査.
日本医療薬学会第 6 回フレッシュャーズ・カンファレンス, 2023 年 6 月 11 日 (京都) .

中井佳穂, 佐藤寛之, 坡下真大, 岩尾岳洋, 松永民秀.
ヒト iPS 細胞を用いた血液脳関門モデルの作製とトランスポーター機能の評価及び改善.
幹細胞を用いた化学物質リスク情報共有化コンソーシアム 2023 年度年会, 2023 年 6 月 2 日 (東
京) .

竹内正義, 逆井 (坂井) 亜紀子, 高田尊信, 郡山恵樹, 古川絢子, 瀧野純一, 長嶺憲太郎, 堀 隆
光, 菊池千草, 堀 英生, 岩尾岳洋, 松永民秀.
ヒトの健康に対する Toxic AGEs (TAGE) の影響.
日本薬学会第 143 回年会, 2023 年 3 月 25-28 日 (札幌) .

佐藤寛之, 山下美紗季, 坡下真大, 岩尾岳洋, 松永民秀.
ヒト iPS 細胞由来脳毛細血管内皮細胞を用いた血液脳関門モデルにおける機能性評価.
日本薬学会第 143 回年会, 2023 年 3 月 25-28 日 (札幌) .

竹内規晃, 山下美紗季, 坡下真大, 岩尾岳洋 常喜祥子, 広瀬賢一, 山中 誠, 小柳 博, 畠山健
治, 松永民秀.
ヒト iPS 細胞由来脳毛細血管内皮細胞を用いた BBB-on-a-chip の開発.
日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 25-28 日 (札幌) .

蓑輪華子, 白井晃太郎, 岩尾岳洋, 松永民秀.
薬物動態評価を目的としたヒト iPS 細胞由来小腸上皮細胞分化法の改良.
日本薬学会第 143 回年会, 2023 年 3 月 25-28 日 (札幌) .

今井優里, 小川 勇, 岩尾岳洋, 松永民秀.

乳酸菌とヒト iPS 細胞由来腸管細胞との共培養系の確立.

日本薬学会第 143 回年会, 2023 年 3 月 25-28 日 (札幌) .

横井杏菜, 吉永千裕, 水野正子, 水野紀子, 浅井治行, 山田葉子, 三宅宏季, 石川友康, 供田将志, 菊池千草, 堀 英生, 鈴木 匡.

薬局から他職種への在宅支援情報データ解析による薬剤師情報提供の有用性に関する考察.

日本薬学会第 143 年会, 2023 年 3 月 25-28 日 (札幌) .

5 科学研究費等補助金

科学研究費

研究種目	研究課題 / 領域番号	研究代表者	職名 (採択時)	期間開始 日	期間終了 日	4年度配 分額	研究課題名
新学術	21H00290	川口充康	講師	20210401	20230331	2,000,000	プロテアソーム分解過程可視化蛍光プローブの開発と新規プロテアソーム阻害剤の探索
基盤研究(A)	19H01017	加藤晃一	教授	20190401	20230331	8,100,000	先端計測アプローチの統合による抗体の構造動態と機能発現の関連機構の解明
基盤研究(B)	20H03255	白根道子	教授	20200401	20230331	5,070,000	オルガネラコミュニケーションの破綻による神経変性疾患の発症機構
基盤研究(B)	20H03369	樋口恒彦	名誉教授	20200401	20230331	5,070,000	ポルフィリン関連分子の医薬科学への多様な応用に関する研究
基盤研究(B)	20H03384	服部光治	教授	20200401	20230331	5,590,000	精神疾患の理解と治療を志向した、分泌タンパク質リーリンの基礎および応用研究
基盤研究(B)	21H02406	星野真一	教授	20210401	20250331	4,160,000	外来性ウイルス RNA を分解する生体防御機構の全容解明
基盤研究(B)	21H02529	桑和彦	教授	20210401	20240331	5,460,000	ショウジョウバエの睡眠覚醒制御機構の新規側面の解明
基盤研究(B)	21H02625	矢木宏和	准教授	20210401	20250331	5,070,000	糖転移酵素の局在と基質タンパク質の選別輸送による糖鎖修飾プログラムの解明
基盤研究(B)	21H02650	井上靖道	准教授	20210401	20240331	5,850,000	上皮間葉転換の生体内動態可視化によるがん転移の時空間的理解と新規治療法開発
基盤研究(B)	22H02787	山村壽男	教授	20220401	20250331	7,410,000	新規肺高血圧症治療薬を指向したイオンチャネル創薬
基盤研究(B)	22H02788	松永民秀	教授	20220401	20250331	5,720,000	腸と肝臓の臓器間相互作用(腸肝軸)in vitro モデルの構築とその評価

基盤研究(B)	22H02773	鈴木良明	講師	20220401	20260331	4,680,000	興奮転写連関による先駆細胞誘導を起点とした血管リモデリング発症機構の解明
基盤研究(C)	19K10537	和知野千春	研究員	20190401	20230331	780,000	小児領域の抗菌薬適正使用支援のための評価管理プログラムの開発と臨床実用化
基盤研究(C)	20K05752	家田直弥	講師	20200401	20230331	1,300,000	体外から制御可能な低エネルギー光ケージド化合物群の開発
基盤研究(C)	20K06744	富田淳	講師	20200401	20230331	1,840,000	ショウジョウバエ神経細胞における NMDA 受容体活性の測定に基づく睡眠要求の定量化
基盤研究(C)	20K07016	築地仁美	研究員	20200401	20230331	1,300,000	RNA 結合タンパク質量の増減による、筋萎縮性側索硬化症 ALS の治療法開発
基盤研究(C)	20K07017	肥田重明	教授	20200401	20230331	910,000	アレルギー疾患の病態形成に関与する常在細菌と自然免疫細胞応答の解析
基盤研究(C)	20K07034	岩尾岳洋	准教授	20200401	20230331	1,430,000	ヒト iPS 細胞から作製した腸管細胞を用いた消化管傷害の評価系の開発
基盤研究(C)	20K07051	河野孝夫	准教授	20200401	20230331	1,430,000	大脳皮質における時空間特異的なリーリン作用機構と意義の解明
基盤研究(C)	20K07052	林秀敏	教授	20200401	20230331	1,430,000	新規がん遺伝子候補分子TRB1の新たな発がんメカニズムに基づく抗がん剤の開発基盤
基盤研究(C)	20K07103	石内勘一郎	准教授	20200401	20240331	1,170,000	内生糸状菌のゲノム情報を活用した植物由来希少有用天然物の生合成研究
基盤研究(C)	20K07135	保嶋智也	講師	20200401	20230331	1,170,000	高尿酸血症から痛風発症へのトリガーとなる分子基盤の解明
基盤研究(C)	20K07159	湯浅博昭	教授	20200401	20230331	1,300,000	新規ポリアミントランスポーターの機能及び生理的役割の解明
基盤研究(C)	20K07160	坡下真大	講師	20200401	20230331	1,560,000	ALS 患者 iPS 細胞由来ミクログリアを用いた炎症反応模倣 BBB 評価系の構築
基盤研究(C)	20K07203	尾関哲也	教授	20200401	20230331	1,560,000	多孔質 PLGA 粒子を用いたバイオ医薬品徐放プラットフォーム技術に

							関する研究
基盤研究(C)	20K08211	青山峰芳	教授	20200401	20240331	1,300,000	炎症細胞とグリアのクロストークによる新生児低酸素性虚血性脳症への新規低体温療法
基盤研究(C)	20K09583	堀田祐志	講師	20200401	20230331	910,000	光制御可能な NO ドナー「NORD-1」の難治性 ED への応用
基盤研究(C)	21K05008	山中淳平	教授	20210401	20240331	910,000	荷電コロイド粒子の交互積層によるダイヤモンド格子型フォトニック結晶の構築
基盤研究(C)	21K06458	中村精一	教授	20210401	20240331	1,300,000	生合成経路を模倣する生物活性メロテルペノイドの全合成研究
基盤研究(C)	21K06480	久松洋介	講師	20210401	20240331	1,690,000	水中でヘム高選択的な認識能を発揮する蛍光性人工レセプターの創製と応用
基盤研究(C)	21K06580	栗原裕司	助教	20210401	20240331	1,300,000	神経突起伸長因子 LOTUS の受容体同定と分子メカニズム解析
基盤研究(C)	21K06647	頭金正博	教授	20210401	20240331	1,430,000	ネットワークメタ解析手法を用いた新規抗リウマチ薬の有効性と安全性の比較
基盤研究(C)	21K07155	中津海洋一	講師	20210401	20240331	1,560,000	mTORC1 依存的液—液相分離制御によるがん促進機構の解明
基盤研究(C)	20K06520	鈴木詔子	研究員	20200401	20230331	1,300,000	α 4Gal 転移酵素はどのように基質の糖タンパク質／糖脂質部分を識別するのか？
基盤研究(C)	22K06532	梅澤直樹	准教授	20220401	20250331	1,300,000	側鎖構造をもつ新規ポリアミン型オリゴマーの固相合成と標的核酸との選択的結合
基盤研究(C)	22K07026	田中正彦	准教授	20220401	20250331	1,560,000	腸管グリア細胞は腸炎の新規治療標的となりうるか？
基盤研究(C)	22K06505	川口充康	講師	20220401	20250331	1,690,000	SIRT 脱ミリスチル化活性選択的阻害剤の開発と細胞機能の光操作
基盤研究(C)	22K06680	寺坂和祥	講師	20220401	20250331	1,690,000	代謝改変を指向したアリストロキア酸生合成の鍵酵素の同定
基盤研究(C)	22K07425	太田美里	研究員	20220401	20250331	1,170,000	大黃の修治による血流改善メカニズムの解明および漢方処方への応用
基盤研究(C)	20K06615	宇田川剛	准教授	20200401	20230331	1,300,000	新生ペプチド鎖品質管理機構の破綻による細胞死誘導機構の解明

挑戦的研究 (萌芽)	20K21722	鈴木匡	教授	20200730	20230331	2,080,000	薬局薬剤師による在宅支援情報の有効な活用方法開拓とシステム化推進のための実践検証
挑戦的研究 (萌芽)	20K21906	平嶋尚英	教授	20200730	20230331	1,560,000	リポソームと好塩基球を融合したハイブリッド分泌系の構築と細胞治療・DDS への展開
挑戦的研究 (萌芽)	21K19342	服部光治	教授	20210709	20230331	2,990,000	神経細胞の膜流動性を標的とする神経機能改善法の開発
挑戦的研究 (萌芽)	21K19343	鈴木良明	講師	20210709	20240331	1,690,000	血管平滑筋を主軸とした血管リモデリング新規形成機構の解明
挑戦的研究 (萌芽)	22K18650	大澤匡弘	准教授	20220630	20240331	2,500,000	意欲を生み出す脳活動の抽出と「やる気」を脇き立たせる大脳ネットワークモデルの構築
若手研究	20K16050	安部賀央里	講師	20200401	20230331	1,300,000	医療ビッグデータと機械学習を活用した薬剤性腎障害の予測手法の開発
若手研究	20K16083	三村佳久	研究員	20200401	20240331	130,000	前立腺がんの新規骨転移予測法の開発ー骨密度に着目した研究ー
若手研究	21K15230	秋山敏毅	助教	20210401	20230331	2,080,000	酸化的イソベンゾフラン発生法を機軸とする生物活性天然物合成
若手研究	21K15318	山城貴弘	助教	20210401	20230331	2,080,000	SLC19A3 の基質依存的輸送機能の分子機構と病態との関連性の解明
若手研究	21K15319	真川明将	助教	20210401	20230331	1,820,000	選択的 BRAF 阻害剤のポドサイト保護・毒性作用を決定付ける真の標的分子の同定
若手研究	21K16403	青木啓将	助教	20210401	20230331	2,340,000	
若手研究	22K15280	鈴木瑠理子	助教	20220401	20250331	1,170,000	戦略的な IgG 抗体加工テクノロジーを用いた新規アレルギー治療薬の開発
若手研究	22K15322	小川昂輝	助教	20220401	20250331	1,690,000	徐放性 DDS を応用した持効型 mRNA 医薬の開発と中枢神経系疾患への治療展開

若手研究	21K14616	池内和忠	講師	20210401	20230331	1,690,000	パラニン類に内在する特異的三環性骨格構築法の開発と全合成への展開
国際共同研究強化(B)	22KK0180	大澤匡弘	准教授	20221007	20270331	2,470,000	疼痛の慢性化を予防・改善する脳活動ネットワークの同定と治療への応用
学術変革領域研究(A)	21H05259	中川秀彦	教授	20210401	20260331	11,200,000	超硫黄分子 in-cell ケミストリーの確立とその生命科学研究への応用
学術変革領域研究(A)	22H05615	矢木真穂	講師	20220401	20240331	4,680,000	クマムシ由来メインタンパク質の分子ネットワークの実体解明
研究活動スタート支援	21K20725	堀英生	講師	20210401	20230331	1,560,000	ヒト iPS 細胞由来血管内皮細胞を用いた糖尿病性血管障害モデルの構築
特別研究員奨励費	20J23449	小林里帆	DC1	20200401	20230331	1,000,000	Sik3 による睡眠調節機構の解析
特別研究員奨励費	20J23566	石井圭介	DC1	20200401	20230331	800,000	海馬層構造の形成と維持に関わる新規メカニズムの解明と、その疾患治療への応用
特別研究員奨励費	20J23703	齋藤泰輝	DC1	20200401	20230331	1,000,000	Sik3 による睡眠調節機構の解析
特別研究員奨励費	21J15785	山下美紗季	DC2	20210401	20230331	800,000	疾患 iPS 細胞由来ミクログリア・内皮細胞を用いたハンチントン病の病態解明
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	20KC2010	頭金正博	教授	20200401	20230331	11,571,000	東南アジア地域で国際共同治験を計画する際の留意事項に関する研究

その他の研究補助金

【助成金等】

補助金等名称	有限会社しょうなんクリエイト
研究課題名	病院薬剤学分野(堀田祐志講師)における学術研究奨励のため
氏名	堀田 祐志
金額	1,500,000
補助金等名称	公益財団法人中富健康科学振興財団
研究課題名	口腔粘膜炎の疼痛緩和に向けた薬物イオン液体含有 3D プリントオーダーメイドフィルムの研究
氏名	田上 辰秋
金額	1,500,000
補助金等名称	公益財団法人薬学研究奨励財団
研究課題名	mTORC1 による液-液相分離制御の解析
氏名	中津海 洋一
金額	800,000
補助金等名称	公益財団法人日本応用酵素協会
研究課題名	分泌型メタロプロテアーゼ ADAMTS による神経機能制御
氏名	服部 光治
金額	500,000
補助金等名称	公益財団法人東洋医学研究財団
研究課題名	XBPI スプライシングを抑制する天然由来化合物の作用機序の解明と医療への作用
氏名	井上 靖道
金額	700,000
補助金等名称	公益財団法人東洋医学研究財団
研究課題名	生薬ハンゲの咽喉刺激通(イガイガ)発生および伝統的加工法による減毒機序の解明
氏名	笛木 司
金額	700,000

補助金等名称	公益財団法人東洋医学研究財団
研究課題名	辛夷清肺湯のムチン分泌抑制作用とその活性成分の探索
氏名	鈴木 俊章
金額	700,000
補助金等名称	大塚製薬株式会社
研究課題名	下部尿路機能障害モデルを用いた光応答性 NO ドナーの有効性の検討
氏名	堀田 祐志
金額	200,000
補助金等名称	公益財団法人政策医療振興財団
研究課題名	AUCに基づいたバンコマイシンの投与設計に対応した新規TDM支援ソフトの開発
氏名	堀田 康弘
金額	594,000
補助金等名称	公益財団法人政策医療振興財団
研究課題名	薬剤師による小児製剤の院内調製に有用な3Dプリンティング技術の研究
氏名	田上 辰秋
金額	662,000
補助金等名称	公益財団法人武田科学振興財団
研究課題名	低エネルギー光で制御可能なケージド化合物群の開発
氏名	家田 直弥
金額	3,000,000
補助金等名称	公益財団法人日本応用酵素協会
研究課題名	興奮転写連関を介した血管リモデリング形成機構の解明
氏名	鈴木 良明
金額	500,000
補助金等名称	バイエル薬品株式会社
研究課題名	大腸がん患者の腫瘍崩壊症候群の発症リスク因子解析と発症予測モデルの構築
氏名	堀田 祐志
金額	320,000

補助金等名称	公益財団法人持田記念医学薬学振興財団
研究課題名	医薬品の消化管吸収評価系としての二次元化腸管オルガノイドの開発
氏名	岩尾 岳洋
金額	3,000,000
補助金等名称	公益財団法人持田記念医学薬学振興財団
研究課題名	SLC19A3 の遺伝子変異に起因する疾患へのピリドキシンの関与の解明
氏名	山城 貴弘
金額	3,000,000
補助金等名称	公益財団法人市原国際奨学財団
研究課題名	mTORC1 による液-液相分離の摂動を介したシグナル伝達の研究
氏名	中津海 洋一
金額	500,000
補助金等名称	一般財団法人横山臨床薬理研究助成基金
研究課題名	痛風発症のトリガー機構解明に向けたトランスレーショナル型リサーチの展開 と治療薬の探索
氏名	保嶋 智也
金額	1,000,000
補助金等名称	公益財団法人中部科学技術センター
研究課題名	がん分子標的薬ベムラフェニブに関連した尿細管細胞死メカニズムの解明
氏名	真川 明将
金額	300,000
補助金等名称	株式会社パブリックリレーションズ
研究課題名	生薬学分野が行う「機能性食品メタボローム分析データベースの作成」に 関する学術研究奨励のため
氏名	牧野 利明
金額	100,000
補助金等名称	鳥居薬品株式会社
研究課題名	病院薬剤学分野における学術研究奨励のため
氏名	堀田 祐志
金額	100,000

補助金等名称	公益財団法人豊秋奨学会
研究課題名	mTORC1 による P-body 形成制御メカニズムの解明
氏名	中津海 洋一
金額	2,000,000
補助金等名称	日本化薬株式会社
研究課題名	病院薬剤学分野における学術研究奨励のため
氏名	堀田 祐志
金額	300,000
補助金等名称	公益財団法人小野医学研究財団
研究課題名	神経精神疾患における脳内脂質蓄積と炎症の関連機構
氏名	白根 道子
金額	2,000,000
補助金等名称	公益財団法人小林財団
研究課題名	小脳神経変性を悪化させる新規メカニズムの解明と、これを標的とする 治療法開発
氏名	服部 光治
金額	3,500,000
補助金等名称	大川原化工機株式会社
研究課題名	薬物送達学分野尾関哲也教授の学術研究奨励のため
氏名	尾関 哲也
金額	600,000
補助金等名称	公益財団法人日中医学協会
研究課題名	病態生化学分野(教授)における学術研究奨励のため
氏名	服部 光治
金額	600,000

【受託研究等】

補助金等名称 国立研究開発法人科学技術振興機構

研究課題名 体外から血流を光で操る分子技術の構築

氏名 家田直弥

金額 3,120,000

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名 ペプチド型中分子および核酸型中分子を病変細胞内に送達し、活性化する方法

氏名 梅澤直樹

金額 16,430,700

補助金等名称 株式会社 MTG

研究課題名 睡眠に関わる商品における研究

氏名 桑和彦

金額 3,000,000

補助金等名称 株式会社 明治

研究課題名 ショウジョウバエを用いた機能性(睡眠)素材のスクリーニング評価および機序解明

氏名 桑和彦

金額 1,100,000

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名 肺動脈性肺高血圧症に対する抗体医薬の探索

氏名 山村寿男

金額 10,010,000

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名 ジストログリカンの糖鎖伸長終結因子グリセロールリン酸による生理的調節機能とがん悪性化機構に関する研究開発

氏名 矢木宏和

金額 40,560,000

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名 ペプチド型中分子および核酸型中分子を病変細胞内に送達し、活性化する方法

氏名 梅澤直樹

金額 16,900,000

補助金等名称 国立大学法人大阪大学

研究課題名 高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発

氏名 鈴木匡

金額 3,662,000

補助金等名称 大学共同利用機構法人自然科学研究機構

研究課題名 分子中に秘められた新規相互作用部位の探査と改変を通じた次世代抗体創成の基盤構築

氏名 加藤晃一

金額 1,560,000

補助金等名称 国立大学法人北海道大学

研究課題名 間質性膀胱炎を標的とした新規治療薬の開発

氏名 堀田祐志

金額 2,450,000

補助金等名称 国立国際医療研究センター

研究課題名 B型肝炎ウイルスの排除を可能とするゲノム編集治療の実用化に向けた包括的な研究

氏名 星野真一

金額 26,000,000

補助金等名称 国立大学法人筑波大学

研究課題名 切除術不能再発がんを標的とした自然免疫系賦活剤の開発

氏名 川口充康

金額 2,150,000

補助金等名称 国立大学法人筑波大学

研究課題名 がん抑制遺伝子 p53 活性の増強による抗がん活性を狙った治療薬の創製

氏名 井上靖道

金額 2,150,000

補助金等名称 国立研究開発法人理化学研究所

研究課題名 細胞質糖鎖プロセッシング酵素および糖鎖認識タンパク質の構造解析

氏名 佐藤匡史

金額 6,851,000

補助金等名称 国立研究開発法人理化学研究所

研究課題名 翻訳異常の改善効果の検証のための神経変性疾患病態マウスの作出と飼育

氏名 築地仁美

金額 1,300,000

補助金等名称 国立大学法人熊本大学

研究課題名 イベルメクチンとその誘導体の抗 HBV 機序の解明および最適化されたイベルメクチン誘導体の開発

氏名 松永民秀

金額 2,600,000

補助金等名称 国立大学法人千葉大学

研究課題名 日本固有の本草書と漢方医薬学用語の英訳とデータベース化

氏名 牧野利明

金額 1,040,000

補助金等名称 国立研究開発法人産業技術総合研究所

研究課題名 ヒト iPS 細胞由来脳血管内皮細胞の開発と保存・輸送・品質管理方法の開発

氏名 坂下真大

金額 11,700,000

補助金等名称 (独) 日本学術振興会(JSPS)

研究課題名 二国間交流事業 (ソフトコロイド系の一方向結晶化と結晶-結晶相転移の研究)

氏名 山中淳平

金額 950,000

補助金等名称 国立大学法人筑波大学

研究課題名 製品化戦略に基づいた、国産MPSによる創薬プラットフォームの実証研究

氏名 松永民秀

金額 29,999,999

補助金等名称 国立食品衛生研究所

研究課題名 テンプレートシステムに基づくヒトのシトクロム P450 代謝予測モデルの汎用性向上

氏名 頭金正博

金額 990,000

補助金等名称 国立研究開発法人科学技術振興機構

研究課題名 アッセンブリー補助によるタンパク質の配置制御

氏名 矢木真穂

金額 5,200,000

補助金等名称 花王株式会社

研究課題名 腸管吸収及び体内動態に関する研究（コンサルティング）

氏名 松永民秀

金額 1,100,000

補助金等名称 任天堂株式会社

研究課題名 「目覚まし時計に関する研究」

氏名 桑和彦

金額 1,944,800

【名古屋市立大学 特別研究奨励費】

種別 外部研究資金獲得活性化事業

研究課題名 医療情報データベースと機械学習を融合した薬剤性腎障害の予測法の開発

氏名 安部賀央里

金額 900,000

種別 外部研究資金獲得活性化事業

研究課題名 ポドサイト特異的な細胞保護・毒性作用に関連する薬剤標的因子の同定

氏名 真川明将

金額 500,000

種別 外部研究資金獲得活性化事業

研究課題名 理・薬・医学を貫く先端光化学研究～基礎研究から臨床応用まで

氏名 中川秀彦

金額 2,340,000

種別 外部研究資金獲得活性化事業

研究課題名 神経終末における新規モノアミントランスポーターの同定と機能解析

氏名 保嶋智也

金額 640,000

種別 外部研究資金獲得活性化事業

研究課題名 難治性多発性骨髄腫患者に対する新規治療薬開発の非臨床研究

氏名 井上靖道

金額 4,200,000

種別 外部研究資金獲得活性化事業

研究課題名 ミトコンドリアダイナミクスによるグリア活性化メカニズムの解明と脳保護治療への応用

氏名 鳥内阜暉

金額 1,260,000

種別 外部研究資金獲得活性化事業

研究課題名 アミロイド形成の分子機構の解明

氏名 矢木真穂

金額 1,500,000

種別 外部研究資金獲得活性化事業

研究課題名 DNA メチル化状態に着目した神経芽腫に対する新規治療法の創出

氏名 青木啓将

金額 1,260,000

種別 外部研究資金獲得活性化事業

研究課題名 間質性膀胱炎治療薬の開発

氏名 堀田祐志

金額 1,260,000

種別 科学研究費獲得活性化事業

研究課題名 ヒトにおけるグリチルリチン酸の有用性および副作用

氏名 牧野利明

金額 750,000

種別 科学研究費獲得活性化事業

研究課題名 3D プリンター技術と異分野融合で加速する画期的医薬品のものづくり研究

氏名 田上辰秋

金額 1,050,000

種別 科学研究費獲得活性化事業

研究課題名 家庭性変異と環境摂動を利用したアミロイド繊維形成の自由エネルギー地形の俯瞰的調査

氏名 矢木真穂

金額 1,019,000

種別 科学研究費獲得活性化事業

研究課題名 黄色ブドウ球菌毒素の免疫細胞を標的とする新規生理活性の探索と予防と治療への応用

氏名 伊藤佐生智

金額 600,000

種別 科学研究費獲得活性化事業

研究課題名 Model-Informed Precision Dosing の概念に基づいた新しい投与設計に対応
できる TDM 支援ソフトの開発と臨床応用

氏名 堀田康弘

金額 310,000

種別 科学研究費獲得活性化事業

研究課題名 生体模倣システムを用いたメタボリックシンドローム病態血管モデルの開発

氏名 堀英生

金額 540,000

種別 科学研究費獲得活性化事業

研究課題名 Ataxin-2 の翻訳制御に基づく新たな神経変性疾患の治療戦略開発

氏名 稲垣佑都

金額 600,000

種別 科学研究費獲得活性化事業

研究課題名 プロテオミクス的手法でアロプリノール誘発特異体質性毒性の真のリスク因子を
同定

氏名 柴田侑裕

金額 310,000

種別 国際交流の推進事業

研究課題名 カルガリー大学との国際共同研究の推進と脳神経科学研究所国際シンポジウムの
開催

氏名 山村寿男

金額 500,000

種別 論文活性化事業

研究課題名 -

氏名 田上辰秋

金額 25,000

種別 論文活性化事業

研究課題名 -

氏名 尾関 哲也

金額 25,000

種別 論文活性化事業

研究課題名 -

氏名 桑和彦

金額 50,000

6 新聞報道等

(2022年1月から 2022年12月)

【新聞報道】

白根 道子

「神経研究により現代社会の問題解決を目指す！」

毎日新聞 2022年3月5日

白根 道子

「脂質蓄積による脳機能障害の原因メカニズムを解明」

時事メディカル 2022年11月26日

白根 道子

「脂質蓄積による脳機能障害の原因メカニズムを解明（神経変性疾患の新たな治療法開発に期待）」

日本の研究.com 2022年11月28日

白根 道子

「脂質分解系の不全で脳内脂質蓄積：神経変性疾患の原因に」

科学新聞 2022年12月23日

白根 道子

「脂質蓄積による脳機能障害の原因メカニズムを解明（神経変性疾患の新たな治療法開発に期待）」

科学新聞 2023年3月24日

Michiko Shirane

Lysosomal Acid Lipase Deficiency (LAL-D) "Novel Molecular Mechanism Implicated in Clearance of Cholesteryl Esters"

Rare disease advisor_221121

<https://www.rarediseaseadvisor.com/>

Suzuki Yoshiaki

"Understanding arteriosclerosis: How blood vessels restructure under pressure"

EurekAlert 2022年4月22日

Suzuki Yoshiaki

"How does hypertension trigger a signal pathway in blood vessels that can lead to arteriosclerosis?"

Kudos 2022年4月22日

鈴木良明

「動脈硬化を引き起こす新しいメカニズムの解明」

時事メディカル 2022年4月26日

加藤晃一、矢木真穂

科学の森：「熊」みたいな虫？ クマムシって？ 強い耐性、どこでも生息する微生物
毎日新聞（東京朝刊） 2022年2月17日

加藤晃一

ヒトの「糖鎖」解明で生命現象の全貌を知る 研究が始動

日本経済新聞 電子版 2022年3月23日

加藤晃一、矢木宏和

グリセロールリン酸が糖鎖の伸長を止めて、がん悪性化に関与している

時事メディカル 2022年6月20日

<https://medical.jiji.com/topics/2621>

加藤晃一、矢木宏和

名古屋市立大と自然科学研究機構、タンパク質分子の中に組み込まれた糖鎖修飾の制御
コードと言うべきアミノ酸配列を発見

日本経済新聞 電子版 2022年7月13日

https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP636412_U2A710C2000000/

加藤晃一、矢木宏和

たんぱく質分子の中に組み込まれた糖鎖修飾の制御コードを発見

～バイオ医薬品の開発にも貢献～

BtoB プラットフォーム 業界チャンネル

科学技術振興機構 2022年7月14日

<https://b2b-ch.infomart.co.jp/news/detail.page?IMNEWS1=3402762>

加藤晃一、矢木宏和

发现嵌入蛋白质分子中的糖链修饰的控制代码！也为生物医药品的开发做出贡献

360doc.com 个人图书馆 2022年7月17日

http://www.360doc.com/content/22/0717/09/8176916_1040165315.shtml

Koichi Kato

Molecular Code for Lewis X Makes Glycosylation Controllable

GEN (Genetic Engineering & Biotechnology News) 2022年7月27日

https://www.genengnews.com/topics/bioprocessing/molecular-code-for-lewis-x-makes-glycosylation-controllable/?oly_enc_id=4246E5814912F9X

加藤晃一、矢木宏和

タンパク質に組み込まれた糖鎖修飾の制御コード発見 バイオ医薬品の開発期待

科学新聞 2022年7月29日4面

加藤晃一、矢木宏和

名古屋市立大学等发现蛋白质内糖链修饰控制代码，有望用于生物药品开发

客観日本 2022年8月24日

https://www.keguanjp.com/kgjp_keji/kgjp_kj_smkx/pt20220824000001.html

Koichi Kato, Hirokazu Yagi

Discovery of regulatory code for glycosylation: Expectations for the development of biopharmaceuticals

サイエンス・ジャパン 2022年9月7日

<https://sj.jst.go.jp/news/202209/n0907-03k.html>

【受賞】

迫田凌太、石内勘一郎、吉野鉄大、小川恵子、南澤潔、渡辺賢治、並木隆雄、牧野利明
ヒトにおける甘草の副作用の発症を予測できる背景因子の探索

第39回和漢医薬学会学術大会 2022年8月28日 【優秀発表賞】

内山京香、太田美里、石内勘一郎、牧野利明

抑肝散と抑肝散加陳皮半夏各エキスのGABA_A受容体結合活性の比較

第39回和漢医薬学会学術大会 2022年8月28日 【優秀発表賞】

北野拓真

T細胞依存的な好塩基球のIgE刺激応答性亢進の分子メカニズム

日本薬学会第142年会 令和4年4月21日 【学生優秀発表賞(ポスター発表の部)】

生田現

樹状細胞分化における転写因子 IRF ファミリーの役割

第68回日本薬学会東海支部総会・大会 令和4年7月9日 【学生優秀発表賞】

伊藤佑真

令和3年度日本生化学会中部支部支部長賞 令和4年3月

石川怜

令和3年度日本生化学会中部支部支部長賞 令和4年3月

山田梨乃

令和3年度日本生化学会中部支部支部長賞 令和4年3月

伊藤佑真

ビフィズス菌への自然免疫応答の解析と治療応用

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2022 令和 4 年 11 月 6 日

【ベストプレゼンテーション賞】

山本洵

Functional analysis of dorsal lateral neuron on sleep regulation in *Drosophila melanogaster*

第 45 回日本神経科学大会/第 65 回日本神経化学大会/第 32 回日本神経回路学会大会, 2022 年 6 月 30 日, 沖縄 【ジュニア研究者ポスター賞】

中嶋雄哉、川口充康、家田直弥、中川秀彦

Sirtuin 脱アシル化活性を one step で検出可能な蛍光プローブ群の開発とその応用

日本薬学会第 142 年会, 2022 年 3 月 25-28 日、名古屋、26S-pm07S (オンライン開催) 【学生優秀発表賞】

古屋敷帆乃花、川口充康、家田直弥、中川秀彦

細胞膜透過型ペプチド性 SIRT2 阻害剤の開発と細胞障害性評価

第 68 回日本薬学会東海支部総会・大会, 2022 年 7 月 9 日、名古屋 【学生優秀発表賞】

中津海洋一

定量的リン酸化プロテオミクスによる mTOR 下流の大規模シグナル解析

第 3 回シロリムス新作用研究会 2022 年 10 月 1 日 (東京) 【奨励賞受賞者講演】

Taishi Kondo, Tomoaki Ishida, Ke Ye, Marin Muraguchi, Yohei Tanimura, Masato Yoshida, Kan'ichiro Ishiuchi, Tomoki Abe, Takeshi Nikawa, Keisuke Hagihara, Hidetoshi Hayashi, Toshiaki Makino
Suppressive effects of processed aconite root on dexamethasone-induced muscle ring finger protein-1 expression and its active ingredients *J. Nat. Med.* **76**, 594–604 (2022). 【令和 5 年度日本生薬学会論文賞】

石川 裕之、細田 直、稲垣 佑都、星野 真一

オリゴアデニル酸合成酵素 OAS による新規 RNA3'末端修飾と mRNA 代謝制御、第 95 回日本生化学会大会、2022 年 11 月 11 日 (名古屋) 【若手優秀発表賞】

倉田朋、鈴木良明、楯野真也、味八木茂、Elva Bernotiene、Wayne Giles、山村寿男

電位依存性 K⁺チャネル Kv1.6 による膜電位制御と変形性膝関節症の関係

第 141 回日本薬理学会近畿部会、2022 年 7 月 1 日 (オンライン) ; B1-6 【優秀発表賞】

川出有希子、山村彩、近藤るびい、鈴木良明、山村寿男
モノクロタリン誘発性肺高血圧症ラットにおけるコロソリン酸の作用
次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2022、2022 年 8 月 27 日（静岡）；
E-4 【優秀発表賞】

川瀬宗之、松田拓与、梅村悠太、大嶋智葉、大石久史、櫻井隆、服部光治
シナプスにおけるリン脂質フリッパーゼ ATP8A1/ATP8A2 の機能
日本薬学会第 143 年会、2023 年 3 月 26 日（札幌）【学生優秀発表賞】

徳永柊、梅村悠太、大嶋智葉、中島鼓美、大石久史、服部光治
リン脂質フリッパーゼ ATP8A1/ATP8A2 二重欠損マウスにおける、神経変性とグリア細胞活性化の分子機構
日本薬学会第 143 年会、2023 年 3 月 28 日（札幌）【学生優秀発表賞】

徳永柊、梅村悠太、川瀬宗之、中島鼓美、大石久史、服部光治
リン脂質フリッパーゼ ATP8A1/ATP8A2 二重欠損マウスにおける神経変性薬症の分子機構と、その治療法開発に関する研究
第 22 回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム、2023 年 9 月 8 日（福岡）【優秀発表賞】

原光輝、服部光治、河野孝夫
脳の層構造形成に必須である Dab1 の新規リン酸化メカニズム
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023、2023 年 11 月 12 日（名古屋）【ベストプレゼンテーション賞】

井上靖道
脱ユビキチン化酵素 USP17 は c-Myc タンパクの安定化を介して細胞増殖と解糖系を亢進する。
第 26 回日本がん分子標的治療学会学術集会、2022 年 6 月 30 日（金沢）【ポスター賞】

家田維哉、島田裕脩、坂部彩、頭金正博
副作用報告データベースを用いた直接経口抗凝固薬による中枢神経系出血性副作用に対するプロトンポンプ阻害薬併用の影響に関する解析
第 68 回日本薬学会東海支部総会・大会 2022 年 7 月 9 日（土）（名古屋）【学生優秀発表賞】

中森瑞季, 頭金正博, 片山早紀, 柴田侑裕, 楠本茂, 野坂生郷,³ 今泉芳孝, 末廣陽子, 宇都宮與, 上田龍三, 石田高司, 石塚賢治

モガムリズマブ投与患者における重篤な皮膚障害の発症に関連するバイオマーカーの探索研究

第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 JPW2022 2022 年 11 月 30 日(水)~12 月 3 日(土)(横浜)

【優秀演題賞】

7 進路および就職状況

大学院博士前期課程

卒業生	就職希望者 (有職者・自営業 含む)	就職決定者 (有職者・自営業 含む)	就職地域別										就職 未決定者	進学・その他			
			市内	県内	岐阜	三重	東京	大阪	その他	計							
			就職先業種別														
			A 農業・林業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		アルバイト・パート	0 (0)
			B 漁業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		大学院進学	6 (3)
			C 鉱業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		海外の大学・大学院進学	0 (0)
			D 建設業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		専門学校進学	0 (0)
45 (21)	39 (18)	39 (18)	E 1 食料品・飲料・たばこ・飼料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	国家資格等試験準備	0 (0)
			E 2 繊維工業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	(0)	公務員試験準備	0 (0)
			E 3 印刷・関連産業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		その他(進路未定を含む)	0 (0)
			E 4 化学工業・石油・石炭製品	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (6)	8 (3)	6 (1)	28 (12)				計	6 (3)
			E 5 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			E 6 汎用・生産用業務器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			E 7 電子部品・デバイス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			E 8 電気・情報通信機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		※別途、人数を集計してください	
			E 9 輸送用機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		既到有職者(現職継続)	0 (0)
			E 10 その他の製造業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		自営	0 (0)
			F 電気・ガス・熱供給・水道業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			G 情報通信業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			H 運輸業・郵便業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			I-1卸売業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)					
			I-2小売業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			J-1金融業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			J-2保険業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			K-1不動産取引・賃貸・管理業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			K-2物品賃貸業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			L-1学術・開発研究機関	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			L-2法務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			L-3その他専門・技術サービス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	1 (0)	0 (0)	4 (2)					
			M 宿泊業・飲食サービス業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			N 生活関連サービス業・娯楽業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			O-1学校教育	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			O-2その他の教育・学習支援業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			P-1医療業・保健衛生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)				
			P-2社会保険・社会福祉・介護事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			Q 複合サービス事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			R-1宗教	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			R-2サービス業(その他)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)					
			S-1国家公務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
			S-2地方公務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)					
			上記以外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)					
			計	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (11)	9 (3)	8 (2)	39 (18)						
			全体の地域別割合	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	48.7%	23.1%	20.5%	100.0%						
			女子の地域別割合	(11.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(61.1%)	(16.7%)	(11.1%)	(100.0%)						

8 在籍者名簿

名古屋市立大学院薬学研究科(薬学部)所属教員一覧

(2022年4月現在)

講座	分野	教授	准教授	講師	助教
医薬化学	薬化学	中川 秀彦		川口 充康 家田 直弥	
	精密有機反応学		梅澤 直樹	久松 洋介	
	薬品合成化学	中村 精一			秋山 敏毅
	機能分子構造学		池田 慎一		
生命分子薬学	生体超分子システム解析学	平嶋 尚英	田中 正彦		鈴木 瑠理子
	コロイド・高分子物性学	山中 淳平	奥菌 透 豊玉 彰子		
	生命分子構造学	加藤 晃一 (兼任)	矢木 宏和	矢木 真穂	
	分子生物薬学	白根 道子		中津海 洋一	栗原 裕司
	薬物送達学	尾関 哲也	田上 辰秋		小川 昂輝
医療分子機能薬学	生薬学	牧野 利明	石内 勸一郎	寺坂 和祥	
	衛生化学	肥田 重明	伊藤 佐生智		
	遺伝情報学	星野 真一			稲垣 佑都
	細胞分子薬効解析学	山村 壽男		鈴木 良明	
	病態生化学	服部 光治	河野 孝夫		
医療薬学	薬物動態制御学	湯浅 博昭		保嶋 智也	山城 貴弘
	病態解析学	青山 峰芳			青木 啓将 鳥内 皐暉
	細胞情報学	林 秀敏	井上 靖道	宮嶋 ちはる	
	神経薬理学	糸 和彦	大澤 匡弘	富田 淳	
	レギュラトリーサイエンス	頭金 正博		安部 賀央里	柴田 侑裕
	病院薬剤学			堀田祐志(兼務) 西出景子(兼務)	(特任助教)堀田康弘 (特任助教)真川明将
	臨床薬学	松永 民秀 鈴木 匡	岩尾 岳洋	坡下 真大 堀 英生	
	附属研究所 創薬基盤科学研究所				
連携大学院	腫瘍制御学 (県がんセンター研究所)	青木 正博 客員教授 小根山千歳 客員教授	藤下 晃章 客員准教授		
	加齢病態制御学 (国立長寿医療センター研究所)	飯島 浩一 客員教授	関谷 倫子 客員准教授		
	医薬品質保証学 (国立医薬品食品衛生研究所)	伊豆津健一 客員教授	安田 智 客員准教授		

	生命動態制御学 (自然科学研究機構)	青木 一洋 客員教授	奥村 久士 客員准教授		
	医薬品医療機器審査科学 (医薬品医療機器総合機構)	大澤 智子 客員教授			
	がん治療学 (公益財団法人がん研究会)	片山 量平 客員教授 丸山 玲緒 客員教授	清谷 一馬 客員准教授		

2022 年度大学院生名簿 (博士前期・博士後期課程)

(2022 年 4 月現在)

専攻	講座	学年 分野	博士前期課程		博士後期課程		
			1 年	2 年	1 年	2 年	3 年
創薬生命科学	医薬化学	薬化学	舘 実優	鳥居 志深 野中 美香 吉川 侑佳			
		精密有機反応学	東条 敦 LIU DIAN	加藤 舞子 林 優樹			
		薬品合成化学		瀧川 皓太郎 野口 公寛		安藤 龍志 小林 誠	
		機能分子構造学					
	生命分子薬学	生体超分子システム解析学	龍野 華	村井 洸士 山田 真季			
		コロイド・高分子物性学		平井 綾音 藤澤 貫平 山口 めぐみ		三木 裕之	
		生命分子構造学	中野 里音 保科 明	沈 佳娜 西村 誠司 山本 栞		梅澤 芙美子	齋藤 泰輝
		分子生物薬学		山本 敬太郎			
		薬物送達学	佐藤 一輝 鍋島 彩羽希 西 彩友美 FADILAH ASRIL	神谷 宝 恒川 勇太 HEMAT MOSTAFA KAMAL ATTIA ELSAYED			ALGHURABI HAMID SADEQ KHALEEL 高 名月 小松 美穂 LIU JIN 高橋 朋弘

専攻	講座	学年 分野	博士前期課程		博士後期課程		
			1 年	2 年	1 年	2 年	3 年
医療機能薬学	医療分子機能薬学	生薬学	湯 沛然 池島 智弥 小川 摩子 畔柳 見悠	YANG HUANGQIZI 王 慶源 日置 真太郎 満仲 安紀		LIU YAN	丁 科文
		衛生化学	河野 紗英 楨内 奈々				
		遺伝情報学	井上 匠 小森 太貴 日比野 真也	石川 裕之 中北 侑希 西井 由佳			
		細胞分子薬 効解析学	天野 泰樹 倉田 朋 松本 和幸	加藤 由納 川田 成紀 中島 七海		鈴木 茜	
		病態生化学	川瀬 宗之 原 光輝 LI MINQIAN	安藤 飛悠吾 梅村 悠太 大宅 真太郎			石井 圭介
	医療薬学	薬物動態制 御学	石牧 礼子 川本 彩果	難波 知堯 牧平 伊代			
		病態解析学	渡邊 友佳	加藤 里菜 福田 直哉			
		細胞情報学	鈴木 裕陽 中垣 春奈	安達 晴喜 鯨井 千実			
		神経薬理学	磯部 一朗 山本 洵	酒井 皓介 西 風花 三宅 遼 GARIBAGAOLU RABIA	李 佳憶		

	レギュラトリーサイエンス 医薬品安全性評価学	青木 優佳 池田 侑己 立木 孝幸 LIU LINFENG	家田 維哉 伊藤 潤 片山 早紀 中森 瑞季			八木 聡美
	病院薬剤学	海老原 大希				早川 優子
	臨床薬学	佐藤 寛之 ZOU QINGXIANG	岩崎 萌実 深谷 壮弥		今倉 悠貴 寺島 純一 水野 翔太 RAGHDA MOUSTAFA ABDELFATTAH IBRAHIM SHAHIN	坂本 栄 中西 杏菜 TSEDENBAL NARANTUYA 小川 勇
連携大学院	腫瘍制御学					
	加齢病態制御学					山城 梨沙 近松 幸枝
	医薬品質保証学					
	生命動態制御学					
	がん治療学					

2022 年度大学院生名簿 (博士課程)

(2022 年 4 月現在)

専攻	講座	学年 分野	博士課程				非正規生
			1 年	2 年	3 年	4 年	
創薬生命科学	医薬化学	薬化学			齋藤 大介		
		精密有機反応学					
		薬品合成化学					
		機能分子構造学				坂崎 美香	
	生命分子薬学	生体超分子システム解析学	山本 彩加		大倉 宇海		
		コロイド・高分子物性学		藤田 みのり			
		生命分子構造学	SHIM JINBO				
		分子生物薬学					
		薬物送達学			諏訪部 晋	後藤 瑛一	
医療機能薬学	医療分子機能薬学	生薬学		迫田 凌太			
		衛生化学	石川 怜 伊藤 佑真			森川 ありさ 北野 拓真	
		遺伝情報学					
		細胞分子薬効解析学		藤原 萌園	澤井 優輝	稲垣 奏 川出 有希子	
		病態生化学					
	医療薬学	薬物動態制御学		間竹 勇		秋野 翔伍	
		病態解析学		泉 和弥		大塚 勇斗	
		細胞情報学			長坂 真衣	徳川 宗成	
		神経薬理学	古川 稜	渡邊 僚介		稲波 千尋 小林 里帆	
		レギュラトリーサイエンス 医薬品安全性評価学				渡邊 崇	
		病院薬剤学			川田 龍哉	長水 正也 森 泰毅	
		臨床薬学			白井 晃太郎	野田 雅人 山下 美紗季	

連携 大学院	腫瘍制御学		西口 緑		三谷 文美絵	
	加齢病態制御学					
	医薬品質保証学					
	生命動態制御学					
	がん治療学					

令和4年度 卒業研究実習研究室配属

分野	薬学科			生命薬科学科	
	4年	5年	6年	3年	4年
薬化学	192012 大森 神瑠	182043 平松 理希	162051 古屋敷 帆乃花 172060 吉野 克利	202536 皆見 祥平 202539 森山 響 202542 吉川 旺佑	192504 泉 遼 192512 小澤 遼 192540 平尾 景尚
精密有機反応学			152009 上松 昌幸 172034 都築 優斗	202502 荒川 主真	192535 鳥山 剛 192541 廣瀬 拓
薬品合成化学	192063 宮地 桐斗	182037 中村 美菜	172001 阿部 玲士	202507 大野 美空	192530 田畑 愛美
機能分子構造学					
生体超分子システム解析学	192007 乾 航志 192024 後藤 慎平 192050 橋本 昇輝	182001 飯田 颯人 182039 丹羽 太陽 182044 藤井 祐花 182050 南野 恵里	162054 松浦 哉太 172010 大崎 康太 172024 小笹 稜 172026 鷺崎 加奈 172048 山岡 涼介	202527 西野 瑞基	192510 小笠原 有那
コロイド・高分子物性学	192009 上西 優実花 192031 佐藤 美月 192043 中村 有里 192057 増田 夏海	182038 中吉 悠翔 182048 松尾 彩美 182058 森 優月 182059 山内 一輝	172008 内山 遼太郎 172036 土井 眞帆 172039 濱中 麻菜	202518 竹内 麻有	192513 川瀬 健太 192528 竹本 満里菜 192529 田代 耀
生命分子構造学	192039 富田 晃平	182004 犬塚 健剛	172018 金山 大地	212601 西崎 竜平	192526 高木 克樹
分子生物薬学	192006 石渡 友紀乃 192015 奥田 和奏 192065 森杉 優美 192066 渡口 莉絵	182003 石本 晴揮	172021 北野 ひかり 172046 光成 琴音	202533 眞木 穂香	192543 向江 風
薬物送達学	192017 加藤 瑤子 192019 川崎 叶也 192032 澤矢 真希 192047 西山 侑	182020 佐々木 美緒 182045 PAE HEEJU 182047 益留 未来哉 182061 鷺尾 拓洋	172005 井口 海 172009 海野 桃加 172012 大場 万由 172042 廣間 彩花	202514 新海 斗馬 202537 三宅 慧 202541 山下 凜	192506 上田 峻 192527 竹沢 香穂 192534 十時 拓大
生薬学	192010 上原 風花 192056 本田 智也 192062 宮崎 透	182002 石井 脩斗 182010 大山 真優 182025 高嶋 柚衣 182032 遠山 奈歩	172007 内山 京香 172025 島 凜太郎 172059 吉野 蒼生	202525 成田 虎之介	192538 能瀬 逸紀
衛生化学	192008 岩田 陸人 192023 古小路 隼也 192029 笹野 和希 192035 多田 陵太郎	182033 永井 智希 182040 野田 千咲 182055 向井中 玲菜 182056 村瀬 香乃	152036 田中 友理 172004 生田 現 172030 竹森 樹梨	202509 桐山 陽菜 202523 茶納 沙希	192521 榑原 悠 192532 戸川 果歩
遺伝情報学	182015 黒田 真以	182017 古賀 美咲 182024 高岸 優太	172033 柘植 泰希 172049 山崎 愛恵 172054 遊佐 紅音	202504 池田 遥菜 202516 鈴木 純 202538 向山 凌雅	192511 小川 慧真 192514 北野 智也 192523 志柿 暢彦
細胞分子薬効解析学	192001 浅井 美后 192011 大友 貴子 192052 檜皮 ゆかり 192064 森 鈴菜	182011 岡田 一希 182036 中浜 光哉	162058 道上 七帆 172002 安藤 駿佑 172011 太田 実奈 172015 小川 璃子	202508 岡野 晴佳 202510 葛原 響 202520 田邊 晴也	192517 小井手 司 192525 関根 大雅

病態生化学	192003 安東 洋佑 192034 高山 貫生 192051 林原 健将 192055 星合 彩那	162019 五反田 逸孝 182021 佐藤 萌音 182053 宮田 識園 182057 廻 ひとみ 192101 中川 育磨	162019 五反田 逸孝 172029 竹腰 祐斗 172032 谷口 愛理 172045 松田 拓与	202512 佐々 徳啓	192505 伊東 里彩 192533 徳永 柊 192542 松村 悠己
薬物動態解析学	192004 石原 拓馬 192014 小川 優夏 192018 金丸 緋奈多 192058 松原 綾佑	182012 小幡 真由 182013 河原崎 南帆 182034 長友 今日佳 182054 宮本 綾乃	172028 高見 華奈 172031 谷内 夏月 172053 山本 道弘	202534 松井 快人	192515 北村 拓馬 192524 澁谷 玲衣 192546 森本 遥香
病態解析学	192005 石山 真実 192028 坂根 雅 192060 水野 早季子	182026 高田 繁 182049 道廣 幹斗 182052 三本 里奈	172013 大前 幾美 172014 大脇 礼名 172052 山田 恵理	202517 鈴木 悠花 202530 平山 真大	192502 天野 歩 192519 近藤 リリ
細胞情報学	192042 中村 和 192046 成瀬 健 192053 藤井 くるみ	182005 今井 悠莉 182031 鶴見 建斗 182046 牧原 大	172017 加藤 百恵 172038 中西 優菜 172043 深見 太基	202531 藤原 巧斗 192536 中川 愛理	192539 橋口 咲良 192547 山中 翔悟
神経薬理学	192025 近藤 里菜 192036 竜田 晃佑 192041 中曽根 美奈 192049 橋本 昇一	172050 山下 裕子 182018 小西 紗菜	162056 松村 兼吾 172016 加藤 遥輝	202501 天藤 七海 202505 太田 凜果 202513 島 波輝	192501 青野 萌子 192507 江上 涼 192518 小塚 康平
医薬品安全性解析学	172047 三宅 真生 192038 徳永 朱莉 192061 光山 菜々美	182007 榎波 多真奈 182008 大西 真由 182014 木下 啓 182042 濱上 敦史	172035 土井 更良 172056 吉井 優花	202515 鈴木 孝太郎	192531 出来 佑都 192545 村崎 亘
病院薬剤学	192013 岡田 紋佳 192048 口田 圭紀	182009 大山 享也 182027 高森 雄貴 182041 野田 みすず	172022 久保敷 麗良 172023 熊澤 里歩	202511 小林 ティモシ ィ哲郎	
臨床薬学教育研究 センター	192016 梶田 知江 192022 黒岩 淳志 192026 酒井 涼介 192033 清水 佑華 192040 中井 佳穂 192045 名取 美咲	182006 今井 優里 182028 田口 りか 182029 竹内 規晃 182030 武田 涼馬 182051 蓑輪 華子 182060 横井 杏菜	172019 兼田 佳果 172020 上村 咲菜 172027 鈴木 祐太 172044 藤井 優里菜 172058 吉永 千裕 172061 吉見 和奏	202524 中井 孝明 202526 西川 斗偉	192516 北村 瑞基
【医】ウイルス学 (奥野先生/松永先生)					192503 荒井 陽人
【医】神経発達・ 再生医学 (澤本先生/服部先生)				202529 原 悠都樹	192520 斎藤 明里
【医】実験病態 病理学 (高橋先生/青山先生)					192544 村上 明寛
【医】病態モデル医学 (大石先生/肥田先生)	192054 藤田 翼				
【医】認知症科学 (齋藤先生/糸先生)				202503 飯田 琢斗	

2022 年度研究員名簿

許可 NO.	配属分野	氏名
1	生体超分子システム解析学	樋口 恒彦
2	病態生化学	方 衡
3	薬化学	王 思允
4	生薬学	新谷 円華
5	細胞分子薬効解析学	近藤 るびい
6	病態生化学	築地 仁美
7	コロイド・高分子物性学	石川 達也
8	生体超分子システム解析学	井上 悠
9	生体超分子システム解析学	足立 浩章
10	生体超分子システム解析学	宮地 克真
11	生命分子構造学	平松 佳永
12	生命分子構造学	千田 紀代美
13	生命分子構造学	服部 久美子
14	生命分子構造学	谷中 冴子
15	生命分子構造学	関口 太一郎
16	生命分子構造学	佐藤 匡史
17	生命分子構造学	鈴木 詔子
18	薬物送達学	野田 剛弘
19	薬物送達学	福重 香
20	生薬学	太田 美里
21	生薬学	趙 伯陽
22	生薬学	大渡 勝史
23	生薬学	笛木 司
24	生薬学	小西 徹
25	生薬学	牧 靖人
26	遺伝情報学	山本 肇
27	細胞分子薬効解析学	郭 皎
28	薬物動態制御学	石黒 雅江
29	薬物動態制御学	山本 俊輔
30	病態解析学	小泉 恵子
31	病態解析学	後藤 洋
32	病態解析学	垣田 博樹
33	病態解析学	竹下 覚
34	細胞情報学	中田 佳宏
35	細胞情報学	吉田 康子
36	神経薬理学	歌 大介
37	衛生化学	西山 彩史
38	生薬学	鈴木 俊章
39	病院薬剤学	片岡 智哉

40	病院薬剤学	三村 佳久
41	病院薬剤学	中村 大学
42	病院薬剤学	和知野 千春
43	病院薬剤学	近藤 祐樹
44	病院薬剤学	竹内 まどか
45	病院薬剤学	長水 正也
46	病院薬剤学	野村 有紀
47	病院薬剤学	小田切 州広
48	臨床薬学	齊藤 将之
49	臨床薬学	供田 将志
50	臨床薬学	Baatar Bolormaa
51	臨床薬学	竹内 友里
52	臨床薬学	矢後 拓己
53	臨床薬学	北口 隆
54	臨床薬学	美馬 伸治
55	病態解析学	野村 知宏
56	臨床薬学	成富 稔彦
57	臨床薬学	栗原 弘幸
58	神経薬理学	Austin M Ganaway
59	神経薬理学	Esperanza Vazquez
60	薬物送達学	Jayita Das
61	生薬学	東郷 俊宏
62	生命分子構造学	神田 智哉

教員採用・昇任・退職

区分	分野	補職名	氏名	辞令年月日	前職・移動先等
採用	病態解析学	助教	鳥内 皐暉	R4.4.1	名市大博士修了
採用	生命分子構造学	講師	矢木 真穂	R4.4.1	自然科学研究機構生命創成探究センター 助教
採用	遺伝情報学	准教授	宇賀川 剛	R4.7.1	東北大学大学院薬学研究科 助教
採用	細胞分子薬効解析学	助教	近藤るびい	R4.7.1	名市大博士修了（東部医療センター薬剤部）
採用	薬品合成化学	講師	池内 和忠	R4.8.1	北海道大学大学院理学研究院 助教
昇任	分子生物薬学	助教	中津海洋一	R4.6.1	講師→准教授
昇任	精密有機反応学	教授	梅澤 直樹	R4.11.1	准教授→教授
退職	薬品合成化学	助教	秋山 敏毅	R4.7.31	大阪大学薬学部特任助教採用
退職	分子生物薬学	助教	栗原 裕司	R5.3.31	島根大学医学部助教採用
退職	神経薬理学	准教授	大澤 匡弘	R5.3.31	帝京大学薬学部教授採用

職員[2022年4月1日現在]

総合機器分析施設

衛生技師 : 岩澤 加奈

特定技術職員 : 加藤 節子

薬学部事務室

事務長 : 水野 幹夫

学務係長 : 靱山 智則

主事 : 佐々木 綾、浅井 希美

事務系職員: 鶴岡 文代, 小川 万理絵, 相馬 恵子

総合情報センター田辺通分館-薬学部

分館長: 星野 真一(遺伝情報学分野教授兼務)

司書: 吉根 佐和子

事務系職員: 河村 紫乃子, 末原 楓

職員の異動

異動:林 香里 (2022年4月1日転出→学術課へ)

杉原 裕子(2022年4月1日転入←医学・病院管理部医事課より)